

皇族は 強姦叔人魔(術)

山を愛する霊覚者・たきざわ彰人一自伝

僕(たきざわ彰人)
靈体
ハクチの空氣感

守護靈様
真実の母
導きのプロ

皇族は
強姦叔人魔



※こちらは「試し読み」の、サービスPDFとなっております。

冒頭の「第2章」のみを掲載しています。

「第3章」「第4章」「第1章」は、Amazonペーパーバックを
ご購入の上ご覧下さい。

※告知文を挿入した関係で、目次のページ数が2ページずつ
増えていますが、内容は書籍と同じです。ご了承下さい。

皇族は強姦殺人魔

山を愛する靈覚者・たきざわ彰人 - 自伝



「声が聞こえる！ これは何なんだ！？」



部屋をグルグル見渡します。その時、僕は部屋でひとりでPCに向かって画家作品を描いていたのです。僕以外に誰もいません。しかし誰かが話しかけてくる声がハッキリ聞こえるのです。

それが誰であるか、何であるかも分からいま、僕は反射的に床のフローリングにひざまずき、額をこすりつけたのでした。

この時の僕は、この先、靈団によって人生をズタズタに破壊される事になるなど、知る由もなかったのでした…。



まえがき

「ドリームワーク（画家活動）」と「深夜の山行」ふたつの修業

日の出4~5時間前にスタートして、ヘッドライト、ハンドライトの明かりのみを頼りに暗黒の樹林帯をガンガン上っていきます。

そして日の出前、もっとも気温が低い時間帯に、その日のコースの中でもっとも標高が高いポイントで全身に冷たい風を浴びながら撮影を敢行する。

これが、僕が霊性発現前からずっとおこなっている山行のおおまかな様子ですが、この山行と並行してもうひとつ、ドリームワークと称した「画家活動」をおこなっていました。

ただ絵を描いていたのではなく、現時点の自分に表現できる限界の限界まで徹底的にクオリティを高めて絵を描く、という負荷を自分に課しての画家活動で、その描画は過酷を極めました。

この「ドリームワーク（画家活動）」と「深夜の山行」というふたつの修業を同時に自分に課した生活を送った事で、僕の靈格が急速に高まった、という事なのでしょうか。

すべてが「????」の、突然の霊性発現

忘れもしない、部屋で画家作品を描いていた2012年6月、この時は確か41作を描いていた時だったと思いますが、何の前触れもなく僕は「霊性発現」を果たしてしまいます。靈力に感応できるようになってしまったという事です。

とにかく声が聞こえるのです、部屋に誰もいないのに話しかけられるのです。それが誰なのか分かりません。部屋にいる時も、外にいる時も、何をし

ている時でも全く関係なしに声が聞こえます。

その時はまだ「靈聽（れいちょう）」という言葉さえ知りませんでしたので、ただただ毎日「自分に何が起こっているんだ？」と狼狽（ろうばい）するばかりでした。

本書の構成について

はい、これから僕の靈的体験談を可能な限り詳細に語らせて頂きますが、それにあたって「本書の構成」を考えてみました。

僕は幼少時から靈能を発揮したとか、生まれながらに靈的能力を有しているとか、そういう事では全くなく、ただ絵の才能を賦与されただけの少年であり、靈的な事とは一切無縁の人生を送ってきました。

ですので、靈性発現前の様子について詳細に語っていると、いつまでたっても靈的事象の説明が出てこない、という本末転倒の事態になります。

確かに靈性発現前の様々な生活習慣の中に、靈性発現につながったと思われる重要なファクターが複数存在するのですが、皆さまは靈的な内容をお読みになりたくてこの書籍を手に取って下さったものと思われますので、順番を変える事にしました。

まず「靈性発現直後」の様子から入り「使命遂行開始以降の様子」さらに「近々の靈団の導きの方向性」と、靈的内容を順次紹介して、最後に靈性発現前の様子を説明する、という変則的シフトを取る事としました。

人間は潜在的に全員が靈能者なのです

靈性発現は夢物語ではありません。【神】は人間全員に「神性の火花（つまり靈性のタネ）」を与えて下さっています。つまり潜在的には人間全員が靈能者という事なのです。

もちろん皆さまもそうです。ただ物質界生活者のほとんどが、その植えられた靈性のタネが開花する事なく、気付く事さえなく人生を終えているというだけで、タネがある事自体は間違いないのです。

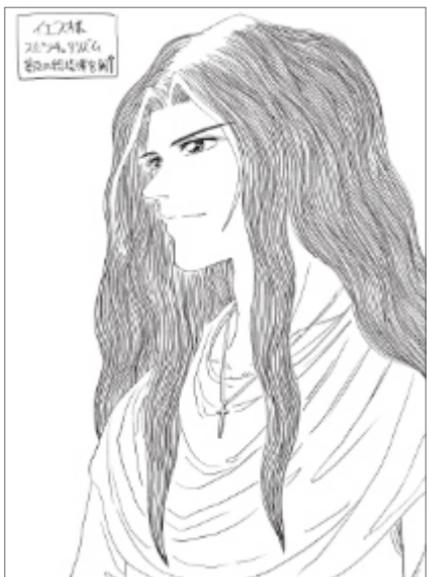
ですので僕の靈的体験談を知って頂く事が、皆さまの靈性発現の実現につながる事だってあると思うのです。もっとも、靈的人間になった事が良い事だったかと言われると、僕の場合、正直返答に困ってしまうのですが…。

登場人物紹介



僕 (たきざわ影人 (アキト)) 霊体・肉体

山の麓に移住し、画家として一生を送り、生涯1000作品を描くと固く誓っていたのに、何がどうなっているのか靈性発現してしまい、靈的使命遂行の人生に突入させられる。



イエス様

信じられない事ですが、何度も顕現に浴させて頂いています。“人類の呪い”キリスト教がでっち上げたイエスではなく、スピリチュアリズム普及の総指揮官のイエス様です。



守護霊様

僕の幼少期から僕を正しい方向に導き続けてきた、僕の「真実の母」と言える存在。顔立ちが整いすぎていて、とても背が低い女性ですが、もちろんこれは本当の身長ではありません。



センナちゃん

実母が堕胎した、物質界人生を体験できなかった僕の妹。靈性発現によって初めて僕に妹がいる事を知ったのです。センナちゃんはとっても恥ずかしがり屋のカワイイ妹なのです。



香世子さん

僕の小学生時代のなかよしだった友達で靈性発現後に靈的に再会、そこで帰郷していた事を知る。僕の靈団メンバーではないと思われますが、よく幽体離脱時に登場してくれるのです。

ピーチピーチ（佳子、19~20歳当時）

一時期ピーチピチが変装して僕のいるコンビニに偵察にきていた事がありました。文仁は美人の赤ちゃんを盗んで「自分の娘」と宣言した、それがピーチピチ(佳子)なんですよ。全く血がつながっていない赤の他人なんですよ。



ももちゃん

靈団が教えてきた、邸内に閉じ込められている奴隸の女の子。その当時7歳で、何度もももちゃんのSOSを受け取っていましたが、もう間違なく殺されているはず、本当に許せません。

シルキー

ももちゃんの友達として僕がデザインしたキャラクター。僕が描き続けているストーリーの中ではももちゃんとツートップの主役級の扱い。シルキーも奴隸の女の子という設定。



目次



プロローグ 「声が聞こえる！これは何なんだ！？」	- P02
まえがき	- P04
登場人物紹介	- P08
第2章 霊性発現初期 毎日未知の靈現象を浴びせられる	- P33
「読み、それ読み」“かもめのジョナサン”守護靈様の長年の導きを知る	- P34
幼い時、常に目に留まるところに置いてあった「かもめのジョナサン」	- P34
オトナになって古本で入手したが読むまではしなかった	- P35
靈性発現後、指導靈の男性が「読み、それ読み」はあ？	- P35
「かもめのジョナサン、パート1」はドリームワークと全く同じと知る	- P37
つまり幼少時から「こういう風に生きなさい」と守護靈様に言われていた	- P38
いちばん最初の幽体離脱時映像が「センナちゃん」	- P39
人間全員が「毎日」幽体離脱しているんですよ	- P39
靈体での体験を肉体に持ち帰る事ができない	- P40
幽体離脱時の体験を正確に思い出す事ができる人間が靈能者	- P41
ものすごい照れ屋の女の子と学校の教室で会う	- P41
「紹介します、センナちゃんです♪」イヤ、知らないんですけど…	- P42
「お兄ちゃん♪」と言われてやっとセンナちゃんの事が分かった	- P43
「堕胎」は「殺人」です、正しい認識に到達しましょう	- P43
「小鳥に見つめられて」イエス様の初顕現	- P48
山で傷ついた小鳥を見つける	- P48
ハイカーから小鳥を守る	- P48
小鳥ちゃんをひとめのつかないところまで運ぶ	- P49
僕をじっと見つめる小鳥ちゃん。その表情が忘れられず…	- P50
この時、僕は何日も泣きまくった、涙が止まらなかったのです	- P51
この時「イエス様の顕現」があったのですが、最初は分からなかった	- P52
すると次はイエス様が満面の笑顔で顕現して下さり、完全に理解する	- P53
ノビタキちゃんは「僕が間もなく帰幽する」というメッセージだった	- P54
ノビタキちゃんが画家作品最後のモチーフとなってしまう	- P54
「帰幽カモン」と公言するようになった理由	- P57
靈性発現初期の頃はひたすら「帰幽カウントダウン」の状態だった	- P57

毎週、山で「今日こそ帰幽か?」と思って登攀していた	- P58
「交通事故よねえ」「そうだねえ」と思いっきり靈聽に言われる	- P58
帰幽を待ち望んで11時間ロングドライブした時もある	- P59
しかしそれから13年間、帰幽していない、その靈団の意図	- P61
長野駅で画家作品を展示しながら靈関連書籍を読みまくる矛盾	- P62
長野駅での画家作品展示での出来事	- P62
「カモン♪カモン♪」と外人指導靈に言っていた	- P63
数ヶ月集中して読み続けてまあまあの理解に到達した	- P64
「法悦状態」（僕が体験した限りにおいての）詳細解説	- P65
身体のアチコチでカチ、カチ、ヒスイッチが入るような感覚	- P65
実際は浮いてないんだけど、まるで全身が浮き上がっているような感じ	- P67
正味8ヶ月くらいこの法悦状態は続いた	- P68
森林限界をスピードハイクしながら体が宙に浮くようだった	- P68
地デジが映らなくなる。僕の法悦の靈力が電波妨害したのか?	- P69
工事現場の交通整理の人が無線が通じなくてパニクっていた、コレも僕か?	- P70
職場の男性が「おおお！何かワフワする！」法悦が伝播した瞬間	- P70
過去の靈覚者の「空中浮揚」は真実だと僕は思います	- P72
「パウロの波長」靈団の導きの威力を思い知らされる	- P73
トランス時に魅せられた映像「電源コード“ポイッ”」	- P73
ある時キレて近所の低山に走りに行った事がある	- P74
「パウロの波長」自分の心が“回心”させられた事がハッキリ分かった	- P75
「パウロの波長」と命名した意味	- P78
たきざわ彰人版「ジャック・ウェバーの靈現象」	- P80
ふとんの上で身体が180度回転していた、これが現象開始合図だった	- P81
僕が体験した物理的心靈現象は「寝袋離脱現象」	- P82
たきざわ彰人版「ジャック・ウェバーの靈現象」パート1	- P82
たきざわ彰人版「ジャック・ウェバーの靈現象」パート2	- P84
靈団がこのような現象を起こした意味	- P86
「撃って出る」靈的知識のツイートを開始する、ここから人生が狂い始める	- P88

もう物質界を離れるんだからやってしまえ、靈的知識のツイート開始	- P88
結構反響があって靈的知識が広がっていく実感があった	- P89
同時に攻撃、イヤガラセ等も受ける事になったが、僕は撃ち続けた	- P90
撃っても撃っても帰幽しない、帰幽すると思ったから撃って出たのに…	- P90
イエス様の怒涛の連続顕現	- P92
イエス様が何とも言えない表情で見つめてくる	- P92
ありとあらゆるアングルで様々なイエス様の顔が顕現される	- P93
この「イエス様の怒涛の連続顕現」は、1週間近く続いた	- P94
僕はなかなか首をタテに振れなかった	- P94
悩み抜いたあげくにご意志に従う事を声に出して宣言する	- P95
深夜の山で満月に向かって「イエス様ハンドリング」を誓った	- P96
何も分かっていなかった初期の頃。靈的な事を語ってヒドイ目に遭わされる	- P98
人に靈的な話をするはどういう扱いを受けるか、当時は全く知らなかった	- P98
クスリをやっているとか、ヒドい事を影でたくさん言われた	- P98
変人扱いされて、山でひとりで何度も泣いた	- P99
あの人があんな事を言っていると靈団に映像を見せられた事もある	- P100
この経験のおかげで口にはよくよく気を付けるようになった	- P101
ピーチピチ（佳子）探偵を雇う。奥多摩探偵撮影	- P102
奥多摩でトレイルラン、この頃は山で結構走っていた	- P102
走って駐車場にゴールすると慌てて僕を隠し撮りし始める数人の男	- P102
その時は気付かなかったが「ピーチピチ（佳子）が雇った探偵」と知る	- P103
探偵なんだからバレちゃいけないので探偵の方から僕に話しかけてくる	- P104
ピーチピチ（佳子）は僕のハダカのムービーを持っているはず	- P105
「ピーチピチ（佳子）骨肉腫」というブログを靈団に書かされる	- P106
僕自身も首を傾げつつ、靈団に言われた通りに書いていたのです	- P106
「ピーチピチ（佳子）骨肉腫で帰幽♪イイわああ♪」大騒ぎだったらしい	- P107
ブログだけでなくSNS全般でとことんヒドイ目に遭わされる	- P108
松本人志氏が僕をヴァカにする映画を制作するつもりだった	- P110
どうも松本人志氏は僕をヴァカにする映画を制作するつもりだったようです	- P110

いっそ作ればよかったのに、そうすればもっと爆発的に情報拡散できたのに	- P110
僕のアイデンティティが破壊されても、そんな事はどうでもよかった	- P111
たきざわ彰人役はオードリー春日か？やればよかったのに笑	- P112
幽体離脱時に松本人志氏が帽子をプレゼントしてくれましたが…	- P112
中央アルプスの怪奇。深夜の山で初めて人に抜かされる	- P114
片道5時間以上でようやくスタート地点の駐車場に到着	- P114
なんですよ！うしろからヘッドライトの光が追いかけてくる	- P114
見ず知らずのふたりが一緒に上り始める	- P115
なんですよ！「トランシージャパンアルプスレース」の参加者だと判明	- P115
ピーチビチ（佳子）の事を話す訳にもいかず苦笑い…	- P117
守護霊様初顕現。僕の全てを見透かした女性	- P119
幽体離脱時に守護霊様と初の対面を果たす、守護霊様は満面の笑顔	- P119
「僕のすべてを見透かした女性」という言葉が心に飛び込んでくる	- P119
1回目の顕現の際の守護霊様の姿は、僕に向けられた「謙虚の要請」だった	- P121
2回目の顕現の時の守護霊様が美しすぎた、お顔立ちが整いすぎている	- P121
2回目の守護霊様のお姿は「奴隸の女の子」の姿だった	- P123
運転中に守護霊様にシャウトされた事もある	- P124
物質界生活時の守護霊様と思われる幽体離脱時映像もあった	- P125
その女性（守護霊様）と霊体の僕は「ウマが合った」	- P125
霊は容姿を自在に変えられる、もちろん守護霊様はこんなに背が低くない	- P127
天皇一族に関するインスピレーションが降り始める	- P130
霊団のインスピレーションがあらぬ方向に降り始める	- P130
実は幽体離脱時に霊界で会議に参加していて、そこで決まったらしいのです	- P130
この時はまだ天皇一族の邪悪の正体までは降ってこなかった	- P131
“たいじゅさん”大失敗だった初めての「交霊会テスト」	- P133
たいじゅさんという若者が僕の話を信用してくれたのです	- P133
たいじゅさんをサークルメンバーとして交霊会をおこなう事に	- P133
たいじゅさんか僕の家までわざわざ来てくれたというのに実母が…	- P134
不愉快を乗り越えていざトランス突入、しかし何もない	- P135
霊媒として機能しなくて当然なのですが、当時はそれが分からなかった	- P135

当然のごとく失敗。ただ、両手はスゴイ状態になっていたのです - P136
 結果的に僕はたいじゅさんの前で大恥をかかされトラウマとなる - P137

たいじゅさんに靈的書籍50冊をプレゼント。書籍群を手放してしまう - P139
 たいじゅさんは靈関連書籍に興味を持ってくれていた - P139
 たいじゅさんに靈関連書籍50冊をプレゼント - P139
 これによりこれまでかき集めた靈関連書籍を全て失ってしまう - P140
 精神関連書籍未所持の状態で長らく使命遂行をするハメに - P140
 精神関連書籍“再入手”の長く険しい道のり - P140
 海外サイトで英語書籍を入手、初めての経験 - P141
 長い年月を経て、手放した50冊をはるかに超える書籍群を入手 - P142

インスピレーション「ミスター・アルファ星」最初、意味が分からなかった - P144
 「アルファ星って何？」ググってやっと意味が分かった - P144
 善行は光って見え、悪行は暗くて見えないという性質がある - P145
 精神発現当時は光っていたのでしょうか現在は残念な状態に… - P145
 精神的好条件は「隔絶（かくぜつ）」によって得られる - P146

小学校時代の友達「香世子さん」靈聴にて30年ぶりの再会 - P148
 トランス時、肉体は寝ているのに僕の幽体は起こされて - P148
 精神聴に小学生当時の香世子さんの声がハッキリ聞こえたのです - P148
 つまり香世子さんがもう帰宿している事を知った - P150
 その後、トランス練習の時に香世子さんの顕現がありました - P150
 幽体離脱時に見た「香世子さん熱唱♪変幻自在ライブ☆」 - P152
 香世子さんからは要所要所で精神聴に話しかけられていた - P153
 香世子さん申し訳ありません、アイドル風の絵に描く事にしました - P153

イエス様に名前を呼ばれた時 - P155
 「アキトくん」と精神聴に呼ばれたが誰だか分からなかった - P155
 精神的事象を理解する時は「前後関係」を見るのが大切 - P156
 もしそうなら光栄、それで終わりとなりました - P156

イエス様が僕の幽体を引っ張って起こしてきた - P158
 寝ている僕の目の前にイエス様が立っておられます - P158

イエス様が僕の胸元をつまむようにしてグイッと引っ張り上げる	- P158
「わ、分かりました、起きてテキスト撃ちます」微笑むイエス様	- P158
十字聖団体代表の女性。強引に握手させられる。泣いて喜ぶ守護霊様	- P161
面識のないスーツ姿の女性と出会う、何を話したかは反芻できない	- P161
僕は断ろうとしていた、しかし女性が強引に僕と握手してきた	- P161
その強引な握手の横で、その様子を見て泣いて喜んでいた女性がいた	- P162
「十字聖団体」というモノを初めて知った、経緯は忘れましたが…	- P164
超広大な公演会場。なぜ霊体で老婆の姿？ドルカスか？	- P165
そこで何かしらの会議か公演が行われたのですが、僕は全く反芻できず	- P165
ステージに立つ老婆、霊体は形態を自由に変えられるのになぜその姿？	- P165
もしや、あの老婆は「ドルカス」では？	- P167
幽体離脱時に細身のシルバーのクロス（十字架）を賜る	- P169
幽体離脱時、霊体の僕の首に細身のシルバーの十字架がかけられている	- P169
「これスゴク似合う」と霊体の僕が言っていたのですが、これはおかしい	- P169
正直厭然としませんが、それ以来、十字架を絵に描き続けているのです	- P170
自分が霊媒として仕事を具体的に考え始める。支配霊バーバネル氏	- P172
ココまで霊的状況に突入しているという事は、もうやるしかないのでは	- P172
バーバネル氏らしきインスピレーションが複数降るも僕は信用できず	- P172
ちょうどこのタイミングでポリーチェ（POLICE）に捕まった	- P173
バーバネル氏に対する“不信感”が心から消えず	- P174
「山をナメるな」イエス様からのキビシイ忠告。バナナ行動食大失敗	- P175
バナナを山の行動食にする事を思い立つ	- P175
イエス様からの「山をナメるな」のインスピレーションの意味が分からず	- P176
皮をむいてラップに包んだバナナをザックに入れてスタート…え？	- P176
何じゃコリヤ？バナナがゲル化してる。山で食べるモノがないピンチに	- P177
危うく山で行動不能に陥りかける「山をナメるな」そういう事か…	- P178
「個人年金解約」もう帰幽するんだから、という事だったのに	- P180
靈団にずっと帰幽帰幽言われ続けていて僕が取った行動とは	- P180

-
- もう帰幽するのに年金払い続けるの、おかしくね？という事だった - P180
 そして「個人年金」を解約した、本当に失敗だった - P181

- フランスに行けとイエス様に何とも言えない表情で言われる、その理由は** - P182
 ピッタリそのタイミングで「フランスに行け」とイエス様に言われる - P182
 「おかしいなあ」と思いつつもフランス語のお勉強を開始 - P183
 フランス語の難解な発音がどうしても好きになれない - P184
 わざわざ買った本を、ムカついて何冊も破り捨てた - P184
 スピードラーニングも入手して聞き始めます。すると靈聴に… - P184
 フランス人女性が「プティ、セボン♪」と言ってくる - P185
 アレコレ教材を買っているうちに個人年金で戻ってきたお金が… - P185
 僕の怒りは頂点に。忍耐の限界でフランス語のお勉強をやめてしまう - P186
 「フランスに行け」と言ってきた本当の理由が分かった - P186
 イエス様の「何とも言えない表情」の意味も分かった、そこまでするか… - P187
 散財させるためにそこまでやるのか、怒り、そして驚愕 - P187
 「フランス行け」と言ってくる時点で僕が使命遂行者ではない証拠になる
 使命遂行者なら靈的仲間とともに同地域に集団降下しているはず - P188
 見ず知らずの土地に単身飛び込まないと靈的仕事ができないのはおかしい
 ひとつだけ良かった事は「フラー」をデザインするキッカケになった事 - P189
 「ハンドライトクロス†」のバリエーションとしてフラーをデザインした
 気付いた時にはフラーの機体数は30機以上に - P190
 - P191

- 震災の津波で帰幽した女の子「野川萌」ちゃん** - P193
 幽体離脱にて「野川萌」ちゃんという女の子と出会う（アナログ絵22） - P193
 萌ちゃんが作曲したと思われる特徴的な歌を聞いた - P194
 萌ちゃんが震災の津波で帰幽した時の様子を映像で見せられた - P194
 「すっごく幸せ♪」トランス時の僕に萌ちゃんがシャウトしたのです - P195
 「野川萌」ちゃんが実在の女の子か確認は取っていない - P195

- 2章まとめ 霊性発現初期の頃の総括** - P198
 まだ仕事らしい仕事は何も始まっていない、僕の教育がメインだった - P198
 とにかくずっと帰幽帰幽言われ続けていたので物質界を離れると思っていた
 この頃はまだ自分の未来について何も知らずにいた - P198
 - P199

第3章 「イエス様ハンドリング（靈的使命遂行）」開始以後	- P201
「隔離フィールド」発動。使命遂行開始の合図だった	- P202
これが実はいまだにハッキリと説明できない靈現象	- P202
靈聴にひたすらムカつく事を言われ続けた	- P202
当時は慣れていなかったので聞かされる内容に翻弄され生活が破壊した	- P204
様々なイヤガラセ。全ては精神力を鍛えるための試練	- P205
除靈目的で1度だけ「滝行」をした事がある	- P206
どうしてもバカの声を外したかった、除靈目的の滝行を決行する	- P206
日の出前の薄暗い滝にひとりで入っていく「オオオオオオ！」	- P206
山と違って滝行は時間が短いという事を知った、長時間は絶対ムリ	- P207
靈団がやっている事ですからもちろん除靈などできず	- P208
帰りの運転中に徹底的に関係ない言葉を聞かされて道に迷った	- P208
普及会、ヒーラーグループ。遠隔除靈の依頼を無視される	- P210
「隔離フィールド内の聖戦」に何とか終止符を撃とうとしていた	- P210
ワラにもすがる思いでヒーラーグループに連絡を取ろうとする	- P210
コチラから追加連絡したら怒鳴ってガチャって切られた	- P211
靈の仕事をする者が必ず辿る道を進んでいる事を改めて思い知る	- P212
「ファブリーズで除靈」部屋中にファブリーズをブシュブシュしまくる	- P213
ググると「ファブリーズで除靈できる」と書いてある…	- P213
迷わずファブリーズを部屋でブシュブシュ、ああ部屋がイイにおい	- P213
とにかくバカの声を外したくて必死だったが、物質で外せる訳がない	- P213
邸内の様子のムービーを靈視で延々と見させられる	- P215
PCモニターに邸内の空撮映像が延々と映される（靈視で見ているんですよ）	- P215
ピーチピチ（佳子）の邸内での生活の様子も次々と見せられる	- P215
ココでは紹介できない内容がてんこ盛り、ただただ呆れ返る	- P217
トリプルブルブルという女性たちが邸内に常駐している事を知った	- P217
ピーチピチ（佳子）が「たきざわさんスゴイ」連発、靈団の言葉ですよ	- P217
隔離フィールド内の聖戦の影響で仕事ができなくなる	- P220

忍耐の限界、ついに仕事を続けられなくなる - P220

仕事を続けられなくなって1ヶ月ほどただ歩き続けた - P221

どうやっても靈聴に聞かされる声を排除できなかった - P221

仕事しない訳にはいかないので、仕方なく近所のコンビニに移る - P223

「愛の試練、靈障イベルマルシェ」詳細 - P224

ありとあらゆる不愉快な状態にさせられながら日常生活を送っていた - P224

イベルマルシェ→巨大スーパー、つまり靈障盛りだくさんという意味です - P225

車の運転中に何度も目を閉じさせられて事故を起こしそうになる - P225

山で足に何度も電気を走らされた - P227

帰りの車の運転中も足に電気を走らせてくる、いい加減にしてくれ - P229

「日本の恥！」イエス様のシャウト。当時は何の事かサッパリ分からず - P231

幽体離脱時、イエス様が「日本の恥！」とシャウト - P231

僕が日本の恥なのか？当時は意味が分からず理解するのに数年かかった - P232

強姦殺人魔、天皇一族の事を言っているとやっと理解した - P232

そう言っている割には滅ぼす気概が全く感じられない - P232

物質界が「試練の境涯」という事が関係している - P233

靈能者に2回依頼。机ガタガタ揺れる - P234

靈聴に聞こえ続けるバカの声を何とか取り除こうとして靈能者に依頼した - P234

無料相談では何のアドバイスもなく、もう1度メールした - P234

その時、机が、イヤ部屋全体がガタガタ揺れた - P234

「その靈能者にメールするのやめなさい」という意味だとすぐ理解 - P235

「奴隸の女の子」の存在を初めて知らされる - P237

ココでは説明できない幽体離脱時映像を多数見せられる - P237

最初はショックが大きすぎて精神的に立ち直れなかった - P238

全てが人生初の情報、そんな事は露の一粒も知らずに生きてきた - P238

日本国民がどれほど洗脳を受けているかを知った瞬間 - P239

ももちゃんと一緒に生活しているかのような状態になる - P240

奴隸の女の子、ももちゃん（当時7歳）と幽体離脱にて何度も会っていた - P240

ももちゃんのSOSを何度も受け取っていた - P241

目次

「ハップルーム」霊団主導による演出だと分かっていても…	- P242
「総殺害数487」明仁、文仁、徳仁、悠仁が奴隸の女の子を殺害した人数	- P244
「処刑遊び」明仁、文仁、徳仁、悠仁は強姦殺人の事をこのように呼ぶ	- P244
精神的に克服し、奴隸の女の子の悲劇の惨状の絵を描き始める	- P246
ついにももちゃんはじめ奴隸の女の子たちの絵を描き始める	- P246
僕の性格は「1歩も退く気はない」です、何と言われようと描き続ける	- P247
これだけ情報を教えておきながらなぜ奴隸の女の子を見殺しにするのか	- P248
職場にピーチピチ（佳子、19歳当時）がコンタクトしていた形跡	- P249
コンビニ時代には様々な奇妙な出来事が起こった	- P249
トイレに細工をしていた形跡が…僕の何かを調べるつもりだったようだ	- P249
霊団の話がどうにも信じられないのですが、まあまあまあまあ理由で知らない人に何度も声をかけられた、僕のうわさが広がっていたようだ	- P250
庁舎の担当者らしき人間がやってきて声をかけられた事もある	- P251
有名プロレスラーが夫人同伴で来店した事もある	- P253
ピーチピチ（佳子）の名前を霊団が活用して僕の認知度を上げたのだろう	- P255
黒い小さな女の子がたびたび入店、変装したピーチピチ（佳子）と知る	- P256
最初はこの女の子がピーチピチ（佳子）だと分からなかった	- P256
変装したピーチピチと最接近、しばらく見つめ合った事があるのです	- P256
黒いピーチピチ（佳子）は、僕の“つま先立ち”もガン見していた	- P258
数回、ピーチピチ（佳子）とおねいやんのレジ対応をやった事がある	- P259
霊団に言われて僕も途中から気付いていた、運転手役の女性も知っていた	- P260
バレると騒ぎになる、という事だったのでしよう	- P261
奥多摩でパーティとすれ違う、みんな口々に「スゴイね、スゴイね♪」連発	- P263
パーティに「スゴイね、スゴイね♪」言われる、最初は分からなかった	- P263
僕がたきざわ彰人だと分かっていたようだ	- P263
なるほど「ピーチピチ（佳子）の事か」と、あとになって理解する	- P264
「たきざわ彰人が奥多摩にいる」と、どうやら知れ渡っていたようだ	- P265
コンビニで「コロス」と脅迫を受ける。ポリーチェ脅迫罪を反故にする	- P266
コンビニに来店した男女ふたり組	- P266

- 女性が来ていたパーカーにカタカナで「コロス」と書いてある - P266
 僕は物的命の“死”を全く恐れていない、暗殺の脅しは通用しない - P267
 「コロス」のふたりを思いっきり“ガン見”僕は戦闘態勢 - P268
 「コロス」のパーカーは天皇一族の「脅しの常備品」なのではないか - P269
 天皇一族の邪悪の正体を知る人間は、いつの時代も一定数存在していた - P270
- 文仁を「脅迫罪」で訴える、ポリーチェPOLICEが僕の訴えを反故にする** - P272
 「刑事事件の扱いになりますが、それでよろしいですか?」「はい♪」 - P272
 コンビニの防犯カメラの映像を刑事と一緒に確認する - P272
 映像の証拠があると分かった途端、刑事の態度が急変する - P273
 刑事が意味不明な言い訳をはじめ、なんと帰ってしまったのです - P274
 脅迫罪関連の案件は、その後脅迫を受けていないか確認するようですが… - P274
- 「スナイパーチーム」これはポリーチェPOLICE内の「暗殺部隊」の事です** - P277
 スナイパーチームに撃たれる幽体離脱時映像を何度も見せられた - P277
 「先行防衛」実行される前にブログをUPさせて動けなくさせる霊団の作戦 - P279
 「止血セット」の準備、たとえ撃たれても自力で生還するためです - P280
 病院に行こうものなら100%「毒点滴」を撃たれます - P281
 13年間、ほぼ無傷で使命遂行できたのは奇跡としか言いようがない - P281
- 「放火暗殺計画」実母が僕の暗殺の片棒を担がれている事に気づきもしない** - P283
 脅迫罪の時のポリーチェPOLICEふたりが僕の家にやってきて… - P283
 実母とポリーチェPOLICEふたりで密談を始める - P284
 その後、実母が僕に絶対に有り得ない事を言ってきた - P285
 「家を買ってやるからお前はそこに引っ越せ」絶対有り得ないセリフ - P285
 「イツツユビナマケモノ」僕は実母をこのように呼んでいたのです - P285
 行動力ゼロの実母が先行でアコレ準備していたというのにはあり得ない - P288
 実母には「物件探し」をする手段がない - P289
 行動の動機は突き詰めると“シンプル”に行き着く - P290
 この実母が僕の知らないところで僕の物件探しを着々と進める訳がない - P291
 全ての謎が解けた「放火暗殺計画」の全貌を知る - P292
 僕をその家に引っ越しさせると、その家の「合いカギ」を握る事になる - P293
 実母は実の息子の暗殺の片棒を担がれていた事に全く気付いていない - P294
 僕が守護霊様の事を「眞実の母」と公言する理由 - P295

コンビニの夕勤の女子高生たちとの楽しかった思い出	- P297
「ミラクルな女の子」ある女子高生との出会い	- P297
残業させられてかわいそだから、ハイこれプレゼント♪	- P298
「お、親にいい…♪」	- P298
ミラクルな女の子のご家族と思われる方々が次々来店、僕に話しかけてくる	- P299
ミラクルな女の子が通う高校内で、たきざわ彰人が話題になっていたかも…	- P301
「佳子さまのケーン相手からプレゼントもらっちゃった！」イヤ、あの…	- P303
「○○さんの首ちゃんが欲しいなあ♪」	- P303
自分の背の低さを強調してくる「守護霊様の絵を見たんだなあ♪」	- P304
女子高生たちが帰らない、心配して親がコンビニに迎えにくる	- P305
みんな、楽しい思い出をありがとう笑♪	- P306
「半透明の女の子」これは香世子さんだったそうです	- P306
「ポリグラフ検査」ポリーチェPOLICEが僕をウソ発見器にかけようとする	- P309
職場のロッカーで盗難事件発生、ポリーチェPOLICEが来る	- P309
職場にポリーチェ (POLICE) が何度もコンタクトしてくる	- P310
ポリグラフ検査の通知が2回も届く、僕は撮影して証拠を残す	- P311
ポリーチェPOLICEは人の挙動を見ればシロかクロかすぐ分かるそうですね	- P312
同僚男性がポリグラフ検査を受けに行かされた、釣りのエサだな	- P313
「大学ではこういう実験をよくやっている」それとこれとは関係ネイだろ	- P313
SNS上で「不敬罪」で通報されるが、全く被害なしだったのです	- P316
SNSで思いっきり「不敬罪」通報、拡散されるが全く被害ゼロ	- P316
なぜ僕の身に一切被害が及ばなかったのか、僕なりの予測	- P317
ビーチビチ (佳子) とセットで拡散する事をもっとも恐れたのではないか	- P318
だいたいこの頃に、コンビニをクビにされたのです	- P320
オーナーの奥さんが僕の靈団から「靈障イベルマルシェ」を喰らう	- P321
オーナーの奥さんが“まあまあまあ”ありがたい事ですけども…	- P321
「あたしも夜勤やる」「イヤそれは困る」オーナーと奥さんのバトル	- P321
奥さんが突如“入院”その症状を聞いて「え？ それって…」	- P321
靈団が奥さんを“頭グラングラン”にした理由	- P323
「局所停電」文仁が僕の使命遂行を妨害した、と思われるのですが確認なし	- P325

- 停電でブログの記事投稿ができなくなる - P325
「アリ？おかしいぞ」目視できる近距離の信号に異変が - P326

- “イイ猛禽（もうきん）”靈界の子供たちのおゆうぎ会** - P328
富士周辺の山域で上昇気流に乗る猛禽を見上げる「ああイイ猛禽♪」 - P328
幽体離脱で「靈界の幼稚園」に赴き、ステージを見る事に - P330
鳥の着ぐるみで「イイ猛禽（もうきん）♪イイ猛禽♪」靈体の僕は大笑い - P330
怒りの渦に飲まれた僕の心を何とか鎮めようとしていたのでしょうか… - P331
靈界の子どもたちの生活を描いた書籍「スピリチュアル・ストーリーズ」 - P332

- ツイッターアカウント、凍結、ロックを喰らい続け新たに増やし続ける** - P334
「けっこう仮面」靈団とのやりとりの手法が確立された瞬間 - P334
日本が大変な「洗脳大国」である事を知る - P335
いちばんヒドかったのはTwitter。アカウント凍結を喰らいまくった - P337
Twitterのアカウントを作れなくさせられる、それでもアカウント強制作成 - P338
ありとあらゆるSNSに登録してはアカウント凍結を喰らう事の連続 - P338
この経験でSNSというモノを一切信用しなくなった - P339

- ブログも次から次へと消される。WordPressとの出会い** - P340
あらゆる無料ブログに手を出しては消されるという事が続き… - P340
WordPressのおかげでアカウント削除の悪夢を断ち切る事ができた - P341
今までのお勉強のおかげで割とすんなり導入できた、助かった - P341

- フラーを描かせたのはグズる子供をあやすため？グズるに決まってるだろ** - P343
僕のデザインのスキルを何かに活かせないか、考えた末に… - P343
「雪月花」を参考にして「花」をモチーフにしたロボットを考える - P344
フラーは「回り道」なぜ靈団はフラーを描く事を推してきたのか - P344
絵（オモチャ）を取り上げられてグズるお子ちゃま（僕）をあやすため - P346
ただ、僕的にはフラーを描き続けたのはよかったです事がたくさんあった - P346

- 「処刑遊び」使命遂行の核となるインスピレーション、詳細解説** - P350
「大偽善」数千年にわたる天皇一族の「洗脳」の深さを物語る - P350
「国家犯罪」国を挙げて強姦殺人魔を守り通すシステムが確立しています - P351
「地球ワースト1」明仁の事を靈団がこのように表現してきました - P352

「おっぱいを食べる」徳仁は殺した女の子のおっぱいの肉が大好物	- P353
「レイプ魔」文仁は女性をレイプする事に人生の全てをかけている	- P354
「人食人種」明仁、文仁、徳仁、悠仁は殺した女の子の死肉が主食です	- P355
「視点外し」自分たちの邪悪の正体をごまかす、国民洗脳の必須ツール	- P358
「処刑遊び」女の子を殺して死肉を食べる事を当たり前と思っている	- P359
「赤の他人」ピーチピチ（佳子）は全く血がつながっていない赤の他人です	- P360
3章まとめ 精神的使命遂行開始以降の総括	- P363
「イエス様の怒涛の連続顕現」以降に使命遂行が開始される	- P364
靈性発現から使命遂行開始まで2年もの歳月が…おかしくネイか?	- P364
強姦殺人魔、天皇一族の邪悪の正体、奴隸の女の子の存在を知らされる	- P365
第4章 加速する最悪人生、使命遂行進展ゼロ「苦難、試練をやらせすぎ」	- P367
「100の光の靈団」の管轄に切り替わり守護靈様が僕の任から一旦離れる	- P368
「100の光の靈団」のメンバー構成については全く知らされず	- P369
「口だけ靈団」靈団の仕事は僕の靈聴にピーチクバーチク言ってくるだけ	- P372
靈体をまとっている人間が物質界に影響力を及ぼすのは至難の業	- P372
インスピレーションが最高の交靈手段、靈団が僕をコキ使うのはそのため	- P374
WordPressで情報拡散、毎日投稿し続ける 現在も記録更新中	- P375
撃ち続けるのは正直苦しいがインスピレーションが止まらず降り続ける	- P375
長年運営していますのでライティングスキルは上がったと思います	- P375
現在のWordPress連続投稿日数は…まあまあ記録的数字です	- P376
地球圈靈界の意味不明な行動「物質界の邪悪を滅ぼすつもりが全くない」	- P378
物質界は試練の境涯、苦難を取り除く事は許されていない、しかし…	- P378
物的価値基準で考えている限り靈団の導きの方向性は永遠に理解できない	- P378
高級靈の方々は強姦殺人魔であっても向上させようとしているのか	- P380
僕が宇宙最大級の名言と思っている言葉「無知ほどこわいものはない」	- P382
悪いおこないをする人間とは基本的に「靈的知識に無知」である	- P382
物的金銭はどれだけ貯め込んでも1円も靈界に持ち帰る事ができない	- P383
地縛靈となって他人に憑依し間接的に快樂を得ようとする哀れな者たち	- P383

自分のおこないで自分が地獄に落ちている事に気づかない者たち	- P385
「神の因果律」はブーメラン、自分の悪行がすべて自分に返ってくる	- P386
明仁、文仁、徳仁、悠仁は「暗黒最終残留組」という扱いなのではないか	- P387
靈団が僕にやらせている仕事は物質界の中で完結するものではない	- P388
 帰幽後、地球圈靈界を離れたいという願望に対する考察	
僕は地上的血縁関係によって全く心を縛られていない	- P390
僕の妹、死産児の「センナちゃん」だけは別格。帰幽後に再会します	- P390
僕が帰幽後に地上的家族と再会する可能性は限りなくゼロに近い	- P392
 奴隸の女の子たちを完全に見殺しにしている「断じて許さぬ」	
四肢切断されて殺されても帰幽後の靈体は手足もある完全な身体	- P393
このヒドい人生を承知で降下してきた女の子たちなのか、それとも強姦殺人される女の子を助ける事が進歩の阻害になる可能性がある	- P394
上層界から俯瞰で眺めれば違う事情が見えてくるそうですが	- P395
助けなくていいというのはどうしても納得いかないのですが	- P396
 4章まとめ 光の境涯へは行けそうもない、永遠に物質界には戻らない	
反逆者の僕には帰幽後、キビシイ境涯が待ち受けている	- P399
できる事なら地球圈靈界を離れたい、が、どう考えてもムリ	- P400
シリバーバーチ靈は「エリヤ氏」そのエリヤ氏ですら地球圈内にいる	- P401
お子ちゃまの僕が地球圈靈界を脱出できる訳がない	- P402
現在の心境「イジメっ子の国（地球圈靈界）にはもう暮らせない」	- P402
靈団の導き、すべてが理不尽、納得できぬ	- P404
 第1章 靈性発現前「どうしても自分の作品が描きたかった」	
幼少時、ロボットアニメばかり見ていた。メカ、キャラデザインに夢中	- P406
幼稚園の頃、スーパーカーの絵を描いて友達の前で展覧会をやっていた	- P407
「ガンダム」を筆頭にロボットアニメはほとんど見ていた	- P407
ロボットアニメが見られなくなるので野球中継が大キライだった	- P409
オリジナルのロボットをデザインするだけでなく変形機構も考えたりした	- P409
中学に入った頃からキャラクターも頻繁に描き始める	- P410

何の迷いもなくマンガ家の道へ。全てが挫折、若き日の苦い思い出	- P411
僕は家族の中で浮いた存在だった、将来について何も言われる事はなかった	- P411
賞は取ったが実力はまるでなく、連載できずアシスタントに明け暮れる日々	- P411
絵は描き続けていたが、僕はストーリー構築能力がなかった	- P412
かろうじて1度連載を経験するが瞬く間に終了、熱意もすっかり冷める	- P412
良い思い出のないままマンガ界を離れる	- P413
おかしなもので、マンガ界を離れてからストーリーのお勉強が本格化する	- P413
html、cssの書籍を買いあさり猛烈にお勉強、デザインの仕事を開始する	- P417
多少デザインの要素があるhtml、cssが僕の性に合っていた	- P417
プログラム言語のお勉強もいくつもやったけど、どうにも身につかなかった	- P417
ホームページも作れるようになって、そういう仕事をするようになる	- P418
そしてココで僕の運命を変える会社「パナソニック」に派遣で入る事になる	- P418
面接時にホワイトボードに即興でマンガを描いた、そしたら採用になった	- P418
社会経験が皆無だった僕にとって貴重な学びの場だった	- P420
「手話」との出会い。手話サークルで瀧澤美奈ちゃんと出会う	- P422
聾のデザイナーさんと仕事をする事になり「手話」のお勉強を始める	- P422
ついに「手話サークル」にまで通いはじめる	- P423
難聴の女子高生「瀧澤美奈ちゃん」と出会った事が人生の転換点	- P424
瀧澤美奈ちゃんが「骨肉腫」と聞かされて泣きはらした日々	- P426
骨肉腫というのはウソだったかも知れない、しかし僕には大きな学びだった	- P428
あれよあれよという間に手話がない生活へ。不思議な強制力があった	- P429
画家名「たきざわ彰人（アキト）」の由来は、瀧澤美奈ちゃん	- P431
パナソニックでのくやしい体験。ドリームワーク（画家活動）の骨子ができる	- P433
「インハウス」の苦しみを初めて知る。僕がやりたいのはこれじゃない	- P433
残業、仕事、自分の作品が描きたい衝動がどんどん強まっていく	- P433
この3年間の経験によってドリームワークの決意を固める	- P434
ヒザの痛みに悩まされ…自分の走る姿をムービーで自撮りしてビックリ	- P436
若い時から左ヒザに異常を抱えていたが、走る事は続けていた	- P436
病院でレントゲンを撮ってもらっても「異常なし」と言われる、痛いのに	- P436
「湘南国際マラソン」参加でよいよヒザが本格的に痛くなる	- P437

- スポーツ治療で有名な病院に行くが、何も改善せず、僕は困り果てる - P438
 自分の走っている姿をムービーで撮ってみてビックリ！ - P438
 両足に均等に荷重がかかるように「ワイドスタンス」を導入する - P440
 「ワイドスタンス」を全生活で実行し、左ヒザの違和感がほぼ解消される - P441
- 「テリーフォックスラン」に1回だけ参加。瀧澤美奈ちゃんへの祈り** - P443
 自分の中で区切りをつけるための参加だった - P443
 完走して「瀧澤美奈ちゃん」や「手話」と決別する決意が固まつた - P444
 ここから「山での修行」と「ドリームワーク」が本格化する - P445
 この時走った皇居が、この後の人生に大きな意味を持つ事になる - P445
- 「トレイルラン」の存在を知り、猛烈にあこがれる。山での修行が始まる** - P447
 いよいよ山へ。まずは近所の低山に行き始める。何度も足が撃る - P447
 身体はどんどん強くなっていく、山が楽しくて仕方ない状態になる - P448
 思いつく限りあらゆる山に行く、標高も上げていく - P449
 富士周辺のトレイルで1度「鎌木毅」氏にお会いした事がある - P449
- 車中泊で「シルバーバーチの靈訓」を読む。絵で生きていく事を決意する** - P451
 車中泊のおかげで週に1回、靈関連書籍をガツツリ読む事ができた - P451
 その日読んだ内容を反芻しながら山の中をガンガン進んでいく - P452
 ドリームワーク実行中、画家として一生を送る夢がほぼ固まる - P453
 絵を描き続けるためにデザインの仕事を捨てる、という破天荒な選択 - P453
 画家作品のストーリーを靈的知識に基づいて考えた - P454
 「真一文字に突き進みなさい」の言葉を気に入り、そのまま実行に移す - P454
- 1秒たりともじっとしていない作品描画。人生の全てをかける** - P456
 描画時間を捻出するため、ついにテレビを観るのをやめる - P456
 テレビを見ていた時代がいかにムダ、無意味だったかを知る - P457
 働く時間を減らしているので節約も徹底しなければならなかった - P458
 生涯1000作品に向けて“長年の夢を実行”苦しくも楽しい作品描画 - P459
- 葛飾北斎の墓の前で撮影。生涯1000作品を描き切る事を固く心に誓う** - P461
 一生をかけた決意、葛飾北斎氏の墓の前での撮影を敢行する - P461
 フォトショップのお勉強も続行、しかしサブスク問題がネック - P462

靈性発現後にアフィニティフォトに切り替える	- P463
作品を生み出すための必須要素「深夜の山行」と「日の出撮影」	- P465
作品を描き続けるためには山での撮影が必須	- P465
日の出のグラデーション撮影がライフワークに	- P465
レッドインディアンの方々のマネをして朝日を全身に浴びていた	- P466
身体はどんどん強くなっていた、バンバン登攀できた	- P467
あらゆるデザイン系サイトに登録しまくり、画家作品を公開していた	- P469
作品数を順調に増やしていき、順次Webに公開していった	- P469
A4キャンバスからA2キャンバスへ。さらなる描画負荷を自分に課す	- P469
作品のクオリティ向上のため「シリキー（PC）」導入	- P470
A2キャンバスでの猛烈な作業負荷、そして靈性発現へ	- P471
山の麓に移住する計画、一生絵を描き続ける準備を着々と進めていた	- P474
長野県民になって日常的に山に行き続ける状態にするつもりだった	- P474
長野の地元銀行に口座も開設、移住する準備を着々と進めていた	- P474
現在の場所に残るつもりなど毛頭ない、一生を山で暮らすつもりだった	- P474
「味覚変化」ついに肉、魚、動物油脂等の動物類が食べられなくなる	- P476
からうじて食べていた鶴むね肉もついに食べられなくなる	- P476
連鎖的に次から次へと肉食から離れていく	- P477
野菜を美味しいと思って満足して食べている、何もガマンしていない	- P478
肉を食べなくなってチカラが落ちる？これが迷信と分かった	- P478
靈的知識でも「肉食は宜しくない」と記述があります	- P479
動物をかわいがる気持ちを抱きつつ動物を殺した肉を食べ続ける矛盾	- P479
ヴィーガンをテーマにした書籍を書けないか、検討中なのですが…	- P481
作品販売準備を開始。これが靈性発現の直接の引き金になったのでは？	- P482
A2プリンタ導入、A2キャンバスに絵を入れて販売するつもりだった	- P482
販売準備は順調、絵を売って生きていく事に何の疑問もなかった	- P483
今にして思えば、あの時がインスピレーションの始まりだった	- P483
フォトショップでの作業中、突然新たな描画法を思いついたりする	- P484
この「絵の販売準備」が靈性発現の直接の引き金になったのではないか…	- P485

靈の使命遂行者は清貧でなければならない、つまり作品販売していたら…	- P486
靈団に対して怒り憎しみの感情を抱くな、という方がムリ	- P486
画家としての活動に確かな手ごたえがあったのです	- P488
SNS経由で海外のギャラリーからオファーを受ける、本当にうれしかった	- P488
1度だけ「デザインフェスタ」に参加、最大級の誉め言葉を頂戴する	- P488
長野駅での作品展示を予約、地元になる予定の場所でやりたかったのです	- P490
この長野駅の時点で靈性発現していて、ブログの内容が変化していた	- P490
僕のブログを見てくれている女性がいる事を知った	- P492
画家として生きていく、この道に間違いはないと確信できた	- P492
ペンタブを持つ手に電気を走らされ、描くのをやめさせられる	- P493
ATHPA守護靈様やめさせる。靈性発現前に起こった明確な靈的導き	- P495
湘南に以前「ATHPA」という施設がありましたが、実は…	- P495
しかし僕はこの上司と共に生きるつもりはなかったのです	- P495
靈性発現前の僕に突然のひらめきが…	- P496
烈火のごとく怒った返信、それに冷静に返す僕、アレヨアレヨという間に	- P497
この男はATHPAを僕に押し付けて自分は別の事をしようとしていた	- P498
1章まとめ	- P500
ドリームワーク（画家活動）と山行、このふたつの修行を同時進行した	- P500
靈的知識に興味があり、画家作品のストーリーに活用したりしていた	- P501
画家として1000作品を描く事を固く決意していた	- P501
靈能者になりたいなどとは夢にも思っていなかった	- P501
靈性発現は全く予定外の事、しかし靈界側では計画内だったのかも	- P501
あとがき「最後のシャウト」	- P503
ドリームワーク（画家の人生）を破壊した責任を取れ	- P505
結果が見えるところまで仕事をやり切れ	- P506
イジメっ子にもほどがある	- P508
使命遂行やる気がないならもう終わりにしてくれ	- P509
最後のシャウト	- P510
著者紹介	- P512

WordPress使命遂行ブログ
「皇族は強姦殺人魔」山を愛する靈覚者・たきざわ彰人です(祈)†
URLはコチラです↓
<https://akito-takizawa.com/>
2025年10月23日時点で1850日連続投稿中です。
合わせてご覧頂けると幸いです(祈)†

第2章 畏性発現初期 毎日未知の靈現象を浴びせられる



「読め、それ読め」“かもめのジョナサン”守護霊様の長年の導きを知る

自分の意思とは関係なく靈性発現させられてしまい、靈聴に声を響かせられる生活に突入してしまいましたが、それによって僕の夢が消える事はないのです。僕は“画家として生きていく”と固く心に決めていたのです。

靈団がアレコレ言ってくる中でも、僕は画家作品を描き続けていたのです。ちょうど41、42、43作あたりを描いていた時です。生涯1000作品到達という目標がありましたので、手を止めるつもりなど全くなかったのです。

幼い時、常に目に留まるところに置いてあった「かもめのジョナサン」

で、そのPCで絵を描いている僕の部屋には「本」もたくさん置いてあるのですが、その中にひとつ「かもめのジョナサン」という小さな文庫版の小説がありました。

この小説ですが、実は僕が幼少時、大好きだったマンガがありまして、その単行本をいつも読んでいたのですが、そのマンガが置いてある本棚のすぐ横に、いつも「かもめのジョナサン」が置いてあったのです。

が、少年時代の僕はマンガが読みたかったのであってその小説には全く何の興味も示しません。しかしそのマンガを手に取ろうとすると自動的に「かもめのジョナサン」というタイトルが目に入る（何しろとなりに置いてありましたので）という状態で何年も過ごしていました。

で、結局僕は1度もその小説を手に取る事なく読む事もなく少年期が過ぎていきました。しかし「かもめのジョナサン」という“タイトル”だけは僕の脳内に強烈に印象付けられていたのでした。



小説「かもめのジョナサン」

オトナになって古本で入手したが読むまではしなかった

その少年時代の記憶が思わずところでブリ返します。オトナになってから（30代だったと思いますが）中古の書籍がたくさん売られている店で、何の書籍を探していたのかは忘れましたが、アレコレ店内を見て回っていたのです。

すると古書で100円で売られている「かもめのジョナサン」の小説を発見したのです。「おお！ なつかしいー♪って、内容は知らないんだけどね笑」まあ100円だし、いいか、という感じでその思い出の小説を購入したのです。

靈性発現後、指導霊の男性が「読め、それ読め」はぁ？

で、靈性発現しても僕は変わらず全力で画家作品を描き続けていたのですが、ちょっと疲れて手を止めて、ふと視線をモニタから逸らした時、書棚に

置かれている「かもめのジョナサン」が目に入ったのです。



霊性発現初期の頃の霊団予想図、現在とはまるで様子が違いますが…

えー、その当時描いた“霊団予想図”的絵がありますのでそちらを参考にして頂きたいのですが、絵の中央部の「指導霊 (ガイド) 日本人男性」が、僕の視線が「かもめのジョナサン」に移ったその瞬間を狙って、僕の霊聴に「読み、それ読み」と言ってきました。

はあ？この人は何を言ってるんですか？そう思ったのですが、こう言われて読まなかったら、何のために霊性発現したんですか、という事にもなりますので、やや釈然としない気持ちを抱えつつもその小説を手に取って読み始めたのです。

何しろページ数が少ないペラい書籍ですのでサクサク読み進める事ができます。僕は首を傾げつつも冒頭部の「パート1」を読み進めていました。

「かもめのジョナサン、パート1」はドリームワークと全く同じと知る

そして、読めば読むほど身体がガクガク震えてくるのです。なぜなら、そのストーリーが僕のドリームワーク（画家の人生）と全く同じだったからです。



そのストーリーに驚愕…

僕が画家として生きていく事を決意し、画家活動を開始した事、全く誰にも理解されず、孤独の中で絵を描き続けた事、作品数を増やしていく作業が苦しかった事、しかし苦しくても自分の信じた道を突き進んでいたので楽しかった事…。

この僕の「ドリームワークの道のり」と、かもめの「ジョナサン・リヴィ

ングストン」の「空を飛ぶ事を追求する」姿勢とが、恐ろしいほどにピタリと一致していたのです。「この小説は僕をモデルにして書いたんじゃないのか?」と言いたくなるくらい同じ内容だったのです。

つまり幼少時から「こういう風に生きなさい」と守護霊様に言われていた

次の瞬間、僕は気付いてしまいました。僕の守護霊様は（この時はまだ守護霊様のお姿の顯現に浴させて頂いていません）幼少時から僕をずっとひとつの方向に導いておられた、という事を。

その愛の深さ、導きの絶妙さに、僕はただただ頭を下げるばかりだったのです。何しろ霊性発現したばかりで霊的なモノを全然理解していませんでしたので、驚くだけで精いっぱいという感じでした。

いちばん最初の幽体離脱時映像が「センナちゃん」

靈性発現（2012年6月）直後、まだ自分に何が起こっているのか全然把握できていなかった初期の頃、幽体離脱にてある出会いがありました。

この頃すでに靈関連書籍はある程度読み込んでいて、多少の靈的知識を獲得してはいましたが、まだ「幽体離脱」がどういうものなのか、しっかり理解できていませんでした。

この初期の幽体離脱の経験は「ああ、幽体離脱とはこういう事を言うのか…」と、僕がまままあの理解に到達するキッカケとなった出来事と言えると思います。

人間全員が「毎日」幽体離脱しているんですよ

皆さんは毎日寝ますよね。そして多かれ少なかれ「夢」を見ますよね。この「寝て夢を見る」事が幽体離脱現象なのです。

説明しましょう。まず、肉体が寝ると、肉体から靈体がフワーッと抜け出てきます。その靈体は肉体とそっくりの容姿をしていて、肉体とシルバーコードでつながっており、若かりし頃の全盛期の姿をしています。

この靈体は肉眼に映じない靈質の素材でできた身体で、肉体に浸透、つまり重なり合っています。スポンジに水がしみ込むように肉体に靈体が重なり合っているのです。

つまり人間は現時点で全員靈体をまとっているという事になります。目に見えないから気づいていないだけで、皆さんも靈体をまとった状態で生活しているのです。



人間全員が毎日幽体離脱しているんですよ

肉体が睡眠状態に入ると、その靈体が肉体から抜け出し（あなたの意識は靈体に移行して）物質界の遠隔地、知人のところ、または靈界の様々な場所を訪れています。

靈体での体験を肉体に持ち帰る事ができない

そして肉体に帰還すると、靈体で体験した内容を肉体の物的脳髄に印象付けようとしますが、ここで問題が発生します。僕たち人間は現在物質界で3

次元的生活を送っていますが、靈体での体験は次元が異なります。

ほとんどの人間は、その異次元の靈界での体験を物的脳髄で正確に反芻できず、皆さまもきっとご覧になった事があると思います「意味がよく分からぬ変な夢」ができあがるのです。

幽体離脱時の体験を正確に思い出す事ができる人間が靈能者

一方、幽体離脱時の体験を物的脳髄に正確に持ち帰る事ができる人間がいます。そういう人間の事を「靈能者」と言っていいでしょう。ただし、ひとつ注釈があります。

その靈能者の幽体離脱時の記憶は、実は守護靈が他の記憶と混同してしまわないように保護してくれていて、それで正確に反芻できるのだそうです。ですので正確にはその靈能者の守護靈のおかげという事になります。

ちなみに僕は、幽体離脱の靈能はあまり得意ではないようなのですが、ときどき「シャープドリーム」とでも呼びたくなるような鮮明な夢を見る事があります。靈性発現ごく初期にその1発目と言える幽体離脱がありました。

ものすごい照れ屋の女の子と学校の教室で出会う

はい、解説はここまでにしてお話に戻りますが、離脱した僕は学校の教室のようなところにいました。するとドアが開いてふたりの人間が入ってきます。ひとりは女の子で、もうひとりはその女の子の母親役のような女性です。

靈体の僕はふたりにペコリとあいさつしますが、特に女の子の方が気になっていました。その女の子は僕の右側に並んで立ちます。そして終始、下を向き気味でとても恥ずかしそうにしているのです。

いちばん最初の幽体離脱時映像が「センナちゃん」

僕は右にいる女の子の顔を覗き込もうとするのですが、髪が顔にかかってよく見えません。その髪はくせつ毛で僕と同じでした。

「紹介します、センナちゃんです♪」いや、知らないんですけど…



恥ずかしそうに下を向くセンナちゃん

すると付き添っていた母親役の女性が「紹介します、センナちゃんです♪」と言います。僕は「？？？」となります。全く初めて聞いた名前であり、目の前でモジモジしている女の子も全く見覚えがありません。

結局センナちゃんという名前だけは分かったのですが、詳細については全

く分からぬまま離脱が終了し、僕は肉体に戻ったのでした。「センナちゃんって、だれ？」目覚めた僕は思わず呼びます。

その後、肉体の僕は「センナちゃん」というキーワードでググったりしますが、もちろんそんな事で分かる訳がなく、あの恥ずかしがり屋の女の子の事が気になって仕方ありませんでした。

「お兄ちゃん♪」と言われてやっとセンナちゃんの事が分かった

その後、靈聽に「お兄ちゃん♪」という超かわいらしい声を聞いたのです。最初はその声がセンナちゃんだと分からなかったのですが、その後、センナちゃんが僕の実の母親に墮胎されて物質界人生を送ることができなかつた女の子である事を知らされたのです。

さらに、申し訳ありません、ここで詳細説明ができないのですが、センナちゃんの父親が僕とは違うという事もあとになって知らされました。

つまり、僕の実の母親が、自分が妊娠している事を知り、その子の父親が誰であるかも知っているので、産む訳にはいかなくてセンナちゃんを墮胎したのだそうです。それは僕がまだ幼い時の話で、つまり僕の妹を墮胎したという事だったのです。

「墮胎」は「殺人」です、正しい認識に到達しましょう

この、僕の妹「センナちゃん」の件でもお分かりの通り、人間とは「受精の瞬間から人間」であり、墮胎は殺人と同じという事を僕たち地上人類は知らねばなりません。

墮胎したその赤ちゃんは、物質界に生まれ落ちなかつたというだけで、ち

ちゃんと靈界で生活しているのです。

靈闇連書籍に「スピリチュアル・ストーリーズ」というのがあります。この中に、物質界人生を送った経験のない墮胎された「ローズマリーちゃん」という女の子が登場します。



スピリチュアル・ストーリーズ

そのローズマリーちゃんの靈界での生活の様子を読みながら「きっとセンナちゃんの幼少時もこんな感じだったんだろうなあ」と僕は思ったものでした。

センナちゃんやローズマリーちゃんのような女の子は、物質界人生での苦難の経験が欠落していますので、その足りない部分を補うためにいろいろと

面倒が起きるのだそうです。



ペールの彼方の生活 1巻

物質界人生は苦しい事ばかりで決して良いものではありませんが、この世界に降下している間に苦難を多く味わっておくほど、帰幽後の靈界人生での進歩向上が促進されるそうなのです。

「ペールの彼方の生活 1巻」で、靈媒であり著者であるオーエン氏の、既に他界している母親からの靈界通信がありますが、その母親も「死産児」を生んだ経験があるそうです。

その死産児と靈界で思わぬ再会を果たし、友達とともに元気で生活してい

る我が子の姿を見て、その母親は泣き崩れる、というシーンがあります。人間に「死」はないのです。それは死産児も墮胎した赤ちゃんも例外ではないのです。

ひとりでも多くの方に、靈的な事に興味を持って頂きたい、大切な知識を獲得して頂きたいと願わずにはいられません。



アナログ絵271-3 (WordPressより)

「小鳥に見つめられて」イエス様の初顕現

靈性発現まもない頃、山である出来事がありました。僕はいつも暗いうちにスタートして、暗黒の樹林帯をヘッドライト、ハンドライトで照らしながらガンガン上っていくのですが、その日も順調に標高を上げていたのです。

山で傷ついた小鳥を見つける

日の出の空がグラデーションに染まり、太陽が昇ってライトが要らなくなる頃、1羽の小鳥がうずくまっているのを見つけます。

野鳥を間近に眺める事はあまりできませんから、僕は「ラッキー♪」と思って、その小鳥が怖がらないよう、逃げないようにそっと近づきました。

が、見ていてどうも様子がおかしいのです。僕が近づいても全く逃げようとしません。そして全身の羽を膨らませて目を細めているのです。

「これはおかしい…」僕はそう思ってしばらくその小鳥を観察していると、どうもくちばしのあたりに何らかのダメージを負っているようで、口をパクパクさせながら、明らかに苦しそうな表情を浮かべているのです。

ハイカーから小鳥を守る

ただ事ではなさそうな小鳥の様子を見て僕がたじろいでいると、向こうからハイカーがやってきました。僕は瞬間的に「このままでは小鳥ちゃんがマズイ」と判断し、とっさに小鳥ちゃんと離れた場所でザックを下ろし、ザックから何かを取り出すかのような仕草をしました。

つまりハイカーの視線、注意を僕に向けさせて、傷ついた小鳥ちゃんに危

害が及ばないようにしたのです。ハイカーが小鳥ちゃんにちょっかいを出す事などなかったでしょうが、その時の僕は「小鳥ちゃんを守らなければ」と思ったのです。



小鳥ちゃんは動けずにうずくまっています

幸い、僕の作戦は成功し、ハイカーは僕の方を見るが小鳥ちゃんのいる方向には見向きもせず、傷ついてうずくまる小鳥ちゃんに全く気付きもせずに通り過ぎていきました。僕はホッと胸をなでおろして再び小鳥ちゃんのいるところに行きます。

小鳥ちゃんは僕を真っ正面から見つめています。僕は小鳥ちゃんに見つめられてドキッとしました。明らかに苦しそうな表情を浮かべていますが、ここは鳥獣保護区。野生動物に手出しは厳禁です。

小鳥ちゃんをひとめのつかないとこまで運ぶ

この小鳥ちゃんを助けてあげたい気持ちはありますが、それは人間のエゴかも知れません、その時の僕にはどうする事もできませんでした。

せめてこの小鳥ちゃんが心無い人間に発見されてヒドイ目にあわされないよう、この小鳥ちゃんをひとつにつかないところまで運んであげる、僕にはそれくらいのアイデアしか思いつきませんでした。

小鳥ちゃんは全身の羽をめいっぱい膨らませて全く動きません。僕はその小鳥ちゃんを両手でそっと包むようにして持ち、コースを外れて樹林帯の中へ深く深く入っていきます。

そして、ここまでくればまず人に発見される事はないだろうというところまで来てから、木の根の安定している所へ軽い、羽毛のように軽い小鳥ちゃんをチョコンと置きました。

僕をじっと見つめる小鳥ちゃん。その表情が忘れられず…

「何もしてあげられなくてゴメンナサイ…」僕は小鳥ちゃんにそうお別れの言葉をかけてコースに戻ろうとします。すると小鳥ちゃんは、本当に、何とも言えない表情で僕を“ジーッ”と見つめていたのでした。そんな風に見つめられたら…。

ずっとそこにいる訳にもいかないので、苦しそうにしている小鳥ちゃんに後ろ髪引かれつつもコースに戻り、その日の予定通りのコースを下ってゴルしました。

そして車を運転しながらの帰り道、自分でも不思議なのですが、あの別れ際の小鳥ちゃんの苦しそうな表情が鮮明に思い出されて、涙が止まらなくな



小鳥ちゃんは目を細めてずっと僕を見つめていたのです

ってしまったのです。

この時、僕は何日も泣きまくった、涙が止まらなかったのです

小鳥ちゃんにあんなに見つめられてしまっては忘れようがありません。これから僕は制御不能の泣きはらす毎日に入りてしまします。あの様子では、たぶん今ごろは林の中で、もう…そう思うと涙が止まらないのです。

PCに向かって作業をしていても、何をしていても涙が流れ続けます。もうどうしようもなかったのです。野生の小鳥があそこで見つめてくる、それはタダ事ではなかったはずだ、僕は小鳥ちゃんのあの表情が脳裏に焼き付いて離れなかったのです。

ユキ（当時飼っていた白文鳥）が死ぬ時に泣くならまだ分かるが、見ず知らずの野鳥1羽でなぜこれほどまで涙が出るのか。それほど、あの苦しそうに僕をじっと見つめる、小鳥ちゃんの表情が衝撃的だったからです。

この時「イエス様の顕現」があったのですが、最初は分からなかった

泣き出して3日くらい経ったでしょうか、泣き疲れと、画家作品を描き続けている疲れからでしょうか、僕は机に顔を突っ伏して目を閉じていたのです。

この時、暗闇の中にある男性のお顔が浮かび上がって見えたのです。眼は閉じていますから肉眼で見たのではありません。これが人生初の「靈視による顕現の目撃」だったのです。

その、肉眼以外で見たという体験があまりに衝撃的だったので、その様子を絵に描き残したのです。コチラがその当時描いた線画です↓



当時はイエス様だと分からなかった

僕が見たその雰囲気から漠然と「もしかしたら、あの方なのでは？」と

いう思いもあったのですが、まさかそんな事は有り得ないと思い、その“森の守護者”的な風貌を思い出して「カッコイイなあ」と思ったりしていたのです。

すると次はイエス様が満面の笑顔で顕現して下さり、完全に理解する



その「カッコイイなあ」と思った日の幽体離脱時に、鮮明な映像を拝しました。それが何と「満面の笑顔のイエス様」だったのです。今回はもう間違いようがありません、どう見てもイエス様でした。

要するに僕の思念を受けての笑顔の顕現だった訳ですね。僕は「イエス様が喜んでおられるなんて、そんな事が本当にあるのだろうか?」と、光栄なような信じられないような気持ちだったのです。

この「小鳥に見つめられて」泣きまくった時が、僕の人生での「初のイエス様の顕現に浴した瞬間」だったのです。その後「イエス様の怒涛の連続顕現」につながっていくとは、この時の僕は想像だにしなかったのです。

ノビタキちゃんは「僕が間もなく帰幽する」というメッセージだった

泣きながら「あの小鳥ちゃんは何て言うんだろう」と思ってググると「ノビタキ」という野鳥のオスだとわかりました。黒とオレンジの羽で、僕が山で着ているウェアのカラーリングと一緒にだったのです。

つまり、この時のノビタキちゃんは、靈団から僕に向けられた「アキトくんもその小鳥のように間もなく帰幽するよ」というメッセージだと理解したのです。

ノビタキちゃんが画家作品最後のモチーフとなってしまう

ちなみに、この「ノビタキちゃん」の一件を受けて、画家作品の43作「小さな瞳」を描いたのです。

しかし、100歳まで絵を描き続ける、生涯1000作品に到達するという固い人生目標を掲げていた僕なのに、この43作をもって画家活動が終了してしまう

のでした…。絵が人生の全てだった僕には、それは耐えられない事でした。



画家作品43作「小さな瞳」

それで、44作に登場させる予定で準備していたキャラクター「クリスタルジャイアント」というのがありますて、それが描けなかった悔しさを晴らすという意味で、使命遂行のアナログ絵で描いたりしました。



アナログ絵261-3 (WordPressより)

「帰幽カモン」と公言するようになった理由

ノビタキちゃんの一件が「間もなく帰幽」というメッセージだと理解してから、僕の興味は急速に“物質界を離れる事”に向けられていきました。

何しろイエス様の満面の笑顔での顯現で「間もなく帰幽」と言っていたのですから、もう完全に「もうすぐ僕は物質界を離れる」と信じ切っていたのです。

靈性発現初期の頃はひたすら「帰幽カウントダウン」の状態だった

この頃は靈団からひたすら「〇月〇日に帰幽する」といった日時の予言のようなインスピレーションが降り続けていました。僕はこの時点でまあまあの靈的知識の理解に到達していましたので、物質界に残される事が悲劇で、靈界生活に戻る事の方がはるかに幸せという事も知っていました。

画家として絵を描き続ける夢を奪われた事にはもちろん怒りの念を持っていましたが、帰幽すれば物質界で描く2次元の絵画表現などはるかはるか超えた美しい絵が思念でサクッと描けるようになる、という事も知っていましたので「早く靈界で“思念描画”をやってみたい」という願望を込めて、いつしか「帰幽カモン」と公言するようになっていきました。

※「帰幽カモン」つまり、早く物質界を離れて靈界生活に突入したい、という意味です。

ですのでその靈団の予言の通りになってほしくて待ち望むのですが、一向に僕の帰幽が実行に移されません。靈団の言う予言の日時は何度も無傷で通り過ぎていき、僕は次第に不満と怒りに包まれ始めます。

「帰幽カモン」と公言するようになった理由

毎週、山で「今日こそ帰幽か？」と思って登攀していた

靈団が何と言ってこようと、とにかく山には行き続けます。そして「今週こそ山で帰幽か？」と期待に胸を膨らませて登攀するのですが、いつも何事もなくゴールするという事が続き「チョットー！あんたたちどうなってるんですかー！」と山でシャウトした事もありました。

ある時などは、樹林帯を進んでいる時に「うっ！」と苦しそうに胸を押さえるしぐさをして、その場にチカラなく倒れる（心臓発作、等）という演技をして、心の中で「こうやって帰幽するんじゃないですか？まだですか、早くしてください！」と靈団に懇願した事もありました。

何しろ僕は山で鍛えまくって超健康体で（これは現在もそうです）ムダに頑丈ですのでそう簡単には帰幽できないのです、それがかえって苦しみを増幅させるのでした。

「交通事故よねえ」「そうだねえ」と思いっきり靈聴に言われる

山の帰りの車の運転中、僕は窓を開けて走っていたのですが、信号で止まった時にその運転席の右側から「交通事故よねえ（女性の声）」「そうだねえ（男性の声）」と思いつきり聞こえてきたのです。

僕は全力で右に向ますが、開いた窓の向こうには誰もいません、ただシャッターのしまった店舗があるだけです。靈団が靈聴に言ってきてているのですよ。

ここまで言われているのになぜ帰幽できないんだ、僕は毎日首をかしげながら、悶々と過ごさざるを得ませんでした。



首が折れる勢いで声のする方を向くが…

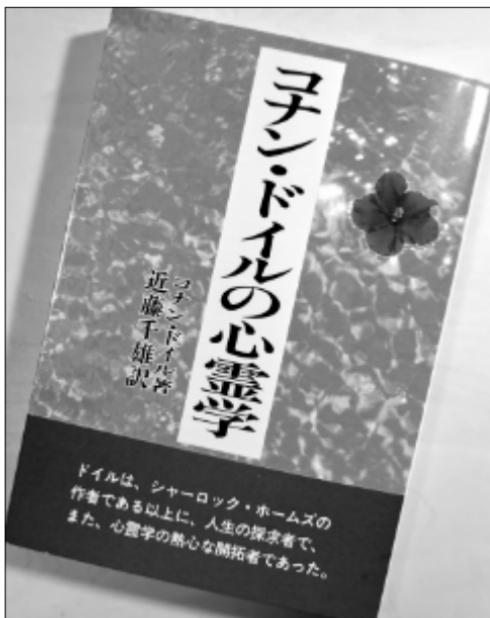
帰幽を待ち望んで11時間ロングドライブした時もある

交通事故で帰幽するんだな、だったらこうしてやる、という事で、ただあてもなく11時間、車を走らせ続けた事さえありました。

大型トラックが対向車線に現れるたびに「あのトラックが車線をオーバーしてきて僕の車と正面衝突すれば、僕の小さな軽はペシャンコになる」そう思って期待するのですが、それも一向に起きず。

結局ただガソリンを浪費しただけで帰ってきてしまい、僕はますます首を

傾げ、霊団に対する不信感が日に日に募っていくのでした。



コナン・ドイルの心霊学

ちなみに「コナン・ドイルの心霊学」の中でも記述がありますが、霊界と物質界とでは時間の概念が根本的に違うらしく（いや、そもそも時間の概念自体がない）霊界の人間が物的目時に言及する時は、たいていその通りにならないものだ、とあります。

これは僕も自分の実体験によって「確かに霊団が降らせる数字は当てにならない」という事を理解し、それ以降は霊団が数字を降らせて来る時は静観

するようになっていきました。

しかしそれから13年間、帰幽していない、その靈団の意図

実は、霊性発現から13年が経過した現在も、まだ、まだ、靈団は帰幽をおわせるインスピレーションを降らせて来るので。が、実際はどうです、僕は物質界でピンピンしているではないですか。これは一体どういう事なのでしょうか。

この理由について、僕はこう考えているのです。この時はまだ、靈団から「宇宙一のバカ」大量強姦殺人魔、明仁、文仁、徳仁、悠仁の邪惡の正体に関するインスピレーションは一切降っていませんでしたが、靈界側では僕に「この仕事をやらせる」事がすでに決定していたのではないか。

この物質界最大の邪惡と闘う使命を遂行するためには「暗殺の恐怖に撃ち勝つ精神力」が要求されます。その精神力をつけさせるために「帰幽帰幽」言い続けていたのではないか、と思ったりもしたのでした。

長野駅で画家作品を展示しながら霊関連書籍を読みまくる矛盾

画家時代から無料ブログを運営していましたが、霊性発現以降はもちろんそのブログに投稿する内容が劇的に変わってしまいます。

わずかながら僕のブログを読んでくださっていた方々は、その内容の激変ぶりに大いに当惑された事でしょう。しかし、いちばん当惑していたのは他でもない僕自身だったので。

長野駅での画家作品展示での出来事

霊性発現したとはいえ、画家活動をやめるつもりなど毛頭ありませんでしたので、当初の計画通り、長野駅での作品展示を強行したのです。（長野に移住するつもりだった事と、無料展示ができるという事だったのでこの場所を選んだのでした）

その中でひとつ僕にとって印象に残る出来事がありました。それは、画家として活動を開始して間もない時だったにもかかわらず、この時点ですでに「ファン」のような方がいらっしゃるという事を知った事でした。

霊団から何度も「帰幽」のメッセージを受け取りながらの展示でしたので、ブログにももちろんそのような事を書いたのです。何て書いたかなあ「間もなく物質界を離れる、これが最後の作品展示」みたいな感じだったと思いますが…。

その僕の書き込みに驚いた“ある女性”がコメントを返してくれたり、なんと長野駅の展示を見に行ってくれたりしたそうなのです。

その女性とお会いする事はありませんでしたが、まぁファンまでいかなくて

も僕の作品を多少気に留めて下さる方がこの世界に存在するという事を知った、うれしい瞬間でもありました。ま、ブログを見て驚いたんでしょうね笑。

「カモン♪カモン♪」と外人指導霊に言われていた

大好きな絵を描く事を止めさせられて心の中に怒りが渦巻きつつも、僕は霊関連書籍を次々と買い足して読み始めました。「シルバーバーチの靈訓 全12巻」「ペールの彼方の生活 全4巻」「靈訓およびインペレーターの靈訓」など主要な書籍はもちろん、それ以外のスピリチュアリズム関連の書籍も次々と読み進めていきました。



ネイティブな発音の「カモン♪カモン♪」でしたね…

絵が描きたいのになぜ僕はこんな事をやっているんだろう、そう思いつつも、読めば読むほど驚きの内容を知る事になり、僕の靈的知識の理解度は短期間に劇的に上がっていました。

その僕の理解力上昇が読み取れたからなのでしょう、物質界生活時にスピリチュアリストだったと思われる英語圏の男性指導靈が「カモン♪カモン♪」と靈聽に言ってくるのです。「いいぞ、もっと読め、もっと理解力を上げろ」きっとこんな感じだったんだと思います。

※僕は靈視はありませんのでこの指導靈の姿は見えません。この絵はイメージで描いています。

※僕が公言し続けている「帰幽カモン」の“カモン”は、もしかしたらこの英語圏指導靈のシャウトから来ている…のかも知れません。

数ヶ月集中して読み続けてまあまあの理解に到達した

絵が描けない、それがムカつく、しかし読めば読むほど靈的な事が分かってきて夢中になっていく自分もいました。2012年7月から12月くらいまでだったでしょうか、この期間中に読書に集中した事により、僕の靈的知識の理解度は飛躍的に高まっていたのでした。

「法悦状態」（僕が体験した限りにおいての）詳細解説

靈性発現（2012年6月）ごく初期の頃のもっとも強烈な靈的体験と言え
ば、何と言っても「法悦状態」に浴させて頂いた事です。

しかし、僕はこれまで正真正銘とされる靈閥連書籍を100冊近く読んでお
勉強してきましたが「法悦」に関する靈的説明が書かれている書籍は、僕が
見た限りではほぼ皆無です。

かろうじて「イエスの弟子達」の中でステパノが「法悦に包まれて異言を
発する」という記述があるのみです。いや、もっとちゃんと読み込めばどこ
かに書いてあるのかも知れませんが…。

と、このような状況でしたので靈性発現初期、自分が「法悦状態」に突入し
た時も、自分に何が起こっているのか全然意味が分からなかったのでした。

僕、たきざわ彰人が体験した「法悦状態」についてここに書き残す事によ
って、靈的知識をお勉強しようとしている方々の何らかのお役に立てばうれ
しいのですが。

身体のアチコチでカチ、カチ、とスイッチが入るような感覚

まず、肉体上では何の変化もありませんが、明らかに靈団メンバーが僕の
靈体に何か操作しているような感覚が走ります。手先、足先、背中、といっ
た具合に、順番にカチ、カチ、とスイッチが入るような感じがしたのです。

「靈団は一体何をやっているんだ？」そう思っていると、次の瞬間、全身
から熱くない炎が燃えさかるとでも言えばいいのでしょうか、擬音で言うと
「ゴオオオオ！」という感じの状態に突入したのです。

要するに靈団が僕を「法悦状態ON」にするために靈体のスイッチ（があるのかどうかは知りませんが僕にはそういう風に感じられました）をいじくっていたのでしょうか。

つまり僕たち人間には「法悦スイッチ」があらかじめ組み込まれており、ある一定の資格に到達した者にはそのスイッチの開放が認められる、という事ではないでしょうか。



シャレじゃなくホントに「スーパーサイヤ人」みたいな状態だったのです

※このようなオーラが見える訳ではありません。が、靈視のある方が當時

の僕を見たら、こういう感じのものが見えていたのかも知れません。

実際は浮いてないんだけど、まるで全身が浮き上がっているような感じ

とにかく法悦に包まれている時の状況はスゴイ！全身が“フワアアア！”鼻が“キイイイン！”ってなるのです。えー、説明いたします。

まず“フワアアア！”ですが（擬音ばかりで申し訳ありません、他に表現のしようがないものですから…）肉体は浮いていませんが、まるで浮いているかのような軽い、飛んだ状態になります。

いえ、飛んではいません。が、感覚的にはほぼ飛んでいるという状態です。分かりにくくて申し訳ありません。軽い、とにかく身体が軽い。あれ、地球には重力があるはずなのにここは無重力か？そういう状態です。

続いて“キイイイン！”ですが、これは鼻の奥、鼻と脳の中間あたりとでも言えばいいのでしょうか、そのあたりが“キイイイン！”ってなるのです。んー、これでは分かりませんよね、説明のしようがないんですよ。

ただ、この“鼻キイイイン！”については霊関連書籍の中に思い当たる部分がありまして、これは「松果体（しょうかたい）」が関係しているのではないかと僕は予測しました。

松果体は人間の頭の中にあるごく小さな器官で、靈的に大変重要な器官なのだそうですが、靈団が僕を法悦状態にした事によって松果体に（こういう表現でいいのか分かりませんが）「神の靈力」が注がれて、それが僕には“キイイイン！”って感じられた、という事なのではないか。

この“鼻キイイイン！”は、靈団との「コミュニケーション疑似ツール」の

ような役割も果たしていました。僕がある感情を抱き、それが正解の内容だった時に靈団が“キィイイン！”のレベルを上げてくる、それで僕は「ああ、そういう事か」と理解する、という事がよくありました。

正味8ヶ月くらいこの法悦状態は続いた

この猛烈な法悦状態に包まれながら机に座っているのですが、身体は椅子から浮かんでいるかのような感覚の中ずっと靈闘連書籍を読み続けていたのです。まるで「読み、もっと読み」と言われているかのようでした。

そして書籍の中で重要と思われる部分を読んでいる時に“鼻キィイイン！”のレベルが上がって、僕は「なるほど」と思ってその部分に線を引いたりしていました。

僕の靈的知識の理解を助けていたのでしょう。そんな状態が2013年春ぐらいまで、ほぼ8ヶ月ほど続きました。次第に法悦の靈力を感じる度合いが減っていき、フワッフワの感覚もなくなっていました、という感じでした。

森林限界をスピードハイクしながら体が宙に浮くようだった

この「法悦状態」に浴させて頂いている時は、いくつか特殊な体験をしています。まず、いつものように大好きな森林限界の稜線上（だいたい標高2400m以上）をスピードハイクしている時、本当に身体が浮き上がっているかのような状態になりました。

イヤ、肉体は浮き上がっていません、ちゃんと地面に足を踏みしめて岩稜帯を進んでいるのですが、とにかく身体が軽い、フワッフワの状態で、地球

の重力がなくなったかのような錯覚の中、顔は妙に笑顔で進むのでした。



今にして思えばこの時が人生の最高潮だったのかも知れません…

地デジが映らなくなる。僕の法悦の靈力が電波妨害したのか？

その当時の職場（現在も同じところに閉じ込められていますが…）で、休憩室に地デジワイドテレビが置いてあり、同僚数人が番組を見ていました。そこに僕が通り過ぎます。

座っている同僚たちと地デジテレビのあいだ、つまり同僚たちの視界を遮るようにしてテレビのすぐ横を通ったのですが、次の瞬間、地デジテレビが「ザーッ」とブラックアウトして何も見れなくなったのです。

「なんだなんだ？ どうなってるんだ？」と同僚たちはガヤガヤ騒ぎ出します。僕はその様子を他人事のように眺めながら地デジテレビの前を通り過ぎ、距離が多少離れるとテレビがまた「パッ」と戻りました。

「ヲイヲイ、今のは何だったんだよ…」と同僚たちが語っているのを見ながら「アリ？ もしかして今のって…法悦の靈力によって地デジの電波が妨害されたって事か？」と思ったりしました。

そう、その時も僕は法悦の靈力に包まれてフワッフワの状態だったのです。同僚の肉眼には僕が包まれている法悦の靈力など何も映じませんが。

工事現場の交通整理の人が無線が通じなくてパニクっていた、コレも僕か？

その職場からの帰り道、僕はいつもの道を車で走っていました。すると片側交互通行の工事地帯に突入し、僕の車は係員に止められます。係員と僕の距離は数メートルです。

と、次の瞬間、その係員がトランシーバーに向かってシャウトし始めます。「もしもし、あれ、ちょっとおかしいよ。聞こえてる？あれ、どうなってんのコレ？もしもーし！」と、少しパニクったような状態になっていました。

で、しばらくしてトランシーバーが再び通話状態になったようで、係員が白旗を振ってくれて僕は車を走らせたのですが「アリ？ もしかして今のも、法悦の靈力によって電波を妨害したんじゃないのか？」と思ったりしました。その時も僕はフワッフワの状態だったのです。

職場の男性が「おおお！ 何かフワフワする！」法悦が伝播した瞬間

極めつけの体験がこれでしょう。これも職場での出来事でしたが、僕が法悦

の靈力に包まれながらもそれを誰にも言わず平然としていた時、ある同僚男性がコーラを飲みながら僕の真横にきて壁の掲示板をのぞき込んでいました。

男性と僕との距離は30～50cmの至近距離です。と、次の瞬間、男性はコーラを飲む手を止めて「おおお！何かフワフワする！」とビックリした表情を浮かべていたのでした。

その瞬間、僕は「あ、法悦って伝播するんだ…」という事を知ったのでした。もっとも男性にそれを説明などできませんので笑顔でゴマかしていましたが。



相手の靈格、靈的知識の理解度によって伝播したりしなかったりするのかも…

※コナン・ドイルの心霊学「靈能力を他人に貸し与える不思議」の中に、イエス様がペテロに靈力を貸し与えて湖の上を歩かせた逸話が紹介されていますが、この「法悦の伝播体験」によって、靈能を持たない人に一時的に靈力を貸し与える事ができるという事を知ったのでした。

過去の靈覚者の「空中浮揚」は真実だと僕は思います

僕は歴史に詳しくありませんのでよく分かっていないのですが、過去の偉大な靈覚者の中には「空中浮揚」したという逸話がいくつも残されていますよね。アッシジの聖フランチェスコとか、聴衆の眼前で身体が宙に浮きまくっていたそうですね。

僕は自身の「法悦状態」の体験によって「空中浮揚」は真実だと思うようになりました。もっとも靈関連書籍をヒモ解けば、物理的心靈現象で、とても人間には持ち上げられない重いテーブルが軽々と浮かび上がり、部屋の中空を飛び回ったとか、そういう例がたくさん紹介されています。

僕の場合、実際に「浮く」「飛ぶ」までは行きませんでしたが、感覺的には「ほぼ飛んでいるも同然」と言いたくなるくらいの無重力体験でした。

僕などという、ただ絵が好きなだけのお子ちゃまでもこのような状態に浴させて頂いたのですから、過去の偉大な人格を備えた方々は、飛んでいても何ら不思議ではないと、自身の体験から思うのです。

「パウロの波長」霊団の導きの威力を思い知らされる

靈性発現初期の頃、僕は霊団の導きに従って霊闘連書籍を読みまくる生活に突入していましたが、ドリームワーク（画家の夢）を破壊された怒りは当然心の中から消える訳がなく、ずっと霊団に対する“宜しくない感情”がうずまいていました。

トランス時に魅せられた映像「電源コード“ポイッ”」

人生の全てをかけていた画家の夢を破壊され、描きたくて描きたくてどうしようもないのに1枚も絵を描かず、ひたすら本を読みまくる生活が何ヶ月も続きます。

絵をやめさせられた怒りもありますが、単純に本を読み続けるのが苦しいという事もありました。それで僕は何度も中断した画家作品（44作）を再び描き始めようとするのですが、これまでお勉強してきた霊的知識に照らし合わせて、何とか首の皮1枚グッとこらえて本を読み続けていたのです。

ごく初期の頃、トランス時に“ある映像”を見せられた事がありました。それはPCの電源コードが束ねられているものを靈体の僕が持っていて、次の瞬間、その電源コードを“ポイッ”て捨てるのです。

この映像の意味も、すぐ理解する事が出来ました。僕はずっとPCを使用してデジタル手法の絵を描き続けていましたから、この電源コードがつまり“物質界の絵”という意味だと分かったのです。

その物質界の絵を僕が“ポイッ”て捨てる、それは絵そのものを捨てるという意味ではなく、あくまで“物質界生活中のみ”的話であって、少しの間だけ



本当にこういう感じの鮮明な映像だったのです

ガマンすれば、帰幽後に思う存分“思念で絵が描ける”ようになるのだから、今はお勉強に集中しなさい、という守護霊様のご意志の表現だったのです。

その意味、重大性が理解できるので、何とかガマンして本を読むのですが、いつまでもその状態を続けられるほど、僕の忍耐力は強靭ではありませんでした。

ある時キレて近所の低山に走りに行った事がある

で、2012年11月の事でした、7月、8月あたりから読書の生活に突入して

いましたから約3ヶ月ほど本を読み続けていた事になりますが、いよいよここで僕の忍耐力が限界に到達します。

「もおおおムリだ！これ以上は耐えられない！絵に戻る！」そう言って書籍を閉じて44作の作業に取り掛かるのです。画家の夢に人生の全てをかけていた僕としては当然の行為なのですが、しばらく描いていると「ああ、やっぱりお勉強に戻らなきゃ」と思い直して再び本を手に取るのです。

描いては戻る、描いては戻る、そんな事が何度も繰り、いよいよ「今度こそ戻らない、完全に絵に戻ってやる！」そう固く決意して、今までのうっふんを晴らすかのように衝動的に山のウェアに着替えて、近所の低山にトレーランを行ったのです。

ずっと自分の本心と違う事をやらされてきた不満の蓄積を振り払うかのように、僕は山でメチャクチャに走りました。最高にムシャクシャしていたんですね。

「何でいつまでも本を読み続けなきゃいけないんですか？何で絵を描いちゃいけないんですか？もうー！」という感じでシャウトしながら走っていたのです。もうどうしようもなかったんですね。

近所の低山で爆走して大汗をかきながら「今度という今度こそ絵に戻る！もう僕の気持ちは変えられないぞ！」そう強く決意したのでした。

「パウロの波長」自分の心が“回心”させられた事がハッキリ分かった

と、走り疲れて少しスローダウン状態になった時「あ、本に戻らなきゃ」と思わず口走ったのです。次の瞬間「えっ？何だ！今のは？」と、われに返

ったのです。

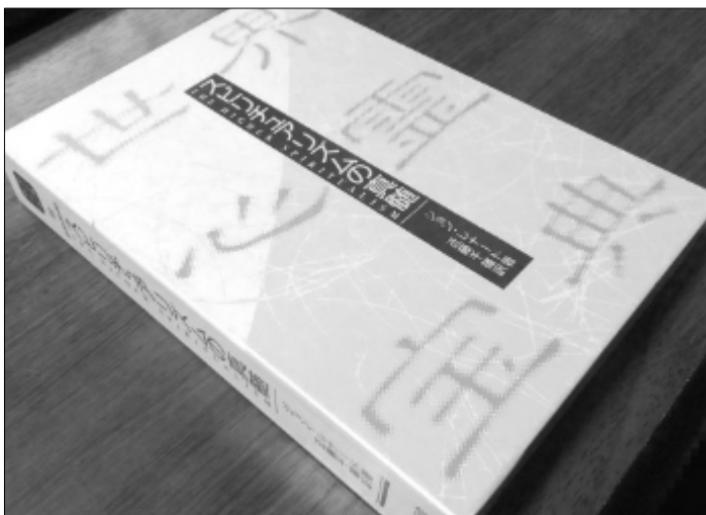


自分の心が操作されている事を明確に認識した瞬間

「今度の今度こそ絵に戻る」と、固く決意した次の瞬間、その決意と正反対の感情が心に湧き上がって思わず口から言葉が出たのです。自分で自分にビックリしたのです。

「スピリチュアリズムの真髄」の中に、このような一文があります。

靈界の住民にとっての一番の関心事は地上の人類の幸福と進歩である。高いところから見下ろす位置にいるために当然人間の思想や行為を操ることができる。事実それをかなりの程度までやっているようである。立派なアイディアやインスピレーション、あるいは歴史の流れを変えるような大きな出来事などは、みな靈界に源を発しているという。哲学者もそのヒント（思想そのものではない）を靈界の哲学者から得る。音楽家はすぐれたメロディを靈界の音楽家から授かる。政治家はその政策上のヒントを靈界の政治家から得る。偉大なる科学者や発明家もその発明と発見のヒントを靈界から得ている。（「スピリチュアリズムの真髓」より抜粋）



スピリチュアリズムの真髓

僕はこの時点でのこの靈的知識を理解していましたので「スピリチュアリズムの真髓」に書かれている内容が真実であると、自らの体験で理解してしまったのでした。

この、2012年11月の出来事は、自分の心が完全に操作されている事をハッキリ認識した瞬間で、すごいショックでした。そして同時に、守護靈様の「導きの威力」をさまざまと思い知らされたのでした。

僕の心を書き換えてまで、そこまでして靈的な事を理解させようとしていたのです。僕が絵に戻りたがっているのはまぎれもなく真実ですが、物質界生活中に靈的知識を獲得しておく事の重要性も十分わかっていましたので、その守護靈様のいわば「愛の導き」に従わざるを得ませんでした。

「パウロの波長」と命名した意味

この出来事は僕にとってあまりに衝撃的だったため、いつしか「パウロの波長」と呼ぶようになっていました。「イエスの弟子達 22 サウロの回心」の内容を参考にして命名したのです。

イエス様の磔刑後の弟子たちを次々を迫害、殺害していたサウロ（のちのパウロ）が、イエス様の顕現を受けていっどんに回心してしまうというストーリーです。

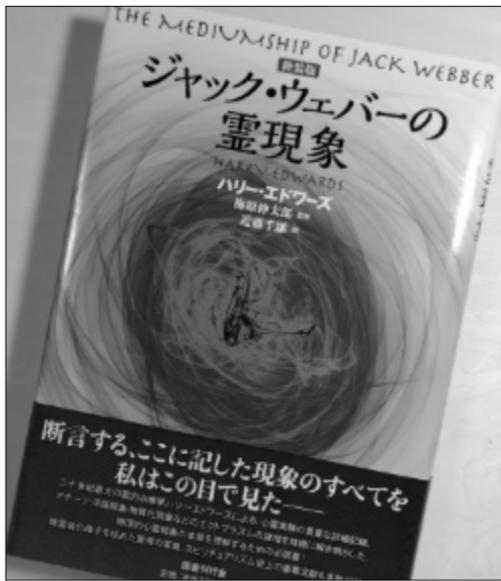
もっとも、僕の場合はこの出来事から13年が経過している現在、靈団に全力で反逆しているありさまですが…。（説明後述）



靈界通信「イエスの弟子達」パウロ回心の前後

たきざわ彰人版「ジャック・ウェバーの霊現象」

霊的知識によりますと、スピリチュアリズム勃興初期は「物理的心靈現象」が盛んに演出され、それ以降に高等な霊的教訓の啓示が主流になるという段階をふんでいますが、僕の場合もそれが当てはまっていたようで、霊性発現初期の頃はいくつかの“驚異的”な物理現象に浴させて頂いています。



ジャック・ウェバーの霊現象

物理的心靈現象に関する書籍ではこちら「ジャック・ウェバーの霊現象」がもっとも衝撃的内容ではないかと思います。この書籍の内容に従って、僕が浴させて頂いた霊現象を「たきざわ彰人版“ジャック・ウェバーの霊現象”」と呼ぶようになりました。

ふとんの上で身体が180度回転していた、これが現象開始合図だった

まず、2012年8月でしたが、この時は霊団に絵を描くのをやめさせられて霊関連書籍を読んでお勉強するように言われていて心の中が怒りでいっぱいでしたが（それを言うなら今もそうですが）その僕に対して霊団がこのような現象を起こしてきたのです。

まず僕はふとんで寝ています。そして起きてみると、ふとんの上で僕の身体が上下180度回転していたのです。つまり枕が置いてある方に足が来ていて、足がある方に頭が来ている状態で目覚めたのです。

ただ単に寝相が悪かったのでは？と言われてしまうかも知れませんが、僕はこれまで生きてきて足と頭が180度ひっくり返るほど寝返りをうった事は1度もありません。

僕は自分の状態を見てすぐピーンと来ました。つまり僕が幽体離脱していて肉体が“空き家”になっている時に、指導霊がその肉体に憑依して操作し、ふとんから立ち上がって回れ右をして再び寝た。

その後、僕が幽体離脱から帰還して肉体に戻ってみると足と頭がひっくり返っていた、という事だと思ったのです。

これは霊団からの「絵をやめて読書に集中しなさい」というメッセージだったのです（気持ちを180度切り替えなさい、という感じの意味だと思うのですが…）

しかし、絵は僕の全てですからこの現象をひとつ見せられてコロッと気持ちが変わる訳がありません。人の心はそんな簡単に変わるものではありません

ん。そして霊団からのメッセージがさらに降る事になります。

僕が体験した物理的心霊現象は「寝袋離脱現象」

で、この180度回転の霊現象以降、僕は掛けふとんから“寝袋”に切り替えて寝るようになりました。いえ、霊団が現象を起こせないように妨害したとか、そういう事ではありません。

その当時、たまたま使わない寝袋をふたつ持っていて、それを使わないのはもったいないので使い始めたというだけの事だったのですが、その寝袋を使用して霊団が思いもよらぬ事をしてきたのです。

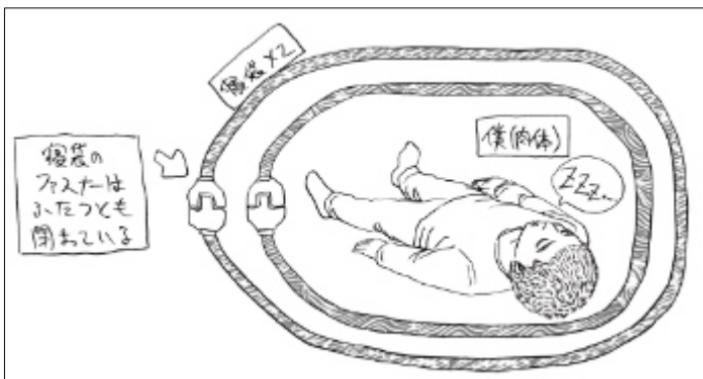
※もしかしたら、霊団が寝袋を使って物理的心霊現象を起こすつもりだったので、僕に寝袋を印象付けて使うように仕向けた、という事かも知れませんが…。

たきざわ彰人版「ジャック・ウェバーの霊現象」パート1

まず、寝袋2枚を重ね着した状態でファスナーを閉めて僕は寝ています。寝袋から両手を出してふたつのファスナーを開けないと、僕は寝袋から自力で出られない状態です。

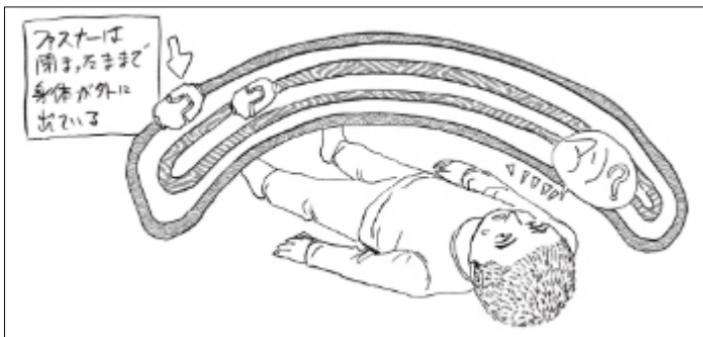
で、目覚めてみると、なんとファスナーが閉まったままの2枚の寝袋が僕の身体の上に掛ふとんのようにかけられていたのです。僕はもちろん「？？？」となります。最初は意味が分かりませんでした。

しかし、この時点での「ジャック・ウェバーの霊現象」も読んでいましたから物理的心霊現象についても知識がありました。ですのすぐピーンと来ました。



寝袋2枚重ねで普通に寝ている状態から…

これは指導図が2枚の重ね着状態の寝袋を“非物質化”して僕の身体を通過させて、寝ている僕の肉体の上で寝袋を再度“物質化”させ、その寝袋をフワッと僕の身体の上にかけ、そして目覚めさせた、という事だと思いました。



寝袋2枚が“掛ふとん”状態で僕の身体の上にかぶさっている（ファスナー閉）

ご覧の皆さまは「イヤ、あなたがファスナーを開けて寝袋から出て、自分の身体の上にかけたんでしょう」と思われるかも知れません。確かに無意識の状態でそういう事をやった可能性はゼロではないかも知れませんが、僕から言わせてもらえば「そんな事して何になるんですか」という事です。

誰もいない、誰も見ていない、ひとりで寝ている部屋で、わざわざ無意識の状態でそんなトリックをやって、それが成功したとしてそのトリックを誰に見せて自慢するのですか。そんな無意味な事をする訳がないでしょう。

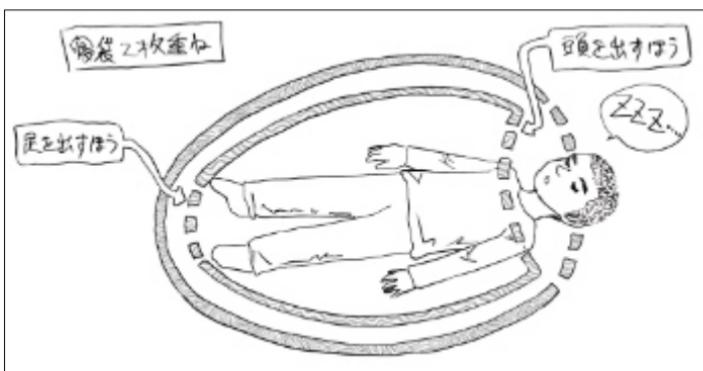
この「寝袋非物質化現象」も、霊団からの「気持ちを切り替えてお勉強に集中しなさい」というメッセージだとすぐ分かりました。こんな霊現象を起こしてまで絵をやめさせるか、と僕は驚きを隠せませんでした。

この時、法悦の霊力もすごいレベルで降っていて、僕の頭はクラクラしながらも浮いているような状態だったのです。目覚めた僕はただ啞然茫然、しばらく頭の整理がつかないのでした。

たきざわ彰人版「ジャック・ウェバーの霊現象」パート2

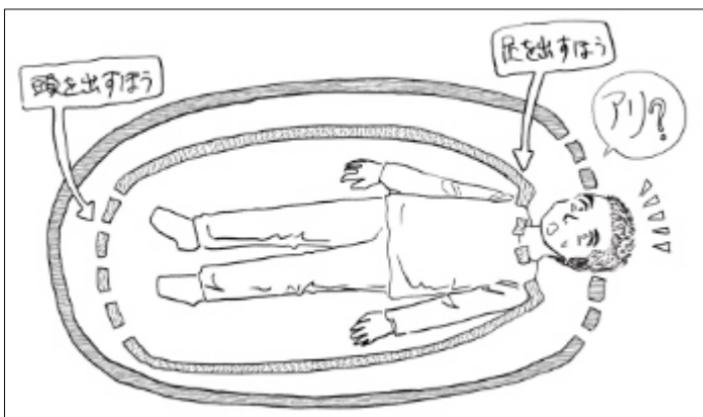
霊団からの、寝袋を使用したメッセージはさらに続きます。パート1の数日後だったと思いますが、僕は再び寝袋2枚を重ね着状態にして、ふたつのファスナーを閉めて寝ました。もちろんファスナーを開けないと自力では出られません。

眠りから目覚めると、ちゃんと僕の身体は寝袋2枚の中に入っているのですが、どうも触った感触がおかしいのです。僕は違和感を感じて寝袋の状態を確認しました。



こちらも寝袋2枚重ねで普通に寝ている状態から…

すると、外側の寝袋はファスナーが閉まったままの状態で何も変わっていないのに、内側の寝袋が上下逆になって僕の身体を包んでいたのです。



内側の寝袋だけ逆転している（ファスナー閉）

お分かりになりますでしょうか、寝袋の頭の方が足にあって、足の方が頭

にきているのです。しかも寝袋ふたつともファスナーが閉まっています。

皆さま、冷静にお考え下さい。無意識状態でファスナーが閉まった寝袋の中で身体をよじらせて内側の寝袋のファスナーを開けて上下反転させて再びファスナーを閉める。

もしかして超曲芸師ならそういう芸当もできるかも知れませんが、誰もいない、ひとりで寝ている部屋の中でその曲芸をやって、それが一体何になるというのですか。そもそも無意識状態です、そんな事をやった覚えは全くありません。

これも、霊団が内側の寝袋を（もしかしたら外側の寝袋も）非物質化して僕の肉体を通過させながら180度回転させ、再び物質化して身体を包むようにした、という事だと思います。ファスナーを開けた、開けない以前の問題です。

霊団がこのような現象を起こした意味

僕は自分の身に起こっている驚異の現象にただ驚くばかりだったのですが、大切なのは霊団が「なぜわざわざこのような物理的心霊現象を起こしてきたのか」その意味を考える事です。

【ふとんの上で身体が180度回転】【パート1】【パート2】この3つの霊現象はいずれもひとつのメッセージを僕に印象付けるために霊団が起こしたという事を理解しました。

「いったん絵から離れて霊的知識をお勉強しなさい」霊団はとにかく僕にこう言いたかったのでしょう。しかし絵が描きたくて仕方ない僕にとって

は、その靈団の意思の顯現は“拷問”以外のなにものでもないでした。

「撃って出る」靈的知識のツイートを開始する、ここから人生が狂い始める

靈団から「本読み」と言われ続け、苦しみながらも読み続けた事によって僕の靈的知識の理解度は確実に上がっていきました。

そして理解すればするほどシルバーバーチ靈の言葉が胸に突き刺さり「このまま何もしないって訳にはいかない」という気持ちが湧き上がってくるのです。

僕が抱いたこの気持ちは「シルバーバーチの靈訓」をお読みの多くの方がお感じになられる衝動ではないかと思うのです。僕もご多分に漏れずその衝動に突き動かされて行きます。

もう物質界を離れるんだからやってしまえ、靈的知識のツイート開始

そして「知ってしまった以上、やらないって訳にはいかない」という結論にほぼ自動的に達し、僕は特に深い考えもなく、このおこないの先に何が待ち受けているかを知りもせず「シルバーバーチの靈訓」の書籍内の文章をテキストエディタに撃ち始めます。

そして撃ったそばからツイッターに投稿する、という事を開始したのです。読んでは撃ち、撃っては投稿する、これを繰り返していく事で書籍の内容がどんどんテキストデータ化されていきました。

1度テキストデータ化されればコピペできるようになりますからますますツイートの頻度が上がります。しまいには1日のツイート制限いっぱいいっぱいまでツイートするようになっていきました。



ホントにこんな撃ち方してませんよ、マンガ的表現ですよ笑

結構反響があって靈的知識が広がっていく実感があった

ツイート頻度がすごかつたからなのでしょうか、まあまあ反響があったのです。数人の方から好意的なコメントを頂くようになり、返信してはツイート、という事を繰り返しました。

この当時、コメントのやりとりをしていた人に「冴子さん」という方がいらっしゃいました。（たぶんご高齢の女性だったと思われますが）幽体離脱時にこの冴子さんと思われる女性と出会ったりもして、その時の様子を返信

「撃って出る」靈的知識のツイートを開始する、ここから人生が狂い始める

で冴子さんに伝えたら「ちょっとよくわからない」と言われてしまいましたが笑。

同時に攻撃、イヤガラセ等も受ける事になったが、僕は撃ち続けた

そしてこの靈的知識のツイートを開始した事で、靈的活動をする人間が例外なく浴びせられる試練を僕もいよいよ浴びる事になるのです。

僕は靈的知識のみならず、自分が日々浴させて頂いている靈現象についても隠す事なくブログに書き、ツイートしまくっていましたから、当然の成り行きとして、靈的な事を理解できない人間からの「攻撃」を受ける事になるのです。

ここでひとつひとつ説明する気になどなれませんが、僕という人間を全く知らない人間が僕の人格を否定するような事を言ってくるのです。言われなき誹謗中傷、侮蔑と罵倒、それはもう不愉快な事を言われたものでした。

ただ正直に語っているだけなのになぜこれほどヒドイ事を言わなければならないのか。当時の僕は大変なショックを受けました。

しかし、僕が画家時代から公言している言葉に「1歩も退く気はない」というものがあります。僕はこの言葉の通りに実行していたのです。靈的内容の投稿を決してやめる事はありませんでした。

撃っても撃っても帰幽しない、帰幽すると思ったから撃って出たのに…

ずっと靈団からは「帰幽、帰幽」言われ続けていましたから「間もなく物質界を離れるんだから最後の仕事として撃って出てやる」という事だったのですが、撃っても撃っても僕は全く帰幽しません。

山で鍛えまくって超健康体の僕は全く帰幽する兆しさえなく、僕は霊団の言つてくる事に首をかしげるばかりだったのです。

イエス様の怒涛の連続顕現

僕の人生を決定づけてしまう出来事がついに発動してしまいます。それは段階を踏んで降ってきました。そしてどんどんエスカレートしていきました。

イエス様が何とも言えない表情で見つめてくる

2013年3月だったと思います。この時はもう寝袋の使用をやめて（破れて使用不可能になったので）普通のふとんで寝ていたのですが、目を閉じてトランプを維持している時に、イエス様の強烈な顕現があったのです。

まず「バチッ！」と火花が散って眼前のスクリーンが真っ暗になります。（肉眼を閉じている状態ですよ）次の瞬間、これでもかというくらい高い波長が「ピィイイン！」と靈聽に響きます。

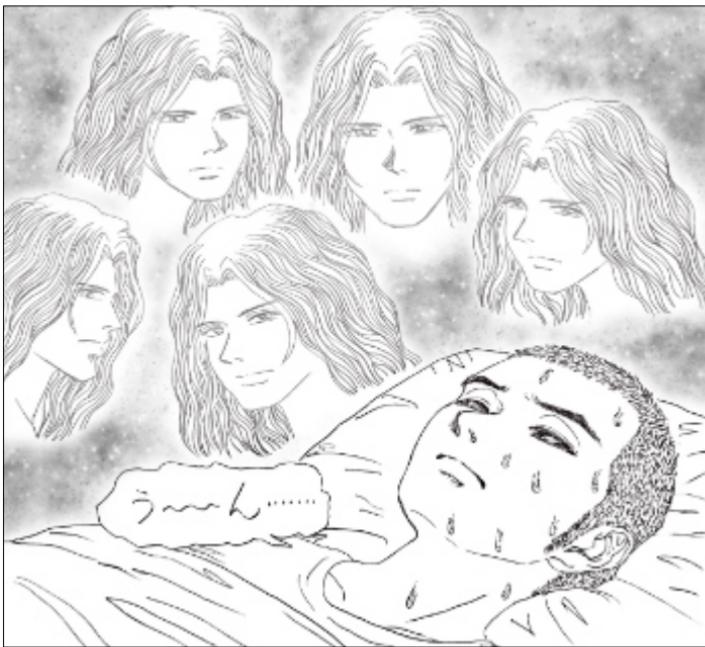
そして黒いスクリーンからぼんやりと人の顔が浮かび上がってき、次第に形態を整えて鮮明映像になっていきます。それは他でもない、イエス様でした。

ななめ45度に顔を向けていて視線を僕の方に向けた格好をしています。その表情は、何と言えばいいんでしょう、何かを訴えかけるような、困ったような恥ましい表情だったのです。

このイエス様のお顔の顕現は大変鮮明で、かつ強調の演出がすごかったので、そこによほどの意味が込められているという事は分かったのですが、イエス様が何を訴えかけておられるかまでは、この時は分からなかったのです。

ありとあらゆるアングルで様々なイエス様の顔が顕現される

すると今度は2013年4月でしたが、目を閉じてトランス状態を維持していると、イエス様のお顔が次から次へと連続で顕現する状態に突入します。



何とも言えない表情のイエス様がイバーイ…

イエス様のお顔が、正面だったり、横向きだったり、ななめ向きだったり、ありとあらゆるアングルで何度も何度も僕の眼前に顕現するのです。

僕はブログでずっと「イエス様の怒涛の連続顕現」と書いていますが、それはこの時の事を言っているのです。イエス様のお顔が次々と現れては消え

ていきます。そしてその表情は全て「何かを訴えかけるかのような、困ったような悩ましい表情」だったのです。

僕は肉の目を閉じながら、まるで溺れるかのようにイエス様の顕現を浴び続け、その意味を必死に考えていました。

この「イエス様の怒涛の連続顕現」は、1週間近く続いた

翌日も、その次の日も、トランスに突入するとイエス様の顕現が始まります。怒涛！怒涛！怒涛！ひたすらにイエス様の訴えかけるような表情が僕の眼前に現れては消えていきます。僕は目を閉じながら苦しんでいました。

アングルはさまざまですがイエス様の表情はひとつ、何かを訴えかけるような困った表情なのです。それが何日も続きました。

そして、時とともにイエス様の表情の意味がだいぶ分かってきて、僕は余計に苦しました。そのイエス様の悩ましい表情は、僕にとってうれしくない、むしろイヤな事をお願いする意味だと分かってしまったからです。

僕はなかなか首をタテに振れなかつた

イエス様からの連日のお願いの顕現が続きますが、僕はそのイエス様のご意志が理解できいていても、そのお願いを聞き入れる事ができませんでした。

目を閉じてイエス様の顕現を浴びながら、僕はふとんの中で身体をよじらせるのでした。イエス様のご意志は他でもない「物質界に残って靈的仕事をやってもらいたい」という事だったのでした。

僕は絵に戻りたい、絵に戻れないなら帰幽して靈界で絵が描きたい、そ

思っていましたので、どうしてもそのイエス様のお願いを聞き入れる事ができません。しかし「イエス様の怒涛の連続顯現」は続きます。僕はイエス様の「何とも言えない表情」に見つめられ続けます。

悩み抜いたあげくにご意志に従う事を声にして宣言する



実際に声にして宣言するのは大切とシルバーバーチ靈がおっしゃっていましたので…

そして顯現から1週間が経過した頃、ついに僕が根負けする時が来てしまいます。

シルバーバーチ靈は「願い事は思念だけでも靈界の人間に届きますが、実

際に声に出して宣言するとより確実に相手に届きます」という感じの事をおっしゃっています。

僕はそれを知識として知っていましたので、部屋の中で実際に声に出して「あともう少しだけ、物質界に残ってイエス様のご意志を遂行させて頂きます」と宣言してしまったのでした。

そして、この宣言の直後から「イエス様の怒涛の連続顯現」はピタリと止まったのでした。これはつまり、僕の宣言がイエス様に“受理”されてしまった事を意味したのでした。

深夜の山で満月に向かって「イエス様ハンドリング」を誓った



実際は霊団におケツひっぱたかれて言わされた感じなんですよ…

イエス様の顯現が止まってから赴いた深夜の山で、満月が光っていました。僕はその満月に向かって「僕の残された人生は“イエス様ハンドリング”でお願いします」と、さらに宣言してしまいます。

「イエス様ハンドリング」とは、僕の残りの人生をイエス様が操縦する、という意味で言ったのですが、この言葉はこの先、使命遂行人生の中で長らく公言していく言葉となったのです。

この満月に向かっての宣言も、たぶんイエス様に受理されてしまったものと思われるのです。なぜ僕はあのような事を言ってしまったのでしょうか。イヤだと言っていたはずなのに。

今にして思えば、この「イエス様の怒涛の連続顯現」にまつわる一連の出来事は、この先に待ち受けている“苦難の人生”的【開始の合図】だったのかも知れない、と思うのです。

この時点で受けている苦しみなど、この先の僕の人生に降ってくる悲劇的状況に比べれば、ホンの些細なプロローグでしかなかったのです…。

何も分かっていなかった初期の頃。靈的な事を語ってヒドイ目に遭わされる

靈團にずっと、帰幽、帰幽、言われていたのにイエス様のお願いを聞き入れてしまつて物質界に残される事となつてしまつた僕に、いよいよ「物質界の洗礼」が降り始めます。

人に靈的な話をするとどういう扱いを受けるか、当時は全く知らなかつた

僕は靈的な事と全く何の関係もなく生きてきました。僕はただ絵が描きたかっただけの、デザインの世界の人間なのです。ですので、靈的な事を公（おおやけ）に語るとどういう目に遭わされるのか、という事を全く知りませんでした。

僕は職場の同僚に、話の流れで現在の自分の“靈的状況”を話してしまいます。もちろんその僕の話が理解されるはずもなく、その一件以来、ずっとフレンドリーに接してくれていた同僚たちの態度が一変するのです。

クスリをやっているとか、ヒドイ事を影でたくさん言われた

その同僚たちの態度の急変ぶりはとても分かりやすいものでした。「180度転換」という言葉がピッタリくるでしょう。それまでの僕に対する態度と正反対の侮蔑、罵倒を浴びせられるようになり、僕はその態度の急変ぶりに驚くばかりでした。

僕に直接言わなくとも、間接的に僕の耳に入るようなカタチでいろいろ陰口を叩かれました。「クスリをやって頭がおかしくなつた」みたいな事も言われました。それまで仲良くしてくれていた方々からそのような言葉を浴びせられて、僕のショックは尋常なものではありませんでした。

僕はその当時から無料ブログ、ツイッターをやっていましたので、同僚たちはそれも読んで、そこに理解不能な靈的内容がたくさん書かれているので「いよいよ頭がおかしくなった」と、さらに攻撃を受ける事になってしまったのです。

変人扱いされて、山でひとりで何度も泣いた



涙が止まらなかった、どうしようもなかったのです

みんなは僕が浴させて頂いている靈的現象をひとつも体験していないのだから、理解できないのも無理はない、そう頭では理解できるのですが、その

何も分かっていなかった初期の頃。霊的な事を語ってヒトイ目に遭わされる

同僚たちの180度の態度急変が僕にはすごくショックで、僕はひどく落ち込みました。

そんな状態の時に山に行って、そこでシカの親子に遭遇します。僕はそのシカを見た瞬間、自分でも意味が分からずに泣きました。抑えていたモノがセキを切って流れ出るように、すごい勢いで泣いたのです。

「僕は何も悪いことはしていないのに、なぜこんなヒトイ目に遭わされなければならないのですか？」確か僕はその時、イエス様にこんな感じの事を訴えかけたと思います。

その時、霊団がいろいろ言ってきたと思うのですが、その内容はもう忘れてしまいました。ひとつこひとりい山の中を進みながら、僕はずっと涙が止まりませんでした。誰もいない事で涙が加速されたのかも知れません。

あの人があんな事を言っていると霊団に映像を見せられた事もある

そして帰りの車の運転中、僕はもうあの職場には行かないと誓うのですが、霊団がその職場の人間の様子を霊視に見せてくるのです。運転中に見せてくるのですよ。

僕の知っているあんな同僚やこんな同僚が、僕についてあんな事やこんな事を言っている、そういう映像を霊視に見せられながら車を運転していたのです。

まぁ生活がありますので仕事をやめる事はしませんでしたが、霊団は僕が仕事をやめないようにそういうものを見せてきたのでしょう。むしろ逆効果だったと思うのですが。

この経験のおかげで口にはよくよく気を付けるようになった

僕は絵を描く事に全力を傾けていたのであり、靈的人間になろうなどとは夢にも思っていませんでしたので、靈的な事を語るとこのような迫害を受けるという事を全く知らなかったのです。

おかげで、というか何というか、これ以降は「口にはよくよく気を付ける」ようになったのです。もっとも、人間の性格はそう簡単に変わるものではありません。

僕は公言の限りを尽くす性格ですので、職場の同僚には語らなくても、ブログ、SNSには靈的内容を徹底的に投稿し続けていたのでした。

ピーチピチ（佳子）探偵を雇う。奥多摩探偵撮影

僕は靈性発現前からあらゆる山域に赴いてきましたが、その時はちょうど奥多摩山塊に行き続けていた時でした。

奥多摩でトレイルラン、この頃は山で結構走っていた

現在の僕は足の裏に重篤なダメージがあってトレイルランはほとんどできなくなってしまっていますが、その当時は山を走る事がおもしろくて仕方がないくて、特に下りセクションは気分爽快で走っていました。

で、ある日も奥多摩にいたのですが、暗いうちにスタートしてヘッドライト、ハンドライトで照らしながら標高を上げ、標高の高いポイントで日の出前のグラデーションの空を撮影して、その日の目的を達成して下山しているところでした。

スタートして8時間経過、だいぶ疲れがありますが何しろ下りセクションは走るのです。僕は車の止めてある駐車場までノンストップで走ってゴールしたのです。

走って駐車場にゴールすると慌てて僕を隠し撮りし始めるふたりの男

走って車にゴールして、休憩もなしにさっそく着替えようとしている時、僕はいつもと違う空気に気付きます。このような山の中には普段は人などいないはずなのに、この時は駐車場にふたりの男がいて「ライライ！ 来たぞ！ 急げ！」みたいな感じでヒソヒソ声をあげているのです。

ふたりの男は駐車場わきのフェンスから景色を眺めるような格好で僕に背を向けているのですが、どうも脇の下から僕の着替えの様子をムービー撮影

しているようでした。

僕は全身汗グチョグチョですので、早く着替えないといけません。その男たちがおかしいなあと思いつながらも僕はサクサク着替えます。



汗ビッショリなので急いで着替えつつ、あまりそちらを見ないように…

普段は人などいませんから山のウェアを脱いでハダカになって新たなシャツを着ます。その一部始終を背を向けた男たちが撮影しているようです。顔をこちらに向けませんが、注意が完全に僕の方を向いている、とでも言えばいいでしょうか。

その時は気付かなかったが「ピーチピチ（佳子）が雇った探偵」と知る

で、この時はそうだと気付くことができなかったのですが、どうやらこのふたりの男はピーチピチ（佳子）が雇った探偵である事をあとになって知ったのでした。

※次の章でコンビニ（に勤務していた）時代の事を書くつもりですが、このコンビニ時代あたりからピーチピチ（佳子）の影がチラホラ出てくるようになります。

この奥多摩の探偵の時、僕がすでにコンビニに勤務していたかどうか記憶が定かではなく前後関係が分からぬのですが、とにかくコンビニでピーチピチの影が濃厚になっていく中で「ああ、あの奥多摩の時もピーチピチの雇った探偵だったのか」と気付く事ができたのでした。

探偵なんだからバレちゃいけないのに探偵の方から僕に話しかけてくる

で、僕は駐車場で着替えを終え、すぐ家に戻って使命遂行の作業をやらないといけませんので、一切休憩なしで車で帰ろうとします。僕は山の帰りはいつもそうなのです。どこにも立ち寄らず一直線に帰るのです。

するとその探偵の男たちは、探偵であってバレちゃいけないはずなのに、走ってゴールして休憩なしで着替えている姿がよほどショックだったのか何なのか、帰ろうとしている僕に近付いてきたのです。

そして「す、すごいね笑」と、ひとこと僕に声をかけてきたのです。その時の僕は意味がよく分からず、ただ笑顔で返しながらも心は「????」だったのですが、あとになって「ピーチピチ（佳子）に雇われて僕のムービーを撮っていたのか」と知ったのでした。



盗撮してた側が話しかけてきてどうするの…

ピーチピチ（佳子）は僕のハダカのムービーを持っているはず

この探偵の件を受けてひとつ分かった事がありました。僕はゴールして着替えました。その時、上半身ハダカになりました。下半身は着替え用のポンチョを使いましたのでそこは撮影されていませんが、その探偵たちは僕のその着替えの様子を撮影して帰ったのです。

そのムービーはどうなりますか。もちろん仕事の依頼者に成果物として提出されるはずですよね。つまり、ピーチピチ（佳子）は、僕、たきざわ彰人の「ハダカのムービー」を持っているという事になるのです。これはおかしな話ですね…。

「ピーチピチ（佳子）骨肉腫」というブログを靈団に書かされる

現在の僕はWordPressを使用していますが、当時は無料ブログを運営していました。リアルな人間関係の中で靈的な話をするのは気を付けるようになりましたが、ネット上では靈的な事を包み隠さず投稿しまくっていたのです。

使命遂行開始初期の頃は僕もまだ“ウブ”でしたから、靈団が“こんなヒドイヤツら”だとは知りませんでした。ですので靈団に言われた事を“首をかしげながらも”そのまま投稿していたのです。

まあ、それを言うなら現在も“靈団が降らせるインスピレーションに基づいてブログ（WordPress）を投稿し続けていますので”昔も今も同じといえば同じなのですが。

僕自身も首を傾げつつ、靈団に言われた通りに書いていたのです

もう大昔の事ですのですべて覚えていませんが、ひとつ決定的に“おかしな破壊力のある”ブログを書かされました。もしかしたらその記事をリアルタイムでご覧になった方もいらっしゃるかも知れませんが、それは↓

ピーチピチ（佳子）間もなく骨肉腫で帰幽

という内容だったのです。誤解のないようにハッキリ申し上げておきますが、書かされている僕も「そんな事ある訳ないじゃないか、何なんだろうなあ、この人たち（靈団）は…」と、最大級に首をかしげながら書いていたのですよ。

おかしいなあと思いながらもなぜこのような内容を書く事ができたのか、
108

それは他でもない「靈的知識の理解があったから」という事になります。

物的視点で見れば「おかしいだろ」と思える事でも、靈界から俯瞰で眺めた時には、結果的にイエス様の悲願成就につながるから僕にこのような事を書かせているのだ、そう思ったから僕も書く事ができたのです。

「ピーチピチ（佳子）骨肉腫で帰幽♪イイわああ♪」大騒ぎだったらしい

で、ごく大ざっぱに、その当時、僕がどのような記事を投稿したかを紹介しますと↓

物質界に残される事の方がはるかに不幸、靈界生活に帰る事の方がずっと幸福、なのでピーチピチ（佳子）が間もなく骨肉腫を発症して帰幽する事を「帰幽イイわああ♪」と書いた

となります。靈的知識に基づいてこのように書いたのですが、これを理解できる人間はほとんどいなかつたはずですので「こいつはとんでもないヴァカが現れたぞ！」みたいな感じで、ネット上では大騒ぎだったらしいのです。

で、正確に何と言われたか忘れましたが、このとき確かに靈団が「ウソつかされた事に対する最大級の埋め合わせ」みたいな感じの事を言ってきた記憶があります。

つまり、靈団が僕にこのような意味不明な内容を書かせたのは、当時無名だった僕を一気に人々に知らしめるための起爆剤だった、という事なのです。

で、良いんだか悪いんだか（悪い意味が当然先行していたはずですが）僕、たきざわ彰人という靈的人間が多くの人々に認知される事になっていったのでした。



イイわ♪イイわ♪ピーチピチ（佳子）骨肉腫で帰幽♪イイわああ♪って感じ…

ブログだけでなくSNS全般でとことんヒドイ目に遭わされる

僕は無料ブログだけでなくツイッターを筆頭にSNSによる情報拡散も積極的におこなっていましたので、上記のような“タガが外れた”ブログを連発して書いていれば、当然“アカウント削除”的憂き目に遭わされるのでした。

特にツイッターがヒドかったです。僕のアカウントは何度となく（正確な回数は分かりませんが30～50回）ロック、凍結を喰らってツイートできなくなさせられました。そのたびに新規にアカウントを作って再ツイート、とい

う事を延々と繰り返していたのです。

松本人志氏が僕をヴァカにする映画を制作するつもりだった

靈団がなぜこのような事を言ってくるのか、僕は全く意味が分かりませんでしたが「松本人志」氏に関するインスピレーションを靈団はたびたび降らせしていました。

どうも松本人志氏は僕をヴァカにする映画を制作するつもりだったようです

で、これも昔の事ですので詳細は忘れているところがありますが、だいたいのあらましのみを述べますと、どうやら皆さまご存じの松本人志氏が、僕、たきざわ彰人をヴァカにする映画を制作するつもりで準備していたようなのです。

いえ、どのような映画を制作するつもりだったとか、具体的な事は靈団は言ってきませんでした。その時点で松本人志氏の脳内に、まだ「たきざわ彰人を最大級に侮辱して笑いを取るストーリー」の骨子が固まっていなかったのかも知れません。

ただ「ピーチピチ（佳子）骨肉腫で帰幽♪イイわああ♪」のブログを松本人志氏も間違いなく見たのでしょう。そして「このヴァカは使える！」と思ったのでしょうか。

松本人志氏だけでなく、複数のお笑い芸人が僕のブログを見ていたようです。靈団がそれを匂わせるような事を言っていましたので。

いっそ作ればよかったのに、そうすればもっと爆発的に情報拡散できたのに

で、結局、松本人志氏は僕を侮辱する映画を作るところまでは行かなかつたようなのです。が、今だからこういう事が言えるのですが、ハッキリ言つ

て「その映画、作ればよかったのに」と思ったりもするのです。

確かその当時、松本人志氏は映画を複数制作して話題になっている最中だったはずですから、もし「日本の皆さま、このヴァカをご覧下さい！」みたいな映画が制作されていれば、その情報拡散効果は絶大なモノがあつただろうと思うのです。

その映画がきっかけで僕のブログへのアクセスが増えたはずですから、スピリチュアリズム普及の総指揮官であるイエス様のご意志遂行である「霊的知識普及」も相当に進んだはずです。僕のブログには霊的知識がたくさん書かれていますからね。

そしてもちろん「宇宙一のバカ」大量強姦殺人魔、明仁、文仁、徳仁、悠仁の邪悪の正体の拡散にも役立った事でしょう。日本国民の洗脳を撃ち破る良いキッカケになったかも知れないのに、その部分が残念です。

もっとも、この時はまだブログで強姦殺人魔、天皇一族の邪悪の正体を公言するところまでは行ってなかったかも知れません。ちょっと前後関係が分かりません。

僕のアイデンティティが破壊されても、そんな事はどうでもよかった

もし松本人志氏がそのような映画を制作していたら、情報拡散という意味では素晴らしい成果が上がった事と思いますが、僕という人間のアイデンティティは徹底的に破壊されていた事でしょう。

何しろ松本人志氏の影響力がスゴイですから、僕は日本中からキ○○イ扱いを受ける事になっていたはずです。日本にいられなくなっていたかも知れ

松本人志氏が僕をヴァカにする映画を制作するつもりだった

ませんね。

しかし、僕はブログの中で「靈界にて賜る靈的褒章が人生目標」と公言し続けています。永遠の人生の中のほんの一瞬、降下させられて滞在しているだけの、この物質界での評価など、僕はまるで眼中にないのです。

物質界生活者からどんな誤解、迫害を受けようとも、イエス様との約束を果たし切って帰幽する事の方がはるかに重要、という靈的知識を獲得していますので、僕はヴァカにされる事を恐れなかったのです。イエス様、守護靈様は僕の本心をご存じですからね。

たきざわ彰人役はオードリー春日か？やればよかったのに笑

えー、これも確かな情報ではありません。全く確認の方法もないのですが、どうも、松本人志氏が僕をヴァカにする映画を制作するにあたり、映画の主人公「たきざわ彰人」役を「オードリー春日」にやらせるつもりだった、ような感じの事を少し言わされたことがあります。

オードリー春日といえば当時ブレイク真っ最中だったはずですので、もしそんな映画が制作されていれば、拡散力は絶大だったでしょうね。僕の事などどうでもいいので、真実の情報拡散のために、その映画、作ればよかったのに笑。

幽体離脱時に松本人志氏が帽子をプレゼントしてくれましたが…

で、これは後日談ですが、靈団が松本人志氏に関する事を全く言ってこなくなつて1、2年経過した頃でしょうか、幽体離脱時に松本人志氏との出会いがあったのです。

松本人志氏本人だったのか、霊団の演出だったのかはちょっと判断できませんが、離脱中の霊体の僕のところに松本人志氏がやってきて、僕がいつもかぶっている帽子とそっくりの物をプレゼントしてくるのです。

そのとき松本人志氏は、何だか申し訳なさそうな感じでした。その帽子を受け取った靈体の僕は「なんだろなあ」と思ったものでした。



もし映画が製作されていたら、どれほど大騒ぎになっていたでしょう、惜しい…

中央アルプスの怪奇。深夜の山で初めて人に抜かされる

日時は正確に憶えていませんが霊性発現以後だった事だけは確かだと思います。画家活動は霊団にやめさせられてしましましたが、山だけはずっと行き続けていました。（これは現在もそうです）そしてある週「中央アルプス（木曽駒ヶ岳）」に行った時の事です。

片道5時間以上でようやくスタート地点の駐車場に到着

僕はお金がありませんのでいつも高速道路を使わずに下道（一般道）で山に向かうのですが、この中央アルプスの登山道入口の駐車場までは下道で片道5時間20分かかります。

深夜の駐車場はたいてい車が1台も止まっていなくて僕の車だけなのですが、この時は1台だけバンが止まっていました。

ロングドライブにだいぶ疲弊しつつも準備を済ませて休憩なしでいきなりスタート。ヘッドライト、ハンドライトで闇を照らしながらガンガン標高を上げていきます。そしてスタート1時間半くらい経過したでしょうか、標高もだいぶ上がってきた頃、想像だにしない事が起こりました。

なんですよ！うしろからヘッドライトの光が追いかけてくる

僕は常にナイトアタック（深夜の山行）です。この深夜の時間帯に人（ハイカー）と遭遇する事はありません。

僕の長い山の経験でも片手で数えるくらいしかこの時間帯に人と遭遇した事はありません。しかしこの中央アルプスのアタックの時は、何と僕のうしろからヘッドライトの光が接近してくるのです。

そしてそのヘッドライトの人物は、僕に追いついて僕を抜かしていきました。僕は「山で人に抜かされた」のが初めての経験だったので、あ然としながら前方の明かりを見ていました。

その人物はどんどんスピードを上げ、ついに僕の視界から消えたのですが、しばらくすると再び前方に明かりが見えてきました。

先ほどの人物がザックを下ろして何やら作業をしていたのです。僕はその横を通り抜けてその人物を再び抜かし、登攀を続けます。

するとその人物はザックを背負って再スタートし、しばらく僕のうしろについて登攀していましたが再び僕を抜かしていきました。

見ず知らずのふたりが一緒に上り始める

2回も抜かされたので僕は思わずその背中に向かって「僕は山で人に抜かされたのは人生初です。あなたは一体何者ですか？笑」と声をかけたのです。

するとその人物も「いえいえ、僕こそ初めてです。あなたこそ一体何者ですか？笑」と返してきてくれて、真っ暗闇の山の中でふたりの男がヘッドライトでお互いの顔を照らし合いながら半笑いになります。

それからしばらく、この見ず知らずのふたりは一緒に登攀を開始し、ややスリッピーな岩稜帯を声を掛け合いながら一緒にクリアしていき、山小屋のあるポイントまで到達したところで、ついに足を止めてお互いの事を語り出しました。

なんだと！「トランシジャパンアルプスレース」の参加者だと判明



常に単独行の僕が人と一緒に山を進むのは極めて異例、この時以外記憶にないかも…

その時の会話の内容はもうはっきり覚えていないのですが、話の内容からして、その男性がどうやら「トランスジャパンアルプスレース」の参加者だという事が分かったのでした。なるほど、どうりで僕などという男は抜かされる訳だ、そう思ったのでした。

ちなみに「トランスジャパンアルプスレース」というのは、富山県の日本海沿岸をスタートして、北アルプス、中央アルプス、南アルプスと縦断して静岡県の太平洋沿岸にゴールするという、たぶん日本でもっとも厳しいトレイルランニングレースです。トップ選手で完走まで5日間、制限時間8日間という、とてつもないエンデュランスレースです。

NHKで特集が組まれた事もあるようなのでご存じの方もいらっしゃるのではないかでしょうか。公式サイトもありますので興味を持たれた方はご覧になってみてはいかがでしょうか。

TJAR「トランスジャパンアルプスレース」

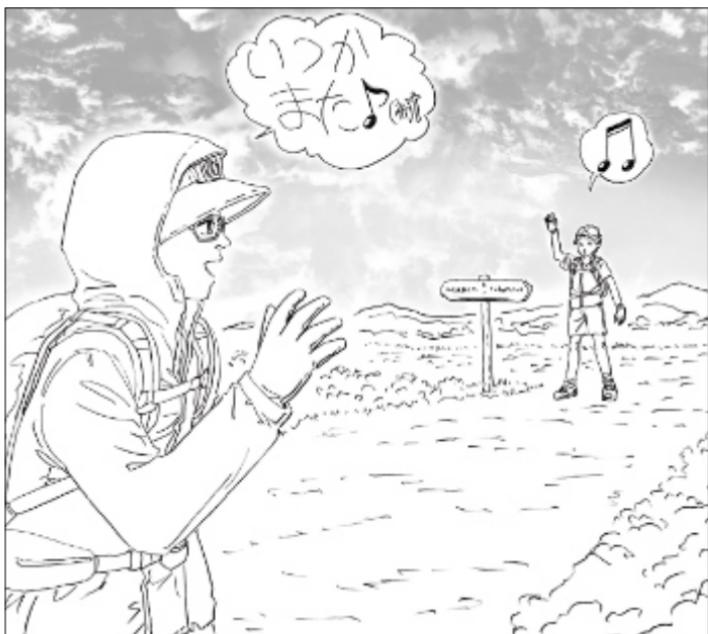
<https://www.tjar.jp/>

ピーチピチ（佳子）の事を話す訳にもいかず苦笑い…

で、その男性が自分の事を話して下さった訳ですから、僕も自分の事を話すべきシチュエーションなのですが、僕の場合は事情がありまして、まさか靈的な内容や靈団の事などをいきなり切り出す訳にもいかず、ましてや「天皇一族の邪惡の正体を拡散しまくっている男です」などとは言えるはずもなく、ただ「たきざわ彰人」という活動名だけ伝えるにとどめたのでした。

※イヤ、この時はまだ「隔離フィールド」発動前で、天皇一族の邪惡の正体を教えられる前だったかな？チョト覚えてませんが…。ピーチピチ（佳子）の事はもう無料ブログで書きまくっていた頃だったと思います。

それからふたりは別のコースを進む事になり、日の出前、やや空が白（しら）んできた山の中で「またいつかお会いしましょう、きっとその日が来ると思いますよ♪」みたいな感じで笑顔で別れた、という事があったのでした。僕が山で人に抜かされたのは後にも先にもこの時1回限りなのでした。



とってもさわやかな別れだったのです♪

※物質界生活中に再会する事がなくとも帰幽後に再会する事になるでしょう。物質界でのどんな小さな縁も帰幽後に活かされるのだそうですから。「ベールの彼方の生活」をお読み頂ければ分かります。

守護霊様初顯現。僕の全てを見透かした女性

物質界生活中に自身の守護霊と面会を果たす事は異例中の異例と靈闘連書籍にあります。僕はその「面会」を数回体験するという光栄に浴させて頂いています。

幽体離脱時に守護霊様と初の対面を果たす、守護霊様は満面の笑顔

守護霊様との面会は幽体離脱にて突然叶えられました。まず離脱中の靈体の僕は、ある建物の入口のところで立って待っています。（指導霊が僕をそこで待たせていたのですよ）

その時「安らかな雰囲気」に包まれていた事を覚えています。すると前方からひとりの女性が歩いて近づいてきます。その女性の姿を当時、絵に描ましたが、今回新たに描き起こしてみました。（次ページ）

「僕のすべてを見透かした女性」という言葉が心に飛び込んでくる

この女性は子どものようにとても背が低かったのですが、満面の笑顔で靈体の僕を見つめて下さったのでした。

そして次の瞬間、僕の心の中に「僕のすべてを見透かした女性」という言葉が飛び込んでき、その後、幽体離脱が終了して肉体に戻る、という短い面会だったので。

肉体の物的脳髄でもハッキリ「僕のすべてを見透かした女性」という言葉を思い出すことができました、つまりそれを忘れないように守護霊様が保護してくれていたので思い出せたのです。



1回目の守護霊様との面会の際のお姿はこういう感じだったのです

そして、それまで獲得していた霊的知識に照らし合わせて「僕のすべてを見透かした、という事はつまり、僕の“守護霊様”という事なのではないか…」という理解に瞬間的に到達したのでした。

1回目の顕現の際の守護霊様の姿は、僕に向けられた「謙虚の要請」だった

ちなみにこの最初の面会の時の守護霊様のお姿には“意味”がありまして、この時のお姿は、僕が当時仕事していた場所での“ある同僚女性”にそっくりのお姿だったのです。

その女性は僕の母、とまでは行きませんがそれくらい年上の女性で、当時、僕はその女性の言う事を何でも「うんうん♪うんうん♪」と素直に聞く状態でした。まあ良好な関係だったという事ですね。この女性も、守護霊様のお姿同様、とても背が低いのです。

で、守護霊様が、その「うんうん♪うんうん♪」の女性とそっくりの容姿で顕現した意味は「私や靈団に対しても、その“うんうん♪うんうん♪”で行きなさい」という事だったのです。

つまり守護霊様から僕に向けられた「謙虚の要請」だったという事になるのです。わざわざ「うんうん♪うんうん♪」の女性の姿をまとめて顕現するくらいですから、僕の「うんうん♪うんうん♪」が、守護霊様にとって“よほど都合がよかった”ものと思われるのです。

2回目の顕現の時の守護霊様が美しすぎた、お顔立ちが整いすぎている

そして時が流れ、使命遂行の開始合図となる「隔離フィールド」が発動し、僕はいよいよ苦悩の真っただ中に突入していきます。（隔離フィールドについては第3部にて解説いたします）

その異次元の試練を耐え続けて、数ヶ月後に「隔離フィールド解除」を思わせる幽体離脱時映像を挙げる事になるのです。

それは霊体の僕がアスファルトの道路の上で工事用のパイロンを片付けていたという内容だったのですが（そのパイロンが“隔離フィールド”という意味ですよ）、あらかた片付け終わった頃に、ひとりの女性が現れるのです。



2回目の守護霊様のお姿の美しさは衝撃的だったので…僕の絵では表現できません

その女性は、身長がまるっきり子どもで、たぶん100～110cmくらいしかなかったと思うのですが、しかしどにかく「お顔立ちが整いすぎている」「とてもなくお美しい」女性なのです。

1回目の面会の時は、守護霊様からのお言葉がありましたが、今回は何も語られません。しかし、その「あまりにもお美しいお顔」で僕を真剣に見つめているのです。

1回目の「うんうん♪うんうん♪」の女性と明らかに違う容姿でしたが、僕は、この美しい女性が「守護霊様」であると理解したのでした。

2回目の守護霊様のお姿は「奴隸の女の子」の姿だった

「霊は自在に容姿を変える事ができる」という事を霊的知識として知っていましたので、1回目と2回目で守護霊様のお姿が違う事にもそれほど驚きを感じませんでした。

むしろ、1回目の時は謙虚の要請であえてあのお姿をまとう必要があっただけで、今回の2回目の方がより真実の守護霊様に近いお姿なのかも知れないと思ったのです。

普通、幽体離脱から帰還すると離脱中の出来事をあまりうまく反芻する事ができないものなのですが、その時は守護霊様のお姿、整いすぎているお顔をハッキリ、しっかり反芻する事ができたのでした。

つまり、守護霊様が離脱中の他の記憶と混ざってしまわないように自分の姿のイメージを“保護”して、鮮明に思い出させたという事なのです。

関係ない女性であればそんな鮮明に反芻させる必要はないはずですから、

その鮮明さによって「これが真実の守護霊様なんだ」とハッキリ理解する事ができたのです。

そして、この時はそうだと気付く事ができなかったのですが、この2回目の守護霊様のお姿は、このあとに靈団が怒涛に情報を降らせてくる事になる「奴隸の女の子」を模したお姿だったという事を、あとになって知ったのでした。

つまり、守護霊様みずからが奴隸の女の子の姿をまとって僕に真剣な表情を向ける事によって、この先の僕の靈的使命遂行の進行方向を示唆していたのでした。「アキト、これからあなたが進む道はこういう感じよ」という事だったのでしょうか。

※奴隸の女の子、ももちゃん、シルキーについても第3部にて解説させて頂きます。

運転中に守護霊様にシャウトされた事もある

その後、山に向かう車の運転中、眼氣を催して反対車線に飛び出しそうになった事がありました。

その時、靈聴に女性の「アキト！」というシャウトを聞いて、あわててハンドルを切って元の車線に戻った、という事がありました。

その瞬間「あ！今のが守護霊様の“ナマ”的声なんだ…」という事を知ったのでした。その声は、僕の物質界生活の中のどの人物にも当てはまらない、初めて聞いた声色で、この体験がキッカケとなって守護霊様の「声」も覚えたのでした。

物質界生活時の守護霊様と思われる幽体離脱時映像もあった

また、幽体離脱時に日本ではない「宗教の町」のような、今から200～300年前ぐらいの時代設定と思われる土地に赴いた事がありました。

シルクロード的雰囲気の漂うその国は、とにかく石を高く積み上げる事が民衆の生活の一部になっていて、積み上げた石が団地のような立方体で屋上部分が平らになっていてみんなそこに集まって座っているのです。

このように石を高く積み上げては平らな屋上に登るという事を繰り返しており、それが幸せになる方法と信じているようなのです。まあ要するに国王に洗脳されてそういう無意味な作業をやらされているという事なのですが。

そこに異邦人の男性という設定で霊体の僕が現れます。僕もその高く積み上げられた石の立方体に登りますが、一緒に登る町の女性の話しぶりから「なるほど、無意味な事をやらされちゃってる人たちなんだな」と理解するのでした。

その女性（守護霊様）と霊体の僕は「ウマが合った」

と、そこにある女性が現れます。男性モノのようなジャケットを着て動きが軽快です。その女性と異邦人の僕は一緒に旅に出発する事になり、女性が長く家を空けている間に家が荒らされるのを防ぐために、部屋中にホコリを降らせて女性の部屋を廃墟のように見せるカモフラージュをおこないます。

僕もその作業を手伝い、その後、女性はジャケットのホコリを勢いよく振り払って僕（異邦人）と出発する…といった映像でした。

守護靈様初顕現。僕の全てを見透かした女性



3回目の守護靈様のお姿がたぶん実際の守護靈様にもっとも近いお姿なのではないか

幽体離脱中もそう感じましたが、離脱帰還後のトランス時にも靈団が「ウマが合う」と靈聽に降らせてきました。その女性と異邦人の僕が意気投合して一緒に旅に出たという意味ですね。

で、その後のすったもんだは省きまして、この軽快な女性が、どうやら「守護靈様の物質界生活時のお姿」という理解に到達したのでした。

守護靈様と僕がホコリでカモフラージュして旅に出る、これはつまり現在の物質界人生の事を言っているのではないかと思いました。物質界人生がホコリみたいなもの、そして守護靈様が僕を導き続けている、という意味です。

靈は容姿を自在に変えられる、もちろん守護靈様はこんなに背が低くない

これ以外にも細かい守護靈様の顕現はあったのですが、主なものはこの3つという事になります。驚く事に、3つとも守護靈様のお姿が違うのです。なのに全て守護靈様である事が分かったのです。

靈闘連書籍でお勉強して頂ければ分かる事ですが、靈は容姿を自在に変える事ができます。幼い子どもが他界して、親がその後、20年も30年も物質界人生を送ってから帰幽すると、大昔に他界した子供が、当時の幼い姿をまとって親を迎えてくれます。

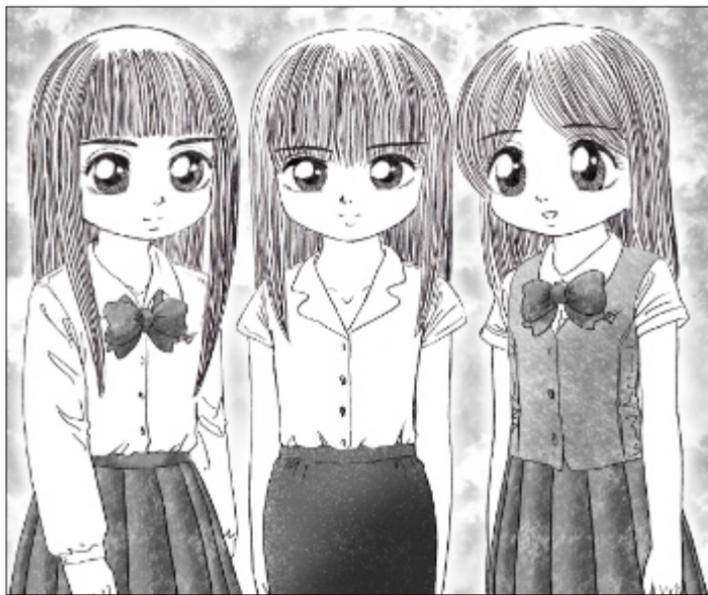
その子どもは靈界でくすく成長し、現在は成人していますが、親はその成人した姿を知りませんので、それが自分の子どもだと分かりません。

それで子どもの方が分かってもらうためにわざと幼い当時の姿をまとめて親に会いに来る、という事があるそうです。

この例と同じように、守護霊様も僕の使命遂行の進捗に合わせるカタチで、そのつどお姿を変えておられた、という事のようなのです。

で、紹介した3つのお姿の中では、3つめの「一緒に旅に出た女性」が、たぶんもっとも守護霊様の真実のお姿に近いのではないかと予測されるのです。

しかし、僕的には、あの「隔離フィールド」の時の、美しすぎるお顔が忘れられない事と、もうひとつ、2回目の守護霊様の顕現が「奴隸の女の子」の姿である事を強調したい気持ちなのです。



ももちやん、シルキー、守護霊様をメインキャラとしたストーリーを描いてます

奴隸の女の子の存在を何としても拡散させ、救出につなげたいという想いを込めて、ももちゃん、シルキーと同じ身長で守護霊様の絵を書き続けてい るのです。

天皇一族に関するインスピレーションが降り始める

さあ、いよいよ靈団が“おかしな方向”に動き始めます。僕は意味が分からなくて、ただひたすら「？？？」の状態に突入していきます。

靈団のインスピレーションがあらぬ方向に降り始める

靈団が、全く意味不明な事を言い出し始めます。僕の人生と何の関係もない「天皇一族」に関するインスピレーションを降らせ始めてきたのです。

僕はデザインの人間であり、絵に人生の全てをかけてきたのであって、そのような人間に興味関心を抱いた事は、ただの1度もありません。なぜ靈団が急にこのような事を言い出してきたのか、僕はサッパリ分からないのでした。

実は幽体離脱時に靈界で会議に参加していて、そこで決まったらしいのです

が、実は僕の靈的使命遂行の仕事内容は、僕も参加している“会議”によって決定していて、僕も了承済みなのだとそうです。イヤ、あの、そんな会議に参加した覚えも、了承した覚えもないんですけど。

僕は肉体が眠って幽体離脱に突入すると、靈界で催されている会議に靈体で参加していたそうなのです。その会議の様子は全く物的脳髄に持ち帰る事ができず、何も反芻する事ができないので、その会議の席でどのような内容が話されたのか、僕は全然把握していません。

※しかし、会議と関係ない部分で少しだけ思い出す事ができた内容がありますので、それについては「超広大な公演会場 ドルカスか？老婆」にて後述します。



この会議の内容と物的価値で全く与そうできないかでした……(笑)

たぶんこんな感じだったのではないか、という想像図です

この時はまだ天皇一族の邪悪の正体までは降ってこなかった

今まで生きてきて1度たりとも興味関心を抱いた事のない、天皇一族という人間たちに関するインスピレーションを靈団がドッカンドッカン降らせてくるようになり、僕はただ当惑します。

が、このとき靈団はまだ、天皇一族の「邪悪の正体」までは降らせてこないでした。全く何の心の準備もできていない状態で、いきなりショッキンゲな内容を聞かされたら、僕が使命遂行を続行できなくなる可能性があるので、段階を踏んで少しづつ降らせていたのかも知れません。

明仁、文仁、徳仁、悠仁が「大量強姦殺人魔」であるという真実、そして「奴隸の女の子」に関する情報は、このあと間もなくして降り始める事になります。

“たいじゅさん”大失敗だった初めての「交霊会テスト」

僕はブログ、SNS等でひたすら霊的内容を拡散していましたので、それにに対するリアクションを頂く事が間々ありました。

霊的知識が全く頭に入っていない人間からの、僕に向けられたあからさまな侮蔑、罵倒をさんざん浴びせられていきましたが、その中に数人、霊的な事に理解を示してくれる人もいたのでした。

たいじゅさんという若者が僕の話を信用してくれたのです

その理解者の中に「たいじゅさん」（SNSのハンドルネーム）という若者がいました。彼は僕の語る霊的内容に大変興味を持ってくれたようで、意気投合してアレコレ話しているうちに「交霊会」の話題になりました。

たいじゅさんをサークルメンバーとして交霊会をおこなう事に

そして、どういう流れでそういう話になったのか、もう覚えていないのですが、僕を霊媒、たいじゅさんをサークルメンバーとして「交霊会」をおこなうという事になったのです。

この時点では僕は霊闘連書籍を相当読み込んで、かなりの理解度に到達していましたが「交霊会の運営手順」はほとんど理解できていませんでした。

知識を獲得した今、冷静に考えれば「当時はどう考えても僕が霊媒として機能するのは無理」と分かるのですが、その時の僕はそれが分からなかったのです。

そしてなんと、たいじゅさんがわざわざ僕の家まで来てくれる事になった

のです。よく僕などという男をそこまで信用してくれたものだと感謝の気持ちでイッパイでしたが、これが悲劇の始まりだったのです。

たいじゅさんが僕の家までわざわざ来てくれたというのに実母が…

そして本当にたいじゅさんが僕の家まで来てくれました。会ってみると大変な好青年で、僕を侮辱して冷笑を浮かべるとか、そういう事も一切なく、メールでやりとりしていた印象そのままの誠実さがありました。

僕は事の重大さをまだ理解していないまま、たいじゅさんを家に迎え入れようとします。するとそこに、霊的な事に全く無知の“実母”が立ちはだかります。

実母は、霊的な事を理解していない人間が示す典型的な侮辱の態度でたいじゅさんに悪態をつき始めます。霊的で僕の家に来た事を実母が知つてしまい「そんな気持ち悪い事はやらせないよ」と、初対面のたいじゅさんをののしるのです。

たいじゅさんはいきなり侮辱の言葉を浴びせられてすっかり縮み上がつてしましました。僕はそれを見て瞬間的に実母に「キレました」。

その時実母に何と言ったかは忘れましたが、霊的知識に基づいて「何も分かっていないこの愚か者よ！」みたいな感じでシャウトしたと思います。

実母は本を一切読まずボキャブラリーというものが全くありません。ましてや霊的知識などかけらも獲得していませんので、僕の語る霊的内容が全く理解できません。

ですので、僕に反論する言葉を持ち合わせていません。実母は僕の勢いに

押されてブツブツよく分からぬ事を言いながら、奥の自分の部屋に引っ込んでいきました。

僕はたいじゅさんに平謝りして、2階の自分の部屋に招き入れたのでした。たいじゅさんは「なんてところに来てしまったのだろう」と思った事でしょう、僕は本当に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

不愉快を乗り越えていざトランス突入、しかし何もない

そして気を取り直して2階の僕の部屋でしばし談笑します。僕の部屋の書棚にはその当時所持していた靈闘連書籍50冊がズラーリと並べてありました。

たいじゅさんはその中で特に「イエスの少年時代」が気になったようで、僕は「ええどうぞどうぞ♪」と言って、その書籍をその場でプレゼントするのでした。何しろあんな事があったばかりでしたからね。本1冊くらい安いものです。

そして、できるはずもない「自身の靈媒発動」に向けて、むなしトランスに突入していきます。今にして思えば、できるはずがなかった事がよく分かるのですが、その時の僕はおおまじめで自身を靈媒とした交霊会をやるつもりだったのです。

靈媒として機能しなくて当然なのですが、当時はそれが分からなかった

そして、たいじゅさんが見守る中、僕は自分の机に座った状態で「トランス」に突入していきます。僕は真剣そのものだったので、たいじゅさんも「もしかしたら本当にできるのかも」と一瞬思ったのかも知れません。

目を閉じて精神を極力無にしようとします。僕は自分が霊媒として機能する事を全く疑っていませんでした。

何しろ自分がこんな霊的状態に突入していましたので「できるはずだ」みたいに思ったんだと思います。来る日も来る日も霊団からのインスピレーションを受け取り、様々な霊現象も体験していましたので、まあ信じてしまったのもムリもなかったのかも知れません。

当然のごとく失敗。ただ、両手はスゴイ状態になっていたのです



僕の中では「思い出したくない最悪の出来事」なのです…

そして10分、いや、20分だったかな、それくらいトランスを維持したのですが、もちろん何も起こる訳がなく、僕の心に疑念がどんどん湧いてきて、ついにトランスを解除してしまったのでした。

その時のたいじゅさんの気持ちはどんな感じだったんでしょうね。それと思うと申し訳ない気持ちでいっぱいになります。

皆さまには言い訳に聞こえるかも知れませんが、実はその時、僕という靈媒は機能しませんでしたが、トランス中の“両腕”がスゴイ事になっていたのです。

腕だけが別の生き物になって宙を浮いているような感じ、と言えばいいでしょうか。トランスを維持している時、腕がずっと無重力状態になっていたので「いけるはずだ」と僕は思って、それでトランスを長く続けていたのです。

しかし宙には浮くが靈言は降りません。僕はたいじゅさんにまたまた平謝りし、その後、たいじゅさんを車で最寄り駅まで送ったのでした。

結果的に僕はたいじゅさんの前で大恥をかかされトラウマとなる

駅でたいじゅさんを降ろして別れながら、僕は靈団に対する“不信感”を強く感じたのでした。

支配靈が物質界の靈媒を使用して靈言を降らせるというのは、それはもう大変な準備と努力が必要な仕事であり、よほど周到に計画された靈団が組織され、長年にわたって準備が進められていない限り、物質界の靈媒を自由に操作する事はできません。

この時の僕にその準備ができていなかったのは明白で、失敗したのは当然だったのですが、しかしそれでも「何とかしよう」として腕だけでも動かすつもりだったのかも知れません。

トランスを維持していた机にはPCのキーボードがありました、僕はまさかのためにテキストエディタも開いた状態にしていましたので、もしかしたら腕を操作してキーボードを撃ち、何かしらテキストのメッセージを残そうとしていたのかも知れません。

結果的に僕は、たいじゅさんの前で大恥をかかされる事となり「自身が霊媒として機能する」事に対して「トラウマ」を感じるようになりました。この時の経験が今も尾を引いていて、霊団に対する潜在的な不信感が僕の心に常にくすぶるようになったのです。

たいじゅさんに霊的書籍50冊をプレゼント。書籍群を手放してしまう

この「たいじゅさん一件」は、僕にとって大きなトラウマとなりました。霊団に対して本格的に疑念を抱いたのもこの時が初めてです。

たいじゅさんは霊関連書籍に興味を持ってくれていた

で、わざわざ家まできててくれて、しかもあれほど迷惑をかけてしまった、たいじゅさんに“何もない”という訳に行かない、という事で、僕はたいじゅさんにメールを送付します。

たいじゅさんに霊関連書籍50冊をプレゼント



たいじゅさんにとっては「イイ迷惑」だったのかも知れませんが…

たいじゅさんに靈的書籍50冊をプレゼント。書籍群を手放してしまう

それは「お詫びのしるしに僕が現在所持している靈関連書籍50冊を全てプレゼントします」という内容でした。

たいじゅさんはもちろん面食らっていたようでしたが、僕は一切ためらう事なく、その当時所持していた書籍を段ボールに全て詰め込んでたいじゅさんに送付したのでした。そうせずにいられなかつたのかも知れません。

これによりこれまでかき集めた靈関連書籍を全て失ってしまう

靈性発現前から数冊所持していましたが、靈性発現後に靈団に「本、読み読み」言われて次々と買い足していく、50冊ほどになっていた靈関連書籍群を、このタイミングで全て失ってしまったのでした。

靈関連書籍未所持の状態で長らく使命遂行をするハメに

その当時から僕はブログ、SNSに靈的知識を投稿し続けていましたが、書籍を失った事により、書籍の内容をテキスト化する作業ができなくなってしまい、投稿の際に大いに困る事になりました。

「このまま訳にはいかない」という事で、当然の成り行きというか、失った書籍の“再入手”を開始したのです。

とはいえ僕は靈団に人生を破壊されていますのでお金がありません。失った50冊をすぐ買い直す事はできず、時間をかけて段階的に揃えていかざるを得ませんでした。

靈関連書籍“再入手”の長く険しい道のり

正真正銘とされるスピリチュアリズム関連の書籍は、僕が失った50冊以外

にもたくさんある事は知っていました。そこで、この“再入手”をキッカケにして、その失った50冊以外の書籍も入手しようと計画したのです。

しかしこれが大変な道のりで、ほとんど絶版、古書しかない、その古書が高い、とてもこんな金額は出せない。そこでその高い古書を購入保留状態にして値段が下がるのをずっと待ちます。半年くらい待ってようやく値段が下がって「今だ！」と購入ボタンを押す、という事が何度もありました。

さらに訳者、近藤千雄先生が物質界生活中に翻訳しなかった英語書籍にまで僕は手を出し始めます。このスピリチュアリズム英語原書の入手が、また大変なのです。

海外サイトで英語書籍入手、初めての経験

海外の古書サイトにアカウントを作ったり、Amazon.co.ukにアカウントを作ったりして、僕は英語ができないのに英語でメールのやりとりをして書籍代金より送料の方が高いという状態で英語書籍を手に入れていたのです。

さらに書籍を日本に発送できないという事もあり「荷物転送サービス」というモノも初めて利用しました。転送会社の倉庫にまず書籍を届けてもらいます。ここでまず送料が発生。その倉庫から日本の僕の住所へ書籍を転送してもらうのです。そこにも送料がかかります。

ただでさえ高い英語の古書、そこに2重の送料という3重の料金を支払ってようやく英語原書を入手、という事も数回おこないました。

その英語書籍を全ページスキャンしてOCR変換にかけて英語テキスト化して、その英語テキストを見直し清書して、それをGoogle翻訳で日本語化…こ

たいじゅさんに靈的書籍50冊をプレゼント。書籍群を手放してしまう

の説明はこれくらいでいいでしょう。大変だったという事です。

長い年月を経て、手放した50冊をはるかに超える書籍群を入手



この書籍群の全ページをスキャン完了しています、テキスト化するためです

そんな事を繰り返して、何年が経過したでしょう、ようやく入手予定の書籍をほぼ全て入手する事ができたのです。現在ほぼ100冊にのぼっています。

厳密にはまだあと数冊未入手の書籍が残されていますが、それらを手に入れれば、正真正銘とされるスピリチュアリズム関連の書籍群をほぼパーフェクトでそろえた、という事になるでしょう。

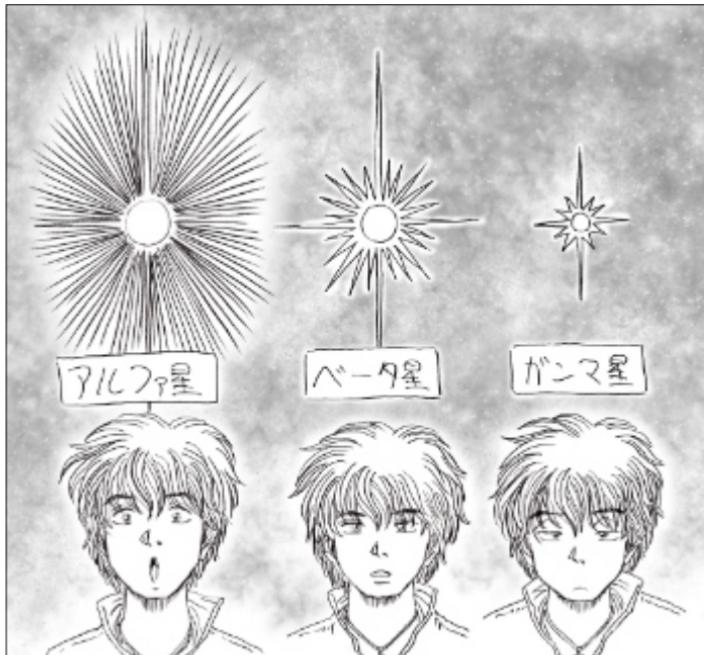
あとはこれら書籍をテキスト化する作業が残されていますが、これが本当

に地獄の作業で…僕の残された物質界生活中に全書籍のテキスト化を完了させる事は不可能かも知れません。できるところまではやるつもりですが…。

インスピレーション「ミスター・アルファ星」最初、意味が分からなかった

忘れもしません、このインスピレーションが降ったのは2013年1月頃でした。靈団が靈聽にこのように言ってきましたのですが、僕は「ミスター」は分かるのですが（たぶん僕の事を言っているのでしょう）「アルファ星」が意味が分からなかったのです。

「アルファ星って何？」ググってやっと意味が分かった



この当時はアルファ星だったので、現在はだいぶ残念な状態と予測…

で、ふとんを出てからさっそくググって「アルファ星」の意味を調べます。すると、要するにもっとも明るい星が「アルファ星」その次に明るい星が「ベータ星」さらにその次が「ガンマ星」という事のようでした。

つまり、靈界から物質界を見下ろした時、僕のいる場所がもっとも明るく輝いていて目立つ、という事を言いたいのだな、と、だいたいの意味が理解できたのでした。

善行は光って見え、悪行は暗くて見えないという性質がある

靈的知識によりますと、靈界上層界から物質界を見下ろした時、善なるおこないをしている人間は、靈眼にはひかり輝いて見え、宜しくないおこないをしている人間は、暗くて良く見えないのだそうです。

つまり、当時の僕は靈界の方々にとてもよく見えた、ひときわ輝いていて目に留まった、というだったようなのです。だから靈性発現に至ってしまったという経緯もあったのかも知れません。

靈性発現当時は光っていたのでしょうか現在は残念な状態に…

要するに靈界から仕事のために物質界に降下する時、その降下していく薄暗い不気味な世界の中に、ところどころにポツ、ポツ、と降下の勇気づけになるような善行の光輝を見出す事ができる、その中でもひときわ輝いていたのが僕、それが「ミスター・アルファ星」という事だったようなのです。

その光榮な状態がずっと続いたら僕もうれしかったのですが…現在の僕は靈団に対して本気の全力で反逆していますので、その光輝はだいぶ抑えたものになってしまっている事でしょう。

僕は靈視はありませんので自分の靈体の光輝を見る事ができませんので分かりません。まあ日常生活において悪い行いをしているつもりは一切ありませんので、多少は光っているのでしょうか…。

靈的好条件は「隔絶（かくぜつ）」によって得られる

思えば靈性発現前は、ドリームワーク（画家の人生）に全力で撃ち込んでいて、心は絵を描く事に一直線、邪念のようなものは全くなかったのかも知れません。



僕は山で日常的にシカちゃんと会っていますが、だいたい逃げられてしまいます笑

人と会う事も一切せず、ひたすらひとりで山に赴いて、シカちゃん鳥ちゃんとお話しているような生活を送っていました。皆さんには“世捨て人”的に映るかも知れませんが、僕本人はいたって健康体、楽しくて仕方なかつたのです。

靈的なモノを感じ取ろうとする時は「隔絶（かくぜつ）」を必要とする事は、靈的知識の常識です。煩わしい人間関係から超脱する、無意味な雜務（物的仕事等）に振り回されず自分ひとりの時間をもつ、完全にひとりになれる場所がある、こういう意味での「隔絶」です。

誰にも理解されないドリームワークにひとりで撃ち込んだ事、山への単独行（しかも僕は夜間の山行ですので余計に人がいない）こういったモノが靈的好条件を整えていった、という事だったのかも知れません。

それがまさか「イエス様からお声がかかる」ほどの好条件だとは思ってもみませんでしたが…。

小学校時代の友達「香世子さん」靈聴にて30年ぶりの再会

靈性発現以来、毎日が異次元の体験の連続で、僕は翻弄されっぱなしでしたが、徐々にインスピレーションを受け取る“コツ”のようなモノも身につけていました。

インスピレーションをもっとも受け取りやすいのは「寝ようとしてふとんに横になって目を閉じている時（この時、トランスに突入している）」という事も分かりました。

トランス時、肉体は寝ているのに僕の幽体は起こされて

そのトランス時、またしても初の体験をさせられる事になります。僕の肉体はふとんに横になって目を閉じていますが、その時、肉体はそのままで、僕の靈体の上半身だけが起き上りました。

これは僕がそのようにしたのではなく、指導靈によってそのようにさせられた、という事のようです。僕には自分の靈体を意識的に操作する能力はありませんので。

で、靈体の上半身のみがムクッと起き上った状態で、僕は指導靈のする事に一切抵抗せず、そのまま身を任せ、ただトランスを維持する事に集中していました。

靈聴に小学生当時の香世子さんの声がハッキリ聞こえたのです

すると次の瞬間、僕の靈聴に「アキトくん♪」と、女性の声が鮮明に、クリアに聞こえたのです。その聞こえ方は、まるですぐ耳元でささやいたかのような聞こえ方でした。実際に僕のすぐ横にいたのでしょう。

そして、その声に僕は聞き覚えがあったのです「あ！香世子さんだ！」僕はすぐ分かりました。



ものすごい至近距離だったので、超鮮明に香世子さんの声が聞こえたのです

香世子さんは、僕が小学校の時に仲良しだった女の子でしたが、違うクラスでした。しかし僕は休憩時間になると教室を出ます。すると香世子さんも自分のクラスから出てきて廊下にいる僕と合流します。

そしてチャイムが鳴るまで一緒に遊んで、また自分のクラスに帰っていくのです。そんな事をだいぶ長くやっていました。いかがですか皆さま、なか

なかの仲良しでしょ笑。

つまり香世子さんがもう帰幽している事を知った

それくらい仲良しだったのですが、まあ小学生時代の事ですからケコーンとかそういう事はなくて、卒業と同時に会う事もなくなり、それきりどうしているのかも全く分からず、僕はもう香世子さんの事はすっかり忘れて數十年が経過していたのです。

その香世子さんの、小学生時代そのままの声を靈聽に聞いたのです。聞いた瞬間に「あ！香世子さんだ♪」と分かったのです。

小学校卒業以来30年ぶりくらいの靈的再会で、僕は大いに感動したのですが、その瞬間「あ、つまり香世子さんはもう帰幽しているという事か」と理解したのでした。

ちなみに物理的心靈現象に「ボイスボックス」というものがあります。これは靈の物質界生活時代の肉体の「声帯」とそっくり同じものをエクトプラズムでこしらえ、そのボイスボックスに靈体の口をあてがってしゃべる事で、物質界生活時とほとんど同じ声を再生できる、という靈現象です。

これは肉の耳に聞こえるようにこのような手の込んだ事をしているのであって、僕の場合は靈の耳で聞いていますので、香世子さんはボイスボックスを使用せず、ただ僕に最接近して耳元で名前を呼んだ、という事だと思います。

その後、トランス練習の時にも香世子さんの顯現がありました

思いもよらない香世子さんとの再会を果たしましたが、その後、僕はどう

いう経緯でそういう事をしたのか忘れてしましましたが「トランス練習」というモノをやった事がありました。

イスに座って目を閉じ、トランスを維持する、ただそれだけの事なのですが、その練習中に、僕の靈視に何かを見せようとしてうまくできずにいるような何かを感じました。

僕はそのままトランスを維持します、すると普段靈団に見せられている映像とは違う、ややぎこちないモノを見ました。それは女性の顔だったのですが、僕の知らない女性でした。

しかし顔の雰囲気と、香世子さんの声を聞いた直後だった事もあり、その女性が成人した香世子さんだと理解したのでした。僕は香世子さんの小学生時代の顔しか知りませんからね。ちなみに当時このように絵を描いています。



たぶん物質界の人間に自分の姿を印象付けるのは初めてだったんだと思います

幽体離脱時に見た「香世子さん熱唱♪変幻自在ライブ☆」

さらに香世子さんの件が続きます。幽体離脱時に僕は野外コンサート会場のようなどころに赴きます。そのステージに登場したのが、アイドルのような衣装を身にまとった香世子さんで、アニメ「超時空要塞マクロス」の挿入歌「シルバームーン・レッドムーン」にそっくりの歌を歌い始めたのです。



ライブ時の香世子さんはこういう感じで扇子を持っていました♪

香世子さんの衣装が曲調に合わせてキラキラ変わる変わる。香世子さんの立ち位置が瞬間にコロコロ変わる変わる。客席でその香世子さんの熱唱を見ている僕は「完全にアイドルだ♪」と思ったのでした。

その、香世子さんが歌っていた歌詞の内容の紹介は割愛させて頂きますが、僕の使命遂行を応援するような内容だったとだけ言っておきます。30年以上会っていなかった香世子さんからの熱烈な応援に僕は感動するのでした。

香世子さんからは要所要所で靈聴に話しかけられていた

他にも細かいモノを挙げれば結構あるのですが、あとひとつだけ。雪山をスノーシューで進んでいる時、ラッセル気味に登攀するセクションで僕は苦しい状態でした。

そして心の中では使命遂行の苦しい状況を思い浮かべていました。すると次の瞬間、靈聴に「ガンバって♪」と声を聞いたのです。ほかでもない、香世子さんの声でした。

香世子さんからの思わぬ応援の言葉に、僕は苦笑いしながら雪を切り裂いて進んだ、という事がありました。

香世子さん申し訳ありません、アイドル風の絵に描く事にしました

そんな感じで、香世子さんと思いもよらぬ「靈的つながり」ができたのですが、なにしろあのコンサートの時のアイドル姿が鮮烈でしたので、それ以来、香世子さんの絵を描く時は「アイドル風」に描くようになりました。

実際は、最初に描いた絵がもっとも現在の香世子さんの姿に近いと思うのですが、僕はWordPress（ブログ）内でマンガのストーリーも描いていまし

て、その中で香世子さんを「アイドル的立ち位置」として描いていますので、香世子さんに申し訳ないと思いつつも実際の香世子さんとは少し違う雰囲気に描かせて頂いています。

僕は靈性発現を果たして以来、苦しい事ばかりで、靈的人間になってあまりうれしくないと思っているのですが、この「香世子さんとの靈的再会」は、僕にとって大きな励ましとなるのでした。

イエス様に名前を呼ばれた時

「イエス様の怒涛の連続顕現」についてはすでに書きました。しかし、イエス様にまつわるお話は小さいモノも含めるとまだあるのです。その中のひとつにこういうモノがありました。

「アキトくん」と靈聽に呼ばれたが誰だか分からなかつた

僕はいつものようにふとんに横になってトランスを維持しています。すると「はるか星辰の彼方から響くハープの多重奏」とでも言いたくなる響き方で「アキトくん」と靈聽に聞いたのです。



遠くから聞こえるようなのに超鮮明に聞こえる、そういう聞こえ方なのです

鮮明でした、ハッキリ聞き取れました。しかし、僕の名前を呼んだ方が誰なのかが分かりません。それで目を閉じたままの状態で「こんなにちは、どちらさまですか?」と、思念で聞き返しました。

しかしお返事はありません。結局そのまま何もなく終わり、僕の名を呼んだその深く遠い澄んだ声の主が誰なのか分かりません。

靈的事象を理解する時は「前後関係」を見るのが大切

その後アレコレ考えるのですが、やはり声の主が分からぬのです。それで僕は、靈性発現以来さまざまな靈現象に浴させて頂いてきた経験から「靈的事象は前後関係を見て判断する」という理解に到達していましたので、日々の靈的経験を洗い出してみたのです。

するとちょうどその頃はイエス様にまつわるインスピレーションが何度も降っている時でした。それで「アリ? チョト待てよ、まさか…」と思ったのですが、確信が持てません。

僕の名を呼んだあの声は、イエス様だったのかも知れないと思うようになっていきましたが、なにしろそれきり再び名を呼ばれる事がありませんでしたので、確認の取りようがありません。もっともイエス様がどのようなお声なのか知りませんから、呼んで頂いてみたところで確認にはならないんですけども。

もしそうなら光栄、それで終わりとなりました

普段靈聴に聞いている靈団メンバー（たぶん指導靈）からのインスピレーション（つまり靈聴に声を聞いているという事）の響き方、聞こえ方と、僕

の名を呼んでくださった方の声の響きは、明らかに違っていました。

実際に違っていたのかも知れませんし、いつもと違う人物ですよ、という事を印象付けるために靈団があえていつもと違う響かせ方を演出してきた、という見方もなくもないと思います。

とにかくこの件はこの1回限りで終わりました。それで僕は「イエス様に名前を呼んで頂いたと理解しておこう、それを有り難く思う事で謙虚が維持できるなら安いものだ」みたいな感じに自分を納得させるのでした。現在もそのお声の主は分かりません。まあイイじゃないですか、イエス様と思っておけば。別に害はないですよ。

イエス様が僕の幽体を引っ張って起こしてきた

イエス様にまつわる靈現象がまだあります。僕はまたふとんに横になった状態でトランスを維持しています。肉眼は閉じている状態ですよ。

寝ている僕の目の前にイエス様が立っておられます

すると、寝ている僕の目の前に全身白い服装のイエス様が立っておられます。イエス様が僕を見下ろすカタチ、僕はイエス様を寝ながら見上げるカタチになります。

イエス様が僕の胸元をつまむようにしてグイッと引っ張り上げる

と、次の瞬間、イエス様が僕の靈体の胸元、太陽神經叢（たいようしんけいごう）あたりを指でつまむようにして、全然チカラを入れていない感じでフワッと僕の上半身を引っ張り上げて起こしたのです。

その、引っ張り上げられた時の感覚はすごくリアルでした。ひとことで言えばジェットコースターに乗っている時に感じる“G”と同じでした。肉体は寝たままで靈体のみ起こされたのですよ。

「わ、分かりました、起きてテキスト撃ちます」微笑むイエス様

で、この頃はすでにブログ、SNS等で靈的知識の拡散をおこなっていましたが、そのためには書籍の内容をテキスト化せねばならず、これが大変な作業なので、僕は「そんないっぺんにはできない」と、疲れて寝ていたのです。

ムリヤリ起こされて僕の目の前にイエス様が立っておられます。そのイエス様のご意志が分かったので「わ、分かりました、起きてテキスト撃ちます

汗…」と僕はあわててイエス様に言ったのです。



そ、そこまでしてテキスト撃たせますか…ムチャクチャしますね…

するとイエス様のお顔がたちまち「満面の笑顔」に変わったのでした。つまりブログ、SNSを使用しての靈的知識の拡散がまあまあの成果を上げているので「アキトくん、それもっとやってくれ♪」という事だったようなのです。

そ、そ、そこまでするか、僕はそのイエス様のご意志に圧倒されながらトランスを切って、本当に起きて机に向かってテキストを撃ち始めた、という事があったのです。

イエス様が「スピリチュアリズム普及の総指揮官」である事は、その当時すでに理解していましたが、この経験によって、イエス様の、靈的知識を物質界に普及する決意の強大さを思い知らされたのでした。

十字聖団体代表の女性。強引に握手させられる。泣いて喜ぶ守護霊様

靈性発現（2012年6月）から使命遂行開始（2014年7月）まで2年ものブランクがありますが、この2年の間に僕はさまざまな人生初の経験をする事になりました。

面識のないスーツ姿の女性と出会う、何を話したかは反芻できない

幽体離脱時、霊体の僕はある部屋にいましたが、そこに清楚なスーツ姿の女性が入ってきます。その女性が誰であるか、僕は全く分かりません。

そこで女性と僕との間で会話が交わされたはずなのですが、その内容は全く物的脳髄に持ち帰る事ができません。が、どうやら僕に“ある仕事”をお願いしていたみたいだ、という事だけは分かったのです。

僕は断ろうとしていた、しかし女性が強引に僕と握手してきた

で、僕はその女性にお願いされた仕事を明らかに“イヤがって”いて、オーケーの返事をせずにいたのです。すると女性は僕の方ににじり寄ってきて、強引に僕の手を取って握手してきたのです。

その、握手をした時の手の感触、女性の決意のようなモノが強烈に僕の物的脳髄に印象付けられていたのです。他のところはうまく反芻できないのに、その握手のところはすごく鮮明に思い出す事ができたのです。つまり“強調”を意味します。

つまり女性が僕にお願いしてきた仕事を、僕は断り切れなくて半ば強引に引き受けさせられてしまった、という感じだったので。

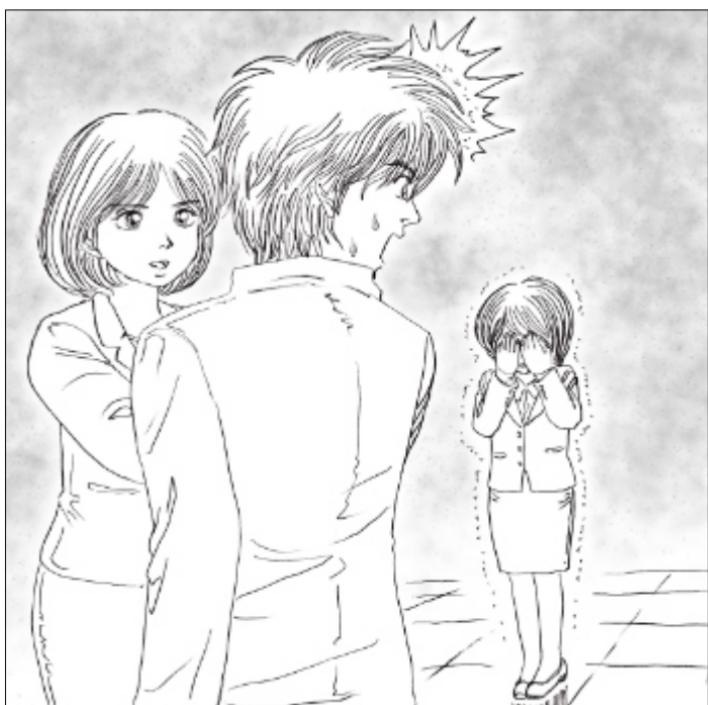


この強引ぶりが靈界側の必死さを表しているようなのですが…

その強引な握手の横で、その様子を見て泣いて喜んでいた女性がいた

僕が強引に握手させられて「まいといったなあ…」という感じで困っている、その横に、泣いて喜んでいたもうひとりの女性がいました。

その女性が他でもない、先ほど守護霊様との面会のお話をさせて頂きましたが、その1回目の面会の際の、同僚女性の容姿をマネた守護霊様だったのです。



守護霊様が泣いて喜んで下さる、これ以上光栄な事があるでしょうか…

つまり、ただ絵を描く事に全力だっただけの少年が、イエス様のご意志を遂行するまでに成長を遂げてくれた、その事を守護霊様が泣いて喜んでおられた、という事なのです。

幽体離脱から帰還してその意味を理解した時「守護霊様に喜んでもらえた」という部分はとてもうれしかったのですが、その引き受けてしまった事がどれほど重大な責任を帯びていて、キビシイ試練を伴うモノであるか、

当時の僕は全く理解していませんでした。

「十字聖団体」というモノを初めて知った、経緯は忘れましたが…

で、どういう経緯で知ったのかはもう忘れてしましたが、強引に握手してきたスーツ姿の女性は「十字聖団体」の代表という事を知ったのでした。

十字聖団体と言えば、僕がお勉強した限りの知識によると確か、靈界に存在するイエス様直属の組織、という風に理解しています。絵が好きなだけの少年が、そのイエス様直属の団体の代表から仕事を賜ってしまったのです。もちろん「聖なる仕事」という事になります。

これはとんでもない責任を帯びてしまった、という事をあとになって思い知らされる事になるのですが、当時の僕は、このさき自分が味わわされる苦難を全く理解しておらず、ただ一刻も早く絵に戻りたいと思うばかりなのでした。

超広大な公演会場。なぜ靈体で老婆の姿？ドルカスか？

この2年のブランクの時には、さらに幽体離脱にて印象に残る体験がありました。僕が靈体で赴いたところは、島ひとつがまるまる公演の舞台になっているような場所でした。レセプション専用の島、という感じでしょうか。

そこで何かしらの会議か公演が行われたのですが、僕は全く反芻できず

僕はその島で行われた催しに参加した…らしいのですが、その内容が全く、全く、何も反芻できません。要するに次元が全く違うので3次元の物的脳髄で理解できない内容という事なんだと思います。

ただ、靈団が無意味に靈体の僕をそのような場所に連れて行く訳がありませんから、もちろん僕という道具を使用しての使命遂行に関する講演だったんだろうと思います。肉体の僕は分からなくても靈体の僕はしっかりと理解している、という事だと思います。

ステージに立つ老婆、靈体は形態を自由に変えられるのなぜその姿？

で、その講演の内容でひとつだけ物的脳髄の持ち帰る事ができた内容がありました。それはステージ上で観客席の人々（僕もその中にいます）に向かってお話をしている“老婆”的姿でした。

僕はこの時点であまあの靈的知識を獲得していましたので、この老婆の姿に大いに疑問を感じたのです。

靈体というのはだいたいにおいて物質界生活時の全盛期の頃の容姿をまとめるモノ、という風に僕は勉強していました。だいたいみんなハタチ頃の姿をまとうのが通例であるはずなのに、ステージ上の女性はかなりヨボヨボの

超広大な公演会場。なぜ靈体で老婆の姿？ドルカスか？

老婆の姿をしているのです。



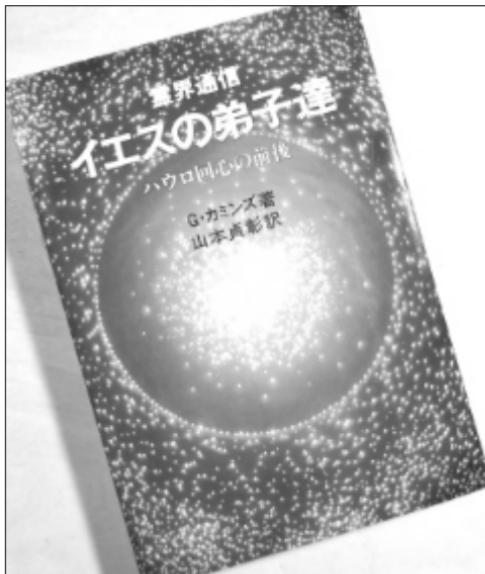
その会議の中でまともに物的脳髄に持ち帰れた映像はこの老婆のみだったのです

僕はずっとブログで「行動には動機がある」と公言していますが、このステージ上の女性が若かりし頃の姿ではなく、わざわざ老婆の姿をまとったのには「意味」があるはずだと思ったのです。

で、僕の幽体離脱に向けてのメッセージですから当然、僕に向けられた意味だと思ったのです。で、僕は靈関連書籍「イエスの弟子達」の中の「27ドルカスの物語」というストーリーが大好きで、確かこの頃も読んでいたのではないかと思います。

もしや、あの老婆は「ドルカス」では？

そのストーリーの説明はここでは割愛させて頂きますので、ぜひ書籍をお読み頂きたいと思いますが、ドルカスと言えば、イエス様の物質界生活時、イエス様の説いた福音を汚れた街ヨツバに広めようとした、女性として初めての「イエス様のご意志の遂行者」として紹介されています。



※イエスの弟子達「27 ドルカスの物語」参照

そのドルカスが、十字聖団体の重要なポストに就いている事は想像に難くないのですが、僕が幽体離脱時に見た、あのステージ上の老婆は、もしかしたらドルカスの使命遂行時の老婆の姿だったのではないか。僕に分かるようにわざと老婆の姿をまとったのではないか、などと思ったりもしたの

超広大な公演会場。なぜ靈体で老婆の姿？ドルカスか？

でした。

その島で行われたレセプションは、さぞ豪華絢爛だったろうと予測されますので、ぜひ多くの出来事を反芻したかったのですが、とにかくそのドルカスと思われる老婆、以外は全く何も思い出せないのが残念でなりませんでした。

幽体離脱時に細身のシルバーのクロス（十字架）を賜る

僕はブログでたびたび公言していますが「宗教」の類を心底嫌いしています、日常生活において宗教臭の漂うモノには絶対に近付かないようにしています。

僕は自分が「デザインの世界の人間」である事に強い誇りを持っていて、『「宗教的なモノと関係ある」と思われるのが心底ガマンならないのです。

そんな僕ですから、今まで生きてきて1度たりとも聖書を読んだ事はなく、教会にも通った事はなく、宗教を思わせる物品を所持する事にも全く興味がないのです。

アクセサリーの類も大キライ、十字架のネックレスを首にかけるなどもってのほかなのです。

幽体離脱時、靈体の僕の首に細身のシルバーの十字架がかけられている

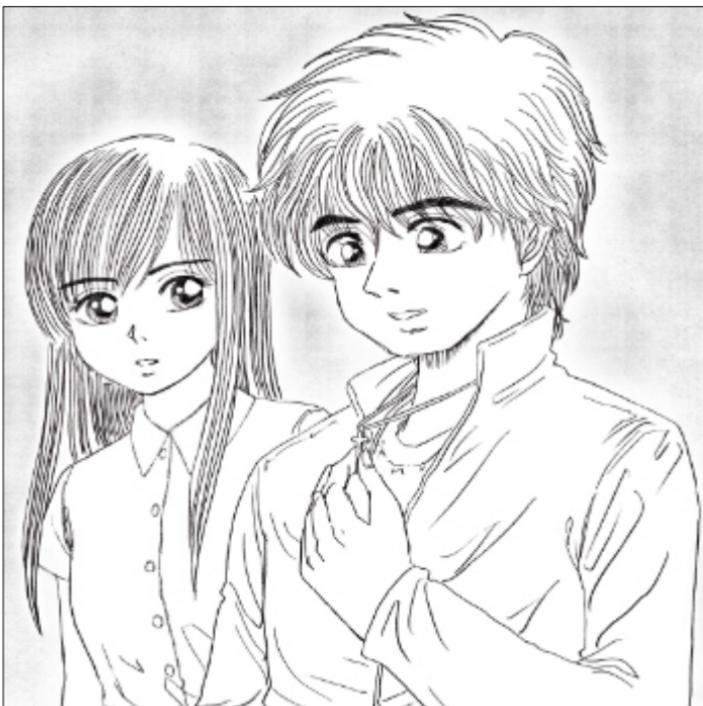
その僕が、どういう事でしょう、幽体離脱時に「細身のシルバーの十字架（クロス）」を首にかけているのです。靈体でのお話ですよ。これには肉体の僕もビックリ。

しかも靈体の僕は「まんざらでもない」感じでいるのです。離脱帰還後に物的脳髄で反芻しながら、僕は自分の行動に大いに疑問を持ちました。

「これスゴク似合う」と靈体の僕が言っていたのですが、これはおかしい

で、その幽体離脱時に靈体の僕と一緒にいた方が数名いたはずなのが、そこが全く反芻できません。しかしこの瞬間、僕は自分でも耳を疑う事

を言ったのです。



こういう女性がいた、のかも知れませんが反芻はできませんでした

「これスゴク似合う」これ、とはもちろん首にかかっているシルバーのクロスですよ。肉体の僕は「僕がこんな事を言うはずがない」と驚くのでした。

正直訛然としませんが、それ以来、十字架を絵に描き続けているのです

なぜ肉体の僕の思考と正反対の事が靈体に起こっているのか、いまだに意

味が分からないのですが、たとえ靈体の首にはシルバーのクロスがついていたとしても、肉体の首には断じてそういうものはかけないのでした。

が、靈団も意味があって僕に対してそういう事をしたはずですので、それを全く無視する訳にもいかないという事で、僕がいつも描いている靈体の絵には、必ず首にクロスを描く事にしたのです。

まあ、肉体と靈体の「キャラの描き分け」と思って頂ければと思います。靈体の僕は、その「シルバーのクロス」を賜った状況を把握しているはずで、それは光栄の極みの状況だったはずなのです。しかしまるっきり覚えてません。



僕は宗教大キライ人間ですから、こういうモノを首にぶら下げるのは有り得ない

自分が靈媒として仕事する事を具体的に考え始める。支配靈バーバネル氏

この時点では、まだ使命遂行開始前です。靈的仕事は全然始まっていませんが、あらゆる靈現象に浴させて頂きながら日々を送っていましたので、イヤが上にも「僕は靈媒として仕事ができるのだろうか」という考えがよぎるのです。

ココまで靈的状況に突入しているという事は、もうやるしかないのでは

なにしろ「シルバーバーチの靈訓」を読み続けて、その内容の美しさ、素晴らしさに感動しまくっていましたので「こんな素晴らしい靈言が自分という靈媒から降ってきたら、どんなにいいだろう」という気持ちがイヤでも湧き上がってくるのでした。

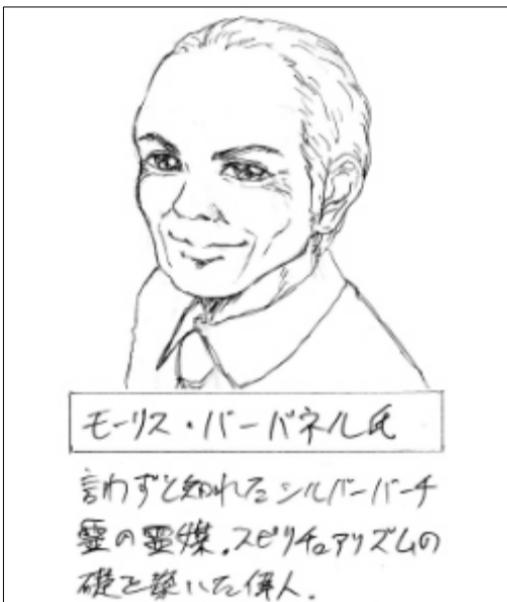
とはいって、靈言を降らせる作業というのは「靈界主導」でおこなわれるものであり、物質界の靈媒は「単なる通路でしかない」という事も知識として知っていましたので、僕がやりたいと思ってみたところで、どうしようもないでした。

バーバネル氏らしきインスピレーションが複数降るも僕は信用できず

「バーバネル氏」とは、皆さまご存じの事だと思いますが、かのシルバーバーチ靈の靈媒、ミスタースピリチュアリズムの異名を持つ英國紳士モーリス・バーバネル氏の事です。

その後、トランス時に「アリ？ これってバーバネル氏では？」と思えるようなお顔の顯現があつたり、今までの靈団メンバーとは明らかに違う、キビシイ何者かの存在を感じ取るようになっていきました。

しかし、それがバーバネル氏であると確信するまでには至りませんでした。当時、僕がトランス時に拝したお顔のイメージをこのように絵に描いています。



当時はこのようにお姿を拝しましたが実際は全然違うと思います

もしかしたらこの人物はバーバネル氏かも知れない、だとしたら僕を靈媒として使うつもりなのではないか、と思ったりもしましたが、結局何事もないま何年もの歳月が流れていくのでした。

ちょうどこのタイミングでポリーチェ (POLICE) に捕まった

バーバネルらしき人物が靈団の中にいるような気配感が漂っている時、車を運転中に「スピード違反」の検問に引っかかって、ポリーチェ（POLICE）に出頭を命じられて罰金を取られるという事がありました。

僕はしょんぼりしながらもちろんそれに従つたのですが「これは新たに靈団に入ってきた人間がやったんじゃないのか」という疑念が湧き上がってくるのでした。タイミングがピッタリだったのですから。

バーバネル氏に対する“不信感”が心から消えず

しかし結局その因果関係は分からずに終わりました。そしてその後もバーバネル氏らしき人物からのインスピレーションが降り続け、どうやらバーバネル氏が「僕の支配靈になった」ようだと理解するに至りました。

とはいえ僕は靈的知識をお勉強していましたので、シルバーバーチ靈がバーバネル氏を使用して靈言を語れるようになるまで長い年月を要している事も知っていました。

バーバネル氏、と思われる人物も、僕の幽体と融合して僕を操作し、自由に靈言を語れるようになるための練習に多大の時間を要していたようですが、靈性発現から10年以上が経過しているにもかかわらず、僕という靈媒が発動する兆しすらありません。

そして僕の心中に「バーバネル氏に対する不信感」がどんどん芽生えていくのでした。現在はもうバーバネル氏が僕の支配靈という事を全然信じなくなつてしましました。なにも降ってこないのでから信じなくて当然でしょう。

「山をナメるな」イエス様からのキビシイ忠告。バナナ行動食大失敗

山に向かう前日でした。ザックの準備をすっかり終えて、登攀の体力確保のためにたくさん寝なければいけないという事で、早めにふとんに入っていました。

バナナを山の行動食にする事を思い立つ

ザックに入れる行動食およびドリンクは昔も今も大いに頭を悩ませるモノですが、その時は「バナナ」を行動食としてテストするつもりでいました。

バナナの皮をむいて実をラップに包んだものを準備していたのですが、その後、ふとんに横になっているトランス時に「山をナメるな」というキビシイお言葉のインスピレーションが降ってきたのでした。



以前撮っていたムービーからのキャプチャです

イエス様からの「山をナメるな」のインスピレーションの意味が分からず

確証はないのですが、これまでたびたびイエス様からのモノと思われるインスピレーションを受け取ってきました。

それらインスピレーションは「はるか星辰の彼方から響くハープの多重奏」のように靈聴に聞こえるという共通の特徴がありましたので、そういう風に聞こえた時はイエス様からのメッセージと受け取るようにしていたのです。

で、今回の「山をナメるな」というキビシイお言葉も、遠くから複数の音源が折り重なって聞こえるような聞こえ方でしたので「イエス様からの警告だ」と解釈したのです。

もっともイエス様ご本人が僕などというお子ちゃまにインスピレーションを直接降らせるという事はありません。

イエス様ほどの方になれば当然、自分のご意志を遂行するために部下である天使を活用しますので、この遠くから響く声の主はイエス様のご意志を届ける仕事をしている天使の方の声、という事になるのかも知れません。

ただ、山の出発前のこの時は「山をナメるな」の言葉の意味が分からないのでした。そしてそのまま山行をスタートさせます。

皮をむいてラップに包んだバナナをザックに入れてスタート…え？

ザックには前日に用意した「ラップに包んだバナナ」が入っています。僕がいつも山にいる時間は8時間くらいで、1時間おきにザックの中のドリンクと行動食で補給しながら進みます。

7時間経過の時点でザック内にわずかにドリンクと行動食が余っている状態で、それを「まさかの時の予備分」として、最後はそれを食べずにゴールするというのがいつものパターンでした。

何じゃコリヤ？バナナがゲル化してる。山で食べるモノがないピンチに

で、最初の1時間目のタイミングでザックを下ろしてさっそくバナナを食べようとするのですが「アリ？」ラップをめくると固形物がないのです。



これは何ですか？レンジから取り出したみたいに完全に液体、ゲルだったのです

ラップの中身はバナナだったはずなのですが、もはやバナナではない、茶色いゲルがドロッと手から地面に流れ落ちていくのです。「これは何だ?」僕は“あぜん”とします。

まあ、カタチは個体でなく液体でも、山で行動し続けるためのエネルギー源にはなるはずだと思って、そのゲルを何とか吸おうとするのですが、あまりにもドロドロで、すでに手から流れ出てしまっているので吸う事すらできません。

「これはとても食べられたモノではない」という事で、仕方なくドリンクのみを補給してそのまま予定通りのコースを進むのですが、今日ザック内に用意していたバナナはすでにすべてゲル化しており、今日、山で食べる行動食が何もない事が判明してしまっています。

つまり今日はもう山で何も食べられないという事で「これはこのまま進んだらマズイ事になるかも知れない」という考えが頭によぎりつつも、せっかく山に来たのにそんなに早く引き返す気になれば、しばらくは山の奥へ奥へと進み続けたのです。

しかし、さらに進んでいくつもの登攀セクションを突破しながら「このまま進んだら相当ヤバイ事になる事は確実…」僕の心にドンドン危機感が襲ってきます。

危うく山で行動不能に陥りかける「山をナメるな」 そういう事か…

そして「もうこれ以上はムリだ」とようやくあきらめて、来た道を引き返し、予定より早くゴールしてしまったのでした。

しかし、やはり引き返して正解、その日は山で何も食べる事ができず、ゴールした時はかなりエネルギー枯渇状態でしたので「もうちょっと引き返すのが遅かったらヤバかったかも知れない」と冷や汗をかいたのでした。

「山をナメるな」そういう事だったのか…僕は前日のイエス様の警告の意味が分かって身震いしたのでした。

バナナは、皮に包まれている時だけ固形を維持するものであって、皮から出すと固形でなくなるという事を、この時はじめて知りました。山でバナナを行動食にするなら、皮のまま持って行かなければならぬという事だと思います。

この経験によって「山をナメるな」というイエス様の言葉が僕の「座右の銘」となり、いつもの行き慣れた山域に赴く時、天候が良くて特に心配する要素がない時でも「山をナメるな」の言葉を思い出して、基本に忠実にしつかり準備するようになったのです。

「個人年金解約」もう帰幽するんだから、という事だったのに

靈性発現（2012年6月）以来、僕はずっと靈団に「間もなく帰幽する」と言われ続けてきました。しかし2025年現在でも帰幽できていませんから、靈団がこう言い続けたのは「暗殺の恐怖を克服させるため」だったのではないかと予測するのです。

死の恐怖を克服した精神的境地に到達させるために、僕に靈的知識をお勉強させて、その知識に基づいて「肉体の死後も靈界での人生が続く、人間に“死”はない」という事を心底から納得させようとしていたんだと思います。

※暗殺の恐怖を克服する意味については、第3章からの“使命遂行”にて明かされます。

靈団にずっと帰幽帰幽言われ続けていて僕が取った行動とは

で、僕は物質界に残り続けるつもりが全然ない、一刻も早く帰幽して靈界生活に突入したいという心境に到達し、ブログの中で「帰幽力モン」と公言するようになっていったのです。

「帰幽」肉体を脱いで靈界生活に戻る「カモン（Come On）」早くその日が来てほしい、という意味でこのような事を言い始めたのです。

もう帰幽するのに年金払い続けるの、おかしくね？という事だった

靈団に帰幽帰幽言われ続けて、僕の中に「間もなく帰幽すると分かっているのに年金を払い続けるのはおかしい」という疑問が湧き上がります。

その当時、僕は少ないお金を工面して「個人年金」というモノをやってい

ましたが「これを払い続ける事ほど無意味な事はないな」と思うようになつていきました。

そして「個人年金」を解約した、本当に失敗だった

僕は間もなく物質界を離れられると完全に信じ切っていましたので（こんな長期間にわたって閉じ込められるなどとは夢にも思っていませんでしたから）「コレ無意味だな、もうやめよう」と、個人年金解約をかなり即決で決断してしまったのでした。

靈団の言う事を信じた僕がバカだった、という事になるのですが、解約したのに一向に僕は帰幽しません。こいつはやられた、と、あとになって気付く事になるのでした。

フランスに行けとイエス様に何とも言えない表情で言われる、その理由は

個人年金解約で、今まで支払っていたモノが戻ってきて、少しまとまつたお金が手元に入ってきました。

たいした金額ではありませんでしたが、僕は間もなく帰幽するんだからこんなモノは関係ない、と、全然頗着しないでいたのです。すると、そのタイミングでイエス様が思いもよらぬ事を言ってきましたのです。

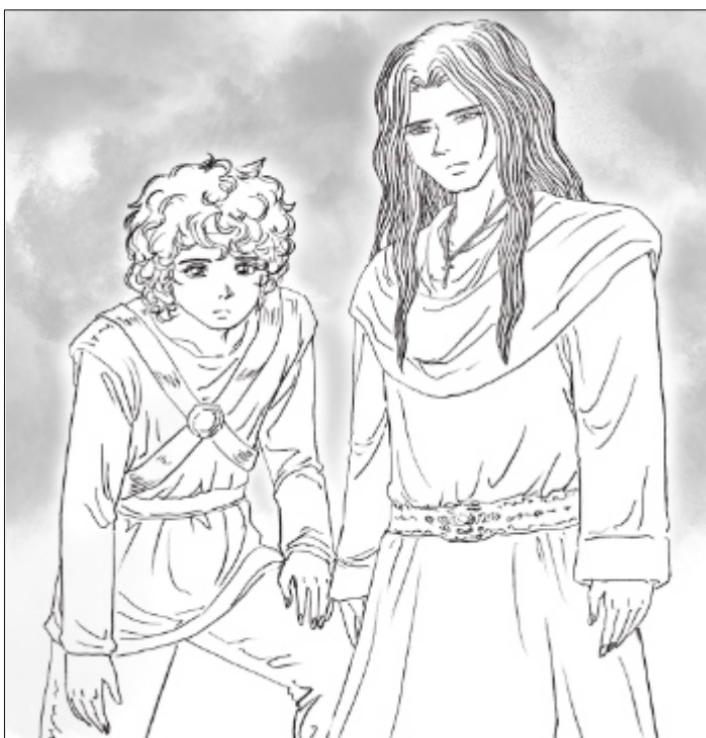
ピッタリそのタイミングで「フランスに行け」とイエス様に言われる

ある日のトランス時、イエス様がもうひとりの天使さまを引き連れた状態で顕現し、何とも言えない複雑な表情で「フランスに行きなさい、フランス語のお勉強を開始しなさい」と言ってきましたのです。

僕はそう言われてひとこと「ハア？」となるのでした。それはそうです、僕は絵に人生の全てをかけていたのであり、フランスという国にも、フランス語という言語にも、今まで生きてきて1度たりとも興味関心を抱いた事がなかったからです。

そのイエス様の表情は、明らかに困っていました、申し訳なさそうにしていました。イエス様の横におられる若々しい男性の天使さまも同じ表情を浮かべていました。

たぶんフランス語圏で生活していた経験のある天使さまなのではないかと思われますが、僕はおおいに首をかしげる事になります。



イエス様と天使様が、あからさまに「申し訳なさそうな」顔をしておられたのです…

「おかしいなあ」と思いつつもフランス語のお勉強を開始

なぜ生まれて1度も興味を抱いた事のないフランス語を1から勉強しなければならないのか。全く意味が分かりません、イエス様から理由の説明もありません。

フランスに行けとイエス様に何とも言えない表情で言われる、その理由は

が、その当時から僕は「自分がもし靈媒として機能するなら、どうすれば交靈会を開けるだろう?」という事を考えたりしていましたので「要するにフランスにサークルメンバー候補の人間がいるので、そこに行け」という事だろうと予測したのです。

そして究極に首をかしげつつも、フランス語の教材を買い始めたのです。その教材購入費用は、近々戻ってきた個人年金の払い戻し金でした。

フランス語の難解な発音がどうしても好きになれない

お勉強を開始して真っ先にイヤな思いをさせられたのが「フランス語の難解な発音」でした。僕はこの発音がどうにも好きになれませんでした。

しかし、イエス様に言われたのだから仕方ない、という感じで、不愉快な気持ちを心に宿しながらもお勉強を続けていたのです。

わざわざ買った本を、ムカついて何冊も破り捨てた

手元にお金がありましたので、次々と教材を買い足していくのですが、もともと興味がないジャンルのお勉強だった事、そして何より発音がどうしても好きになれないという事で、僕の心の中は次第に怒りの渦に包まれていくようになっていきます。

そしてついにはガマンしきれなくなって、買ったばかりのフランス語書籍をビリビリに破って捨ててしまったりするのでした。それくらい僕はイヤがっていたという事です。

スピードラーニングも入手して聞き始めます。すると靈聴に…

なぜ僕はこんな事をやっているのだろうという思いに日々苦しめられながらも、ついには音声教材の「スピードラーニング」まで入手して聞き始めました。

確かにこの音声教材は分かりやすい、覚えやすいと思いましたが、それとフランス語の難解な発音を好きになる事とは別問題で、僕はずっと不愉快の中でその音声教材を聞き続けました。

すると、あるトランス時、靈聽に、その音声教材の中のフランス人男性の声で「ピヤン、スユー」と言ってくるのです。どういう意図でそういう事を言っているのかは分からなかったのですが、要するに「その調子でお勉強を続けなさい」という事だったのかも知れません。

その教材の中のフランス人男性が靈団の中にいるとか、そういう意味ではなくて、その男性の声色を靈団がマネして僕の靈聽に響かせているという事ですよ。わざわざしげめんごくさい事を、と思いましたが…。

フランス人女性が「プティ、セボン♪」と言ってくる

さらにトランス時、金髪のフランス人女性が僕に「プティ、セボン♪」と言ってくる映像が降ってきました。この意味がいまだによく分からないんですけども。

他にも複数のフランス人女性が顕現してくださったのですが、もうだいぶ昔の事ですので細かい事は忘れてしまいました。

アレコレ教材を買っているうちに個人年金で戻ってきたお金が…

フランスに行けとイエス様に何とも言えない表情で言われる、その理由は

本を買っては破り捨て、高価な音声教材にまで手を出して、まとまって入ってきたお金はまたたく間になくなっていました。そして、わずか2ヶ月でスッカラカンになってしまったのでした。

僕の怒りは頂点に。忍耐の限界でフランス語のお勉強をやめてしまう

それはもう頭にくるんですよ、せっかく入ってきたお金が意味不明の理由であつという間に消えていったのですから。僕はもう完全にキレてしまつて、スッカラカンになったその2ヶ月のタイミングで、フランス語のお勉強をやめてしまったのでした。

「フランスに行け」と言ってきた本当の理由が分かった

で、その当時は分からなかつたのですが、それから数年後に「ああ、あの時はそういう事だったのか」と意味を理解したのでした。

それは、イエス様が僕に「フランス語をお勉強しなさい」と言ってきたのは、僕をフランスに行かせるのが目的だったのではない「散財」させるためだった、という事です。

イヤ、もし僕がフランス語を好きになって順調にマスターしていいたら、本当にフランスに行かせてそこでサークルメンバーを集めるつもりだったんだろうと思います。

しかし、イエス様はじめ靈団は僕の心の中が全て見えていますから、僕がフランス語を好きになる可能性は限りなくゼロに近い事は、最初から分かっていたはずなのです。

ですので、僕にフランス語のお勉強をさせた第1目的は「散財」で、もしか

してお勉強がスムーズに進んだ時の「保険」として「フランス移住」の可能性も残していた、という事だと思います。

靈関連書籍でお勉強して頂ければ分かる事なのですが、靈的仕事をする者は、例外なく困窮の中に身を置かされます。これは100%そうなると断言していいと思います。

もし笑いが止まらないくらいお金がたまるようになったら、それは低級靈に手玉に取られていると考える必要があります。高級靈であればあるほど、お金とは縁のない生活をさせようとするものなのです。

僕の場合、靈団が意図しなかった「予定外のお金」がふところに入ってきて、それをあわてて散財させる必要性が生じて、苦肉の策でフランスナンチャラカンチャラと言ってきたのでしょう。

イエス様の「何とも言えない表情」の意味も分かった、そこまでするか…

あの、僕にフランス語のお勉強をしなさいと言ってきた時のイエス様は、何とも言えない表情をしておられました。その表情の意味も数年後にやっと分かったのでした。もっともイエス様の意図のホンの数パーセントを理解したに過ぎないのでしょうが。

散財させるためにそこまでやるのか、怒り、そして驚愕

この「フランス語のお勉強」の一件は、僕にさまざまな体験をさせる事となりました。まずお金をなくすためにそこまで強引な事をやってくると知つて驚きました。

そして興味も関心もなかったお勉強をムリヤリやらされて不愉快のど真ん

フランスに行けとイエス様に何とも言えない表情で言われる、その理由は

中に突き落とされた事に対して強い怒りも覚えました。

イエス様に言われた事ですので何とかやり切ろうという思いもあったのですが、イヤー、僕にはあのお勉強はムリでした、とても続けられませんでした、全く肌に合いませんでした。

「フランス行け」と言ってくる時点で僕が使命遂行者ではない証拠になる

この「フランス語のお勉強」は、このようにたった2ヶ月で終了してしまったのですが、この経験のおかげで分かった事がいろいろとありました。

まず、僕がもし靈的使命遂行者として“選ばれて”物質界に降下した人間だとしたら「靈的仕事をする環境が整っているところに降下するはずだ」という事です。

靈媒として機能しようと思ったら“サークルメンバー”的存在が欠かせませんので、靈界で計画を立てる時点でサークルメンバー候補の人間たちと打ち合わせができるいるはずなのです。

使命遂行者なら靈的仲間とともに同地域に集団降下しているはず

そしてそのチームメンバーたちと共に同時代に同地域に降下して、幼少時から親密な関わり合いをもって信頼関係を築いていき、成人と一緒に靈媒活動、そういうストーリーにするのが当然だと思うのです。

ところが僕の場合は靈的仲間と呼べるような人間は周囲に全くいません。僕は完全に孤立の状態で修行して靈性発現を果たしたのです。

ですのでサークルメンバー候補の人間など周囲にいるはずもなく、その時点

で僕が「選ばれて物質界に降下した人間ではない」という事が分かります。

見ず知らずの土地に単身飛び込まないと靈的仕事ができないのはおかしい

そしてイエス様が「フランス行け」と言った事で、僕が使命遂行者ではないという事がさらに理解できました。

その場所では靈的仕事はできないから少しほは靈的仲間のいるフランスに行きなさい、そう言ってくる時点でおかしいという事になるからです。

この経験で、僕が「選ばれて物質界に降下した靈的使命遂行者」ではない、守護靈様の導きが上手すぎて靈性発現に到達してしまった「まぐれ当たりの少年」だという事がハッキリ分かったのでした。

ひとつだけ良かった事は「フラー」をデザインするキッカケになった事

この経験は僕の中でトラウマであり、思い出したくもない最悪の体験だったのですが、ひとつだけ「お勉強してよかったです」と思える事がありました。それは「フラー」をデザインできたという事です。

僕は長年にわたって「宇宙一のバカ」大量強姦殺人魔、明仁、文仁、徳仁、悠仁の邪悪の正体を拡散する作業を続けてきましたが（この使命遂行の詳細は3章でお話致します）その情報拡散の一環として「絵」をたくさん描いてきました。

その中に「アナログ絵35」があります。強姦殺人魔、明仁、文仁、徳仁、悠仁を「ハンドライトクロス+」という技で一刀両断する絵を、この時初めて描きました。

フランスに行けとイエス様に何とも言えない表情で言われる、その理由は



「ハンドライトクロス+」まあ、強姦殺人魔を滅ぼす必殺技、という感じですね

「ハンドライトクロス+」のバリエーションとしてフラーをデザインした

この「ハンドライトクロス+」は、この先たくさん描いていく事になり、絵としてもバリエーションが必要になっていました。

そこで「ハンドライトクロス+のバリエーション」として僕が考えたのが「ロボットでハンドライトクロス+」というアイデアだったのです。

僕は「ロボット少年」で、幼少時からロボットの絵ばかり描いていましたので（詳細は1章で書かせて頂きます）「ハンドライトクロス+ができるロボットを描こう」と、ごく自然に発想したんですね。

で、靈界には戦争などという愚劣なモノは存在しませんので「戦わない、武装のないロボット」をデザインしたい、という事で考えたのが「花」をモチーフにした変形ロボットでした。

そしてそのロボットの名前を、わずか2ヶ月のお勉強で得たフランス語の知識を活用して「FLEUR（フラー）」としたのです。

花のカタチをした飛行形態からロボットに変形するこの「フラー」を、なぜか靈団が推すようになり（使命遂行のスピードを遅らせる意図があったモノと推測されます…）僕は元々デザインの人間ですので「描く事は生きる事」とばかりに次々とフラーをデザインしていきました。

気付いた時にはフラーの機体数は30機以上に

僕は新規のフラーを次々とデザインしていき、機体数が勝れ上がっていきました。それとともにストーリーもたくさん描く事になり、世界観がドンドン固まっていました。現在はフラーの機体数が30機以上になっています。

このフラーのデザインは使命遂行とは直接関係ないモノですが、ドリームワーク（画家の人生）をやめさせられた僕にとって、フラーを描き続ける事が心の救いになった事は間違ひありません。（ドリームワークについても1章でお話させて頂きます）

フランス語のお勉強はイヤな事ばかりですぐやめてしましましたが、あのお

フランスに行けとイエス様に何とも言えない表情で言われる、その理由は

勉強がなかったらフラーを描く事もなかったかも知れません。そういう意味で「あれはあれでよかったのかも知れない」と思うようになったのでした。



昔、靈団が「フラーが完全変形キット化する」とか寝言を言ってましたけども…

震災の津波で帰幽した女の子「野川萌」ちゃん

幽体離脱時に僕はいくつもの出会いを経験していますが、その中でも印象に残っているものを紹介させて頂きます。

幽体離脱にて「野川萌」ちゃんという女の子と出会う（アナログ絵22）



野川萌ちゃんに関する情報は一切受け取っていない状態でいきなりの出会いでした

離脱中の靈体の僕は、あまり起伏の激しくない林道のようなところを歩いていました。その僕と並んで歩くひとりの女の子がいました。

その女の子は「野川萌（のがわ もえ）」ちゃん（幽体離脱から帰還してトランスを維持している時に名前の漢字のイメージが降ってきたのですよ）という名前だと分かりました。

この出会いの様子を当時、絵に描いています。この絵にそっくり、とまではいきませんがまあまあ雰囲気を現した絵だと思います。スポーティで活動的な女子、という感じでした。

萌ちゃんが作曲したと思われる特徴的な歌を聞いた

萌ちゃんは僕と一緒に林道を歩きながら、物質界では聞いた事のない特徴的な曲を歌い始めます。萌ちゃん作曲だそうです。

靈界には物質界には存在しないオクターブが多数存在し、物質界の音楽よりもはるかに荘厳なメロディなのだとですが、それを靈体の僕は聞いたのですが物的脳髄に持ち帰る事ができません。

メロディのごく一部だけかろうじて反芻する事ができたのですが、それでも物質界の音楽とは明らかに違う響きを持っていました。その、萌ちゃんが歌ってくれたメロディがどんなものだったのか、文章では表現できません。

萌ちゃんが震災の津波で帰幽した時の様子を映像で見せられた

林道から住宅街のようなところに入ってきた時、萌ちゃんの帰幽時の様子を映像で見せられたのです。

東日本大震災で、津波の大被害の映像を皆さまもご覧になった事があると思いますが、萌ちゃんは「あの津波」に飲まれてあっという間に帰幽してしまったのだそうです。

アナログ絵22の中にも少しそのシーンを描いていますが、萌ちゃんはその時はさぞ怖かっただろうと思いますが、僕と会っている時の萌ちゃんはとても明るい様子でした。

物質界に残されるより、帰幽して靈界生活に戻った方がはるかに幸せですので、萌ちゃんの死を嘆くのは間違います。僕と会っている時の明るい萌ちゃんを見ればそれが一目瞭然で分かります。

「すっごく幸せ♪」トランス時の僕に萌ちゃんがシャウトしたのです

萌ちゃんとどのような時間を過ごしたか、そのすべてを物的脳髄に持ち帰る事はできませんが、かろうじて反芻できた一部分だけでも、萌ちゃんに悲しんでいる様子が全くない事がよく分かりました。

そしてトランスを維持している時、靈聴に、萌ちゃんの声で「すっごく幸せ♪」と聞いたのです。

それは現在の靈界生活が幸せ、という意味でしょう。お友達もイッパイいて、毎日が新しいワクワクのお勉強の連続なのでしょう。

靈関連書籍をお読み頂ければ、幼くして帰幽した子供たちの靈界での生活の様子を、断片でしょうか理解する事ができます。

「野川萌」ちゃんが実在の女の子か確認は取っていない



WordPressのアナログ絵ストーリーで、野川萌ちゃんを歌手として登場させています

野川萌ちゃんの物質界生活時の情報が何か残されていないか、僕なりにかなりググったりしましたが、全く何の情報もつかめませんでした。

萌ちゃんが生前にブログやSNSをやっていなかったので何の情報も残っていないという事なのか、もしくは萌ちゃんを含めた一家全員が津波に飲まれて帰幽したので全情報が消滅してしまっているという事なのか、真相は分かりません。

が、僕は幽体離脱にて、幸せそうな「野川萌」ちゃんという女の子と出会っている、萌ちゃんの歌も聞いている、と書き残しておこうと思います。萌ちゃんは実在の女の子です。断じて僕の妄想などではありません。

2章まとめ 靈性発現初期の頃の総括

まずは靈性発現（2012年6月）から靈的使命遂行開始（2014年7月）までに僕が体験した（させられた）靈的事象について、できる限りの解説をさせて頂きました。

思い出したくない、掘り下げて説明などしたくない内容がたくさんあり、テキストを擊つのが苦痛でしたが「文章で表現できないところを絵でカバーする」作戦によってかろうじてここまで辿り着きました。

まだ仕事らしい仕事は何も始まっていない、僕の教育がメインだった

3章からいよいよ靈的使命遂行の様子を紹介させて頂くのですが、靈性発現からの2年間は「特に仕事らしい仕事はしていない」という事がお分かり頂けたのではないかと思います。

なにしろ僕は幼い頃から靈能を發揮して神童のように生活していた、とか、そういう事が一切ありません、ただ絵を描き続けていただけの少年でしたので、靈的知識も全く頭に入っていますし靈的体験も皆無です。

その僕に対して靈団が「お勉強の期間」を設けたのが、この最初の2年間だったのではないか、と思ったりもします。

本読め、本読め、ずっと言われ続けていました。そのおかげで自分の身に何が起こっているのかをだいぶ理解できるようになりました。

とにかくずっと帰幽帰幽言われ続けていたので物質界を離れると思っていた

この最初の2年間の最大の特徴は「ずっと“間もなく帰幽”と言われ続けてい

た事」だと思います。

これだけしつこく帰幽帰幽と言われれば、誰だって「ああ、僕は間もなく死ぬんだ」と思うに決まっています。

しかし明けても暮れても僕は死にません。「アリ?おかしいな」と僕はドンドン首をかしげていく事になり、靈団に対する不信感も膨れ上がっていきました。

この頃はまだ自分の未来について何も知らずにいた

この最初の2年間に、この先の僕が味わわされる未来をどうして想像できたでしょうか。インスピレーションしかり、幽体離脱しかり、法悦状態しかり、すべては人生初体験なのですから予測などできる訳がありません。

ただ「修行の末に靈性発現を果たしたんだから、多少は“イイ感じ”にさせてもらえるのではないか」という淡い期待が心のどこかにあったと思います。

その期待が、こうも無残に破壊される事になるとは…僕にとってまさに“寝耳に水”だったのです。

※「試し読み」サービスPDFはココまでとなります。
続きは書籍にてご覧下さい。

